

II 調査結果

Ⅱ 調査結果

1 政策の満足度、県政への要望調査

県の政策や県政運営に係る項目について、県民の満足度と要望を尋ねた。

調査項目は、県の総合計画である「元気とやま創造計画ーとやま新時代へ 新たな挑戦ー」（平成30年6月）の政策を中心に、計73項目を設定した。また、その73項目を「経済対策・産業振興」、「少子化対策・地域づくり」、「医療福祉、環境保全、防災対策」、「人材の育成」、「県政運営」の5区分に大別し、さらに「産業」、「交流・物流」、「まちづくり・観光」、「子育て・教育」、「県民活動」、「地域づくり」、「健康・福祉」、「環境」、「安全・安心」、「人づくり」、「県政」の11領域に整理した。

なお、分析では、満足度の評価は「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合せた数値を、反対に不満度の評価は「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合せた数値をそれぞれの評価の尺度（指標）としている。

(1) 政策の満足度

問1 あなたは県の政策に対してどの程度満足していますか。以下の項目それぞれについて、右の欄の1～5の中からあなたの満足度合いに最も近いものを1つ選んでください。

ア 満足度の高い政策

- ・満足度の上位を見ると、「14. 北陸新幹線の整備促進」が42.3%と最も高く、次いで「54. 水資源の保全と活用」が26.0%、「50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進」が25.3%の順となっている。
- ・前回調査と比べると、「32. 芸術文化の振興」は19.3%と0.7ポイント減少しているものの、21位から8位に順位を上げている。

図表1 政策の満足度(上位10項目)全体

単位:%

順位	区分	領域	項目	満足度	前回 (R4年度)
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14. 北陸新幹線の整備促進	42.3	45.5 (1位)
2	医療福祉・環境保全、 防災対策など	環境	54. 水資源の保全と活用	26.0	29.1 (2位)
3	医療福祉・環境保全、 防災対策など	健康・福祉	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.3	25.8 (4位)
4	経済対策・産業振興など	交流・物流	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	24.2	27.5 (3位)
5	医療福祉・環境保全、 防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	23.6	25.7 (5位)
6	経済対策・産業振興など	交流・物流	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.3	25.3 (6位)
7	医療福祉・環境保全、 防災対策など	健康・福祉	47. 健康づくりと疾病対策の推進	20.9	23.1 (9位)
8	少子化対策・地域づくりなど	県民活動	32. 芸術文化の振興	19.3	20.0 (21位)
9	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	19.0	21.6 (14位)
10	医療福祉・環境保全、 防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	18.8	21.9 (11位)
	医療福祉・環境保全、 防災対策など	環境	52. 自然環境の保全	18.8	21.9 (11位)

<時系列比較>

図表2 政策の満足度(上位5項目の時系列比較)

単位:%

順位	R1	R2	R3	R4	R5
1	北陸新幹線の整備促進 45.8	北陸新幹線の整備促進 50.5	北陸新幹線の整備促進 46.1	北陸新幹線の整備促進 45.5	北陸新幹線の整備促進 42.3
2	食の安全確保と地産地消・ 食育の推進 29.7	水資源の保全と活用 33.4	水資源の保全と活用 31.5	水資源の保全と活用 29.1	水資源の保全と活用 26.0
3	水資源の保全と活用 27.6	食の安全確保と地産地消・ 食育の推進 29.9	食の安全確保と地産地消・ 食育の推進 30.7	新幹線駅を核とした交流 拠点づくり 27.5	食の安全確保と地産地消・ 食育の推進 25.3
4	新幹線駅を核とした交流 拠点づくり 25.3	利便性の高い道路ネット ワークの整備 28.7	利便性の高い道路ネット ワークの整備 28.1	食の安全確保と地産地消・ 食育の推進 25.8	新幹線駅を核とした交流 拠点づくり 24.2
5	スポーツの振興 24.7	雪に強いまちづくり 28.3	子育て支援 26.3	医療提供体制の充実 25.7	医療提供体制の充実 23.6

イ 不満度の高い政策

- ・不満度の上位を見ると、「1. 景気対策（物価高騰対策などを含む）」が49.1%と最も高く、次いで「59. 雪に強いまちづくり」が42.7%、「21. 中心市街地の賑わい創出」が42.6%の順となっている。
- ・前回調査と比べると、「24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援」は、34.2%と3.7ポイント上昇し、16位から9位に順位を上げている。

図表3 政策の不満度(上位10項目)全体

単位:%

順位	区分	領域	項目	不満度	前回 (R4年度)
1	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	49.1	42.4(3位)
2	医療福祉、環境保全、 防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	42.7	47.0(1位)
3	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	21. 中心市街地の賑わい創出	42.6	46.5(2位)
4	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.7	38.9(5位)
5	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	37.2	40.7(4位)
6	経済対策・産業振興など	産業	10. 雇用の確保と人材の育成	36.6	36.7(6位)
7	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	19. 選ばれ続ける観光地づくり	35.6	35.6(8位)
8	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23. 富山のブランドカアップ	34.8	36.7(6位)
9	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	34.2	30.5(16位)
10	医療福祉、環境保全、 防災対策など	安全・安心	61. 生活交通の確保	33.0	32.5(11位)

<時系列比較>

図表4 政策の不満度(上位5項目の時系列比較)

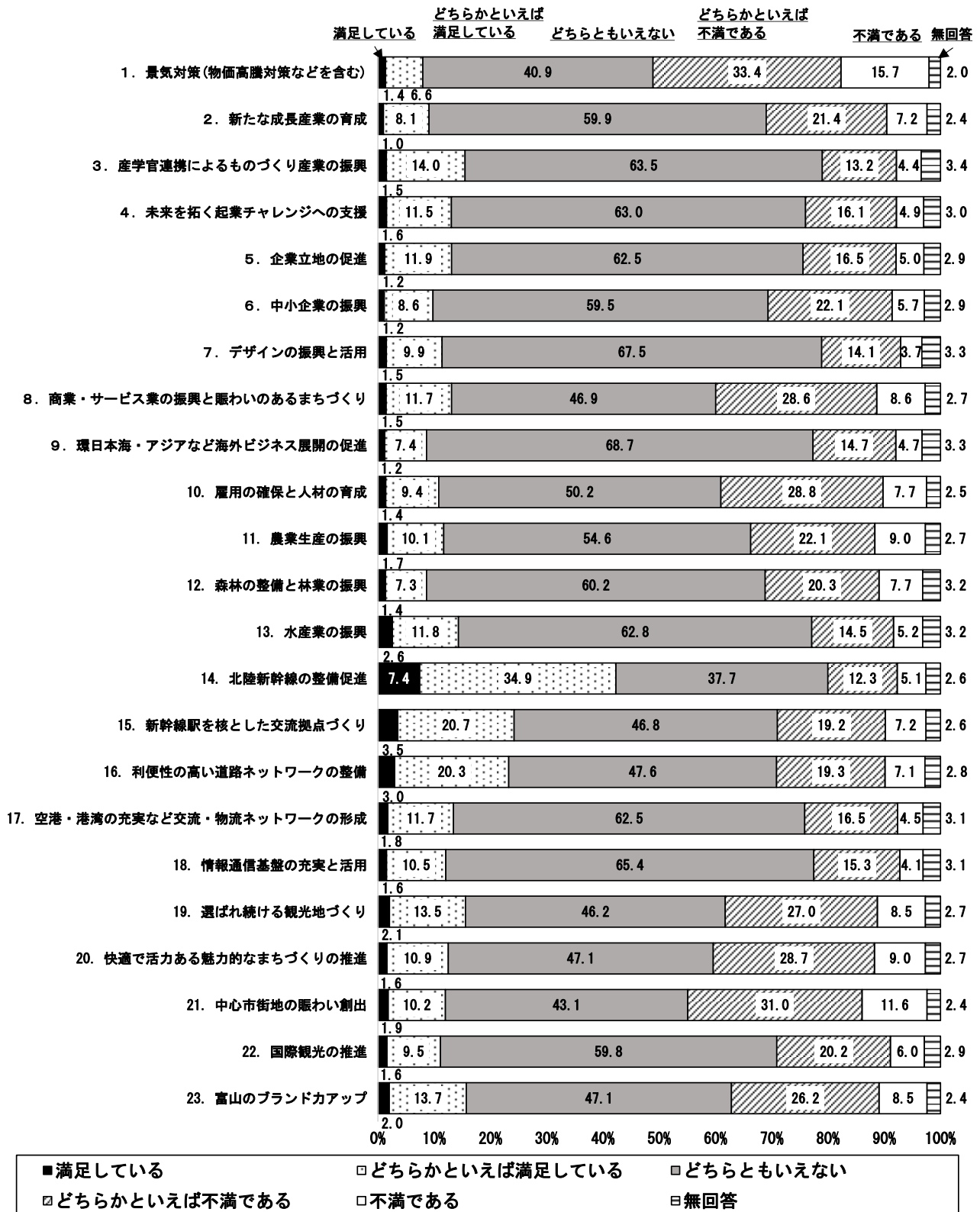
単位:%

順位	R1	R2	R3	R4	R5
1	中心市街地の賑わいの創出 48.1	中心市街地の賑わいの創出 46.0	雪に強いまちづくり 55.3	雪に強いまちづくり 47.0	景気対策(物価高騰対策 など) 49.1
2	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 38.0	商業・サービス業の振興と賑わい のあるまちづくり 39.0	中心市街地の賑わいの創出 48.5	中心市街地の賑わいの創出 46.5	雪に強いまちづくり 42.7
3	商業・サービス業の振興と賑わい のあるまちづくり 37.8	スピード重視の県政 38.6	商業・サービス業の振興と賑わい のあるまちづくり 40.5	景気対策(物価高騰対策 など) 42.4	中心市街地の賑わいの創出 42.6
4	選ばれ続ける観光地づくり 34.5	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 37.4	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 39.1	商業・サービス業の振興と賑わい のあるまちづくり 40.7	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 37.7
5	雇用の確保と人材の育成 32.2	「とやまから日本を変える」 改革と創造 34.7	スピード重視の県政 38.9	快適で活力ある魅力的な まちづくりの推進 38.9	商業・サービス業の振興と賑わい のあるまちづくり 37.2

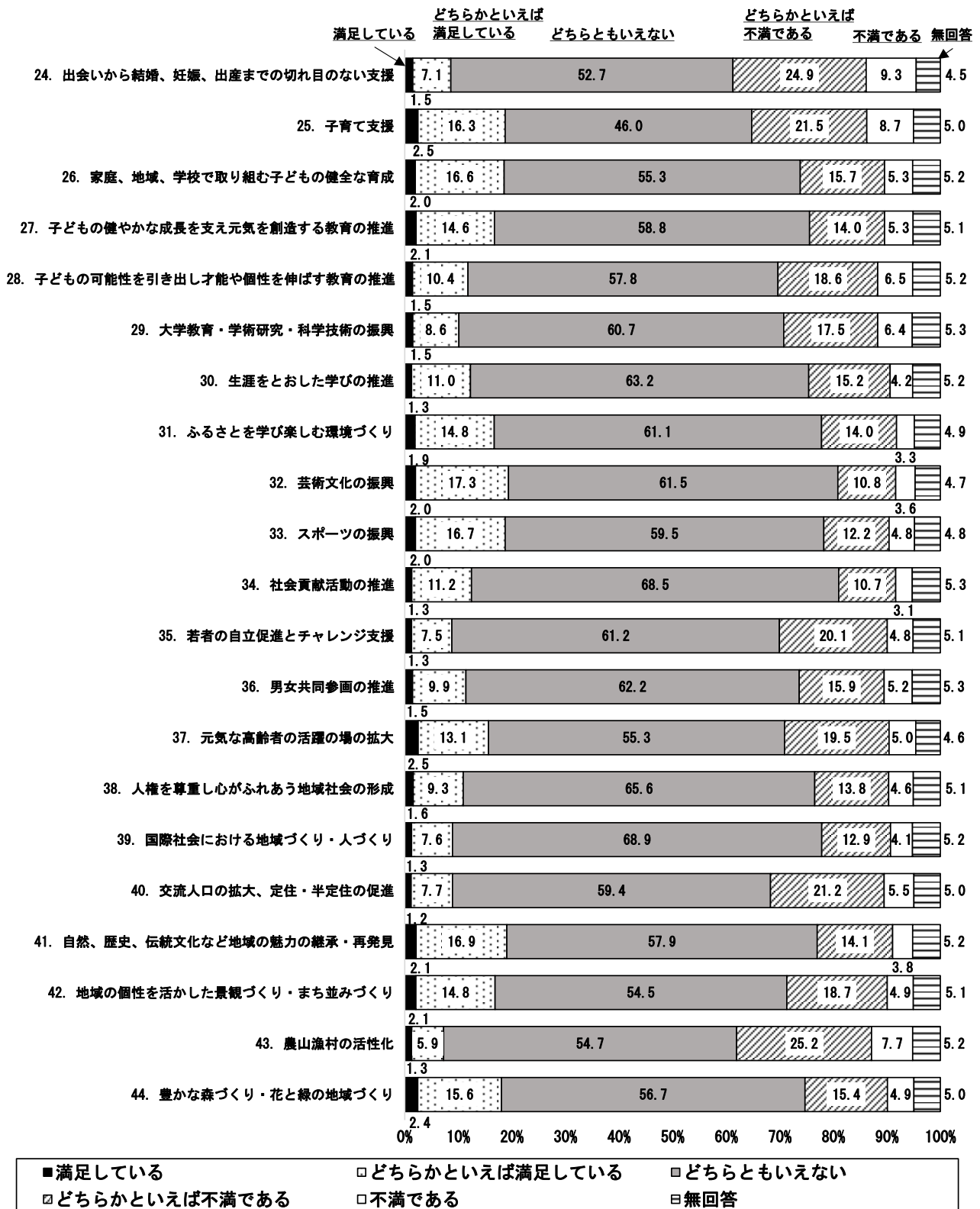
図表5 政策の満足度(分野別)

単位:%

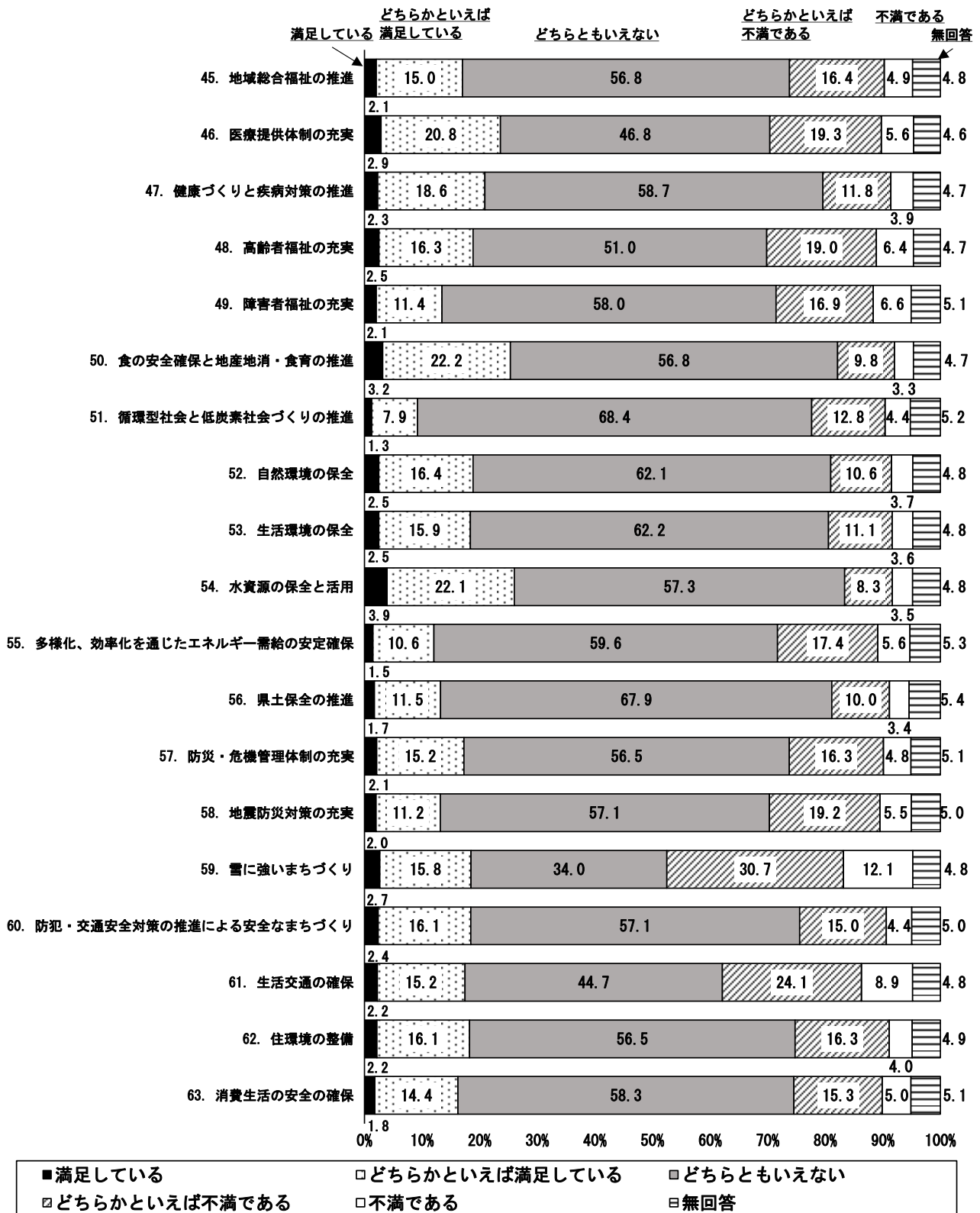
【経済対策・産業振興など】



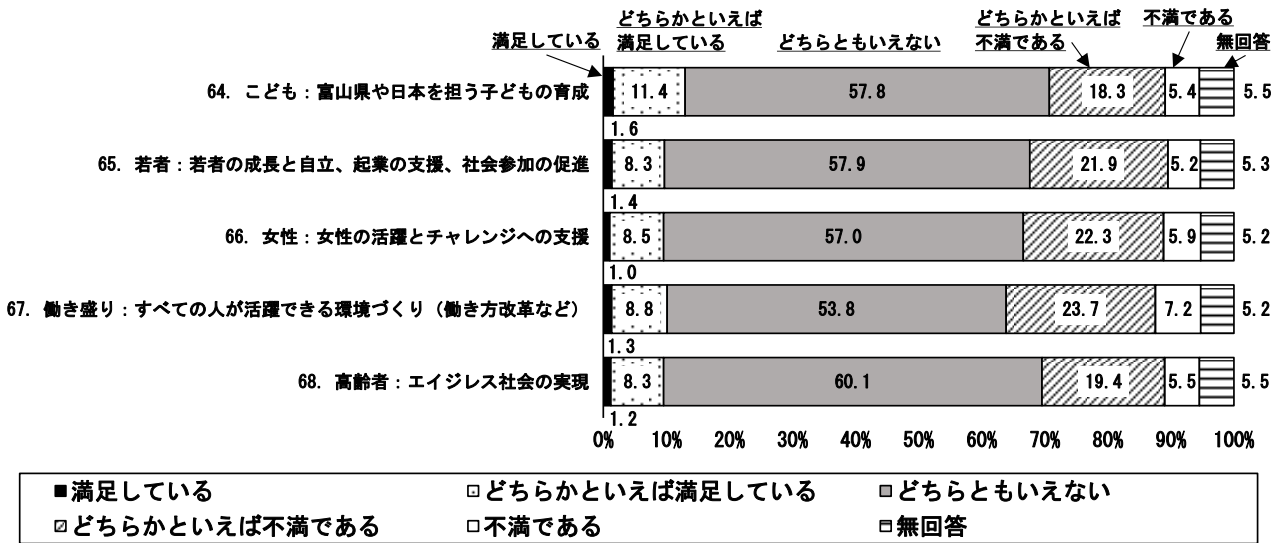
【少子化対策・地域づくりなど】



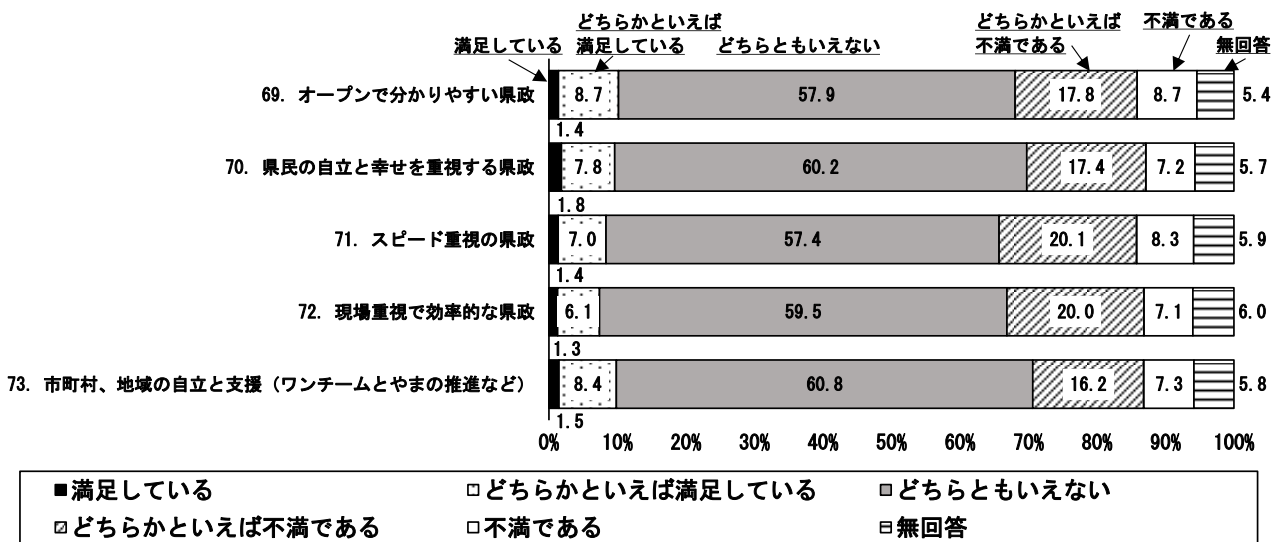
【医療福祉、環境保全、防災対策など】



【人材の育成】



【県政運営】



(2) 属性に見る県政の満足度

ア 政策の満足度

(ア)性別

- ・「男性」、「女性」とともに、「14. 北陸新幹線の整備促進」が最も高くなっている。
- ・「14. 北陸新幹線の整備促進」は、「男性」が46.6%に対して「女性」が39.5%と、「男性」が7.1ポイント高く、「46. 医療提供体制の充実」は、「男性」が27.3%に対して「女性」が21.0%と「男性」が6.3ポイント高くなっている。

図表6 満足度(上位10項目)の男女比較

単位:%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性-男性)
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14. 北陸新幹線の整備促進	42.3	46.6	39.5	▲ 7.1
2	医療福祉、環境保全、 防災対策など	環境	54. 水資源の保全と活用	26.0	28.7	24.2	▲ 4.5
3	医療福祉、環境保全、 防災対策など	健康・福祉	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.3	24.9	25.8	0.9
4	経済対策・産業振興など	交流・物流	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	24.2	26.9	22.2	▲ 4.7
5	医療福祉、環境保全、 防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	23.6	27.3	21.0	▲ 6.3
6	経済対策・産業振興など	交流・物流	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.3	25.9	21.6	▲ 4.3
7	医療福祉、環境保全、 防災対策など	健康・福祉	47. 健康づくりと疾病対策の推進	20.9	21.4	20.7	▲ 0.7
8	少子化対策・地域づくりなど	県民活動	32. 芸術文化の振興	19.3	19.1	19.8	0.7
9	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	19.0	18.8	19.5	0.7
10	医療福祉、環境保全、 防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	18.8	18.7	19.0	0.3
	医療福祉、環境保全、 防災対策など	環境	52. 自然環境の保全	18.8	20.2	18.1	▲ 2.1

図表7 男女別の政策の満足度(上位10項目)

単位:%

【男性】

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	46.6
2	54. 水資源の保全と活用	28.7
3	46. 医療提供体制の充実	27.3
4	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	26.9
5	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	25.9
6	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	24.9
7	47. 健康づくりと疾病対策の推進	21.4
8	60. 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	20.7
9	52. 自然環境の保全	20.2
10	33. スポーツの振興	20.1

【女性】

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	39.5
2	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.8
3	54. 水資源の保全と活用	24.2
4	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	22.2
5	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	21.6
6	25. 子育て支援	21.5
7	46. 医療提供体制の充実	21.0
8	47. 健康づくりと疾病対策の推進	20.7
9	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	20.0
10	32. 芸術文化の振興	19.8

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

(イ)年齢別

- ・「18歳、19歳」を除くすべての年代で「14. 北陸新幹線の整備促進」の満足度が最も高くなっており、「18、19歳」は、「50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進」が最も高くなっている。
- ・「18歳、19歳」は、県平均（全体）では31位（14.3%）の「13. 水産業の振興」が9位（51.5%）、県平均（全体）では47位（11.7%）の「11. 農業生産の振興」が上位10位（48.5%）に入っているなど、県平均（全体）では上位10位以内に入っていない項目が9項目（同率を含む）入っている。
- ・「20～29歳」は、県平均（全体）では45位（12.0%）の「21. 中心市街地の賑わい創出」が9位（30.4%）、県平均（全体）では23位（16.8%）の「42. 地域の個性を生かした景観づくり・まち並みづくり」が7位（32.2%）に入っているなど、県平均（全体）では上位10位以内に入っていない項目が4項目入っている。
- ・「30～39歳」は、県平均（全体）では24位（16.7%）の「27. 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進」が9位（19.8%）、県平均（全体）では19位（18.0%）の「44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり」が6位（21.0%）に入っているなど、県平均（全体）では上位10位以内に入っていない項目が3項目入っている。
- ・「40～49歳」は、県平均（全体）では13位（18.7%）の「25. 子育て支援」が6位（23.6%）、県平均（全体）では14位（18.5%）の「家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成」が9位（21.0%）に入っているなど、県平均（全体）では上位10位以内に入っていない項目が3項目入っている。
- ・「50～59歳」では、県平均（全体）では18位（18.2%）の「住環境の整備」が8位（19.7%）と上位となっている。
- ・「70歳以上」は、県平均（全体）では22位（17.0%）の「45. 地域総合福祉の推進」が10位（19.9%）、県平均（全体）では、15位（18.5%）の「雪に強いまちづくり」が10位（19.9%）に入っているなど、県平均（全体）では上位10位以内に入っていない項目が3項目入っている。

図表8 満足度(上位10項目)の年齢比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14. 北陸新幹線の整備促進	42.3	60.6	49.6	47.9	47.5	47.0	43.5	35.2
2	医療福祉、環境保全、防災対策など	環境	54. 水資源の保全と活用	26.0	42.4	33.9	24.0	26.4	24.7	26.1	25.1
3	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.3	63.6	42.6	28.1	29.3	25.7	19.9	21.5
4	経済対策・産業振興など	交流・物流	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	24.2	33.3	37.4	24.0	25.7	26.3	21.6	22.0
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	23.6	42.4	27.0	18.6	23.9	22.0	20.7	25.5
6	経済対策・産業振興など	交流・物流	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.3	39.4	32.2	25.1	23.2	23.7	21.3	21.7
7	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	47. 健康づくりと疾病対策の推進	20.9	42.4	27.0	18.6	18.8	20.7	19.0	21.4
8	少子化対策・地域づくりなど	県民活動	32. 芸術文化の振興	19.3	45.5	26.1	19.2	21.7	17.3	13.9	19.8
9	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	19.0	48.5	30.4	19.8	18.8	18.0	17.0	17.5
10	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	18.8	39.4	25.2	14.4	14.9	17.3	17.0	21.0
	医療福祉、環境保全、防災対策など	環境	52. 自然環境の保全	18.8	54.5	27.8	20.4	17.8	15.3	17.0	18.4

※県平均（全体）よりも高い項目は網掛け

図表9 年齢別の政策の満足度(上位 10 項目)

単位:%

18、19 歳

順位	項目	満足度
1	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	63.6
2	53. 生活環境の保全	60.6
	14. 北陸新幹線の整備促進	60.6
4	59. 雪に強いまちづくり	57.6
5	31. ふるさとを学び楽しむ環境づくり	54.5
	42. 地域の個性を活かした景観づくり・まち並みづくり	54.5
	52. 自然環境の保全	54.5
	62. 住環境の整備	54.5
9	13. 水産業の振興	51.5
10	11. 農業生産の振興	48.5
	33. スポーツの振興	48.5
	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	48.5
	44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	48.5

20～29 歳

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	49.6
2	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	42.6
3	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	37.4
4	33. スポーツの振興	34.8
	44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	34.8
6	54. 水資源の保全と活用	33.9
7	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	32.2
	42. 地域の個性を活かした景観づくり・まち並みづくり	32.2
9	21. 中心市街地の賑わい創出	30.4
	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	30.4

30～39 歳

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	47.9
2	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.1
3	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	25.1
4	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	24.0
	54. 水資源の保全と活用	24.0
6	44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	21.0
7	52. 自然環境の保全	20.4
	53. 生活環境の保全	20.4
9	27. 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	19.8
	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	19.8

40～49 歳

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	47.5
2	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	29.3
3	54. 水資源の保全と活用	26.4
4	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.7
5	46. 医療提供体制の充実	23.9
6	25. 子育て支援	23.6
7	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.2
8	32. 芸術文化の振興	21.7
9	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	21.0
	44. 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	21.0

50～59 歳

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	47.0
2	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	26.3
3	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.7
4	54. 水資源の保全と活用	24.7
5	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.7
6	46. 医療提供体制の充実	22.0
7	47. 健康づくりと疾病対策の推進	20.7
8	62. 住環境の整備	19.7
9	33. スポーツの振興	18.7
10	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	18.0

60～69 歳

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	43.5
2	54. 水資源の保全と活用	26.1
3	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	21.6
4	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	21.3
5	46. 医療提供体制の充実	20.7
6	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	19.9
7	47. 健康づくりと疾病対策の推進	19.0
8	48. 高齢者福祉の充実	17.0
	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	17.0
	52. 自然環境の保全	17.0

70 歳以上

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	35.2
2	46. 医療提供体制の充実	25.5
3	54. 水資源の保全と活用	25.1
4	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	22.0
5	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	21.7
6	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	21.5
7	47. 健康づくりと疾病対策の推進	21.4
8	48. 高齢者福祉の充実	21.0
9	25. 子育て支援	20.2
10	45. 地域総合福祉の推進	19.9
	59. 雪に強いまちづくり	19.9

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

(ウ)地域別

- ・全ての地域で「14. 北陸新幹線の整備促進」が最も高く、特に「富山地域」は47.8%と県平均（全体）より5.5ポイント高くなっている。
- ・「富山地域」は、県平均（全体）では15位（18.5%）の「59. 雪に強いまちづくり」が8位（20.7%）、県平均（全体）では17位（18.4%）の「53. 生活環境の保全」が10位（19.6%）と上位となっている。
- ・「高岡地域」は、「14. 北陸新幹線の整備促進」が33.6%と県平均（全体）よりも8.7ポイント低くなっている。県平均（全体）では上位10位以内に入っていない「33. スポーツの振興」が8位（20.7%）に、「31. ふるさとを学び楽しむ環境づくり」が10位（19.0%）に入っている。
- ・「魚津地域」では、県平均（全体）では上位10位以内に入っていない「26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成」、「60. 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり」が8位（19.8%）に入っている。
- ・「砺波地域」は、県平均（全体）では13位（18.7%）の「25. 子育て支援」、17位（18.4%）の「53. 生活環境の保全」が7位（22.1%）に入っているなど、県平均（全体）では上位10位以内に入っていない項目が3項目入っている。

図表 10 満足度(上位 10 項目)の地域比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	経済対策・産業振興など	交流・物流	14. 北陸新幹線の整備促進	42.3	47.8	33.6	46.8	39.4
2	医療福祉、環境保全、防災対策など	環境	54. 水資源の保全と活用	26.0	27.5	22.3	28.5	26.5
3	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.3	24.7	24.1	26.5	28.9
4	経済対策・産業振興など	交流・物流	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	24.2	31.6	17.2	23.3	19.7
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	23.6	26.1	22.8	20.0	23.7
6	経済対策・産業振興など	交流・物流	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.3	26.1	19.5	20.5	28.1
7	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	47. 健康づくりと疾病対策の推進	20.9	21.2	21.1	19.5	22.1
8	少子化対策・地域づくりなど	県民活動	32. 芸術文化の振興	19.3	20.7	20.9	16.0	17.3
9	少子化対策・地域づくりなど	地域づくり	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	19.0	18.0	21.4	17.8	19.3
10	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	18.8	19.1	18.1	18.0	21.3
	医療福祉、環境保全、防災対策など	環境	52. 自然環境の保全	18.8	19.0	16.2	20.5	22.5

※県平均（全体）よりも高い項目は網掛け

図表 11 地域別の政策の満足度(上位 10 項目)

単位:%

富山地域

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	47.8
2	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	31.6
3	54. 水資源の保全と活用	27.5
4	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	26.1
	46. 医療提供体制の充実	26.1
6	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	24.7
7	47. 健康づくりと疾病対策の推進	21.2
8	32. 芸術文化の振興	20.7
	59. 雪に強いまちづくり	20.7
	53. 生活環境の保全	19.6

高岡地域

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	33.6
2	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	24.1
3	46. 医療提供体制の充実	22.8
4	54. 水資源の保全と活用	22.3
5	41. 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	21.4
6	47. 健康づくりと疾病対策の推進	21.1
7	32. 芸術文化の振興	20.9
8	33. スポーツの振興	20.7
9	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	19.5
10	31. ふるさとを学び楽しむ環境づくり	19.0

魚津地域

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	46.8
2	54. 水資源の保全と活用	28.5
3	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	26.5
4	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	23.3
5	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	20.5
	52. 自然環境の保全	20.5
7	46. 医療提供体制の充実	20.0
8	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	19.8
	60. 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	19.8
	47. 健康づくりと疾病対策の推進	19.5

砺波地域

順位	項目	満足度
1	14. 北陸新幹線の整備促進	39.4
2	50. 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.9
3	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	28.1
4	54. 水資源の保全と活用	26.5
5	46. 医療提供体制の充実	23.7
6	52. 自然環境の保全	22.5
7	25. 子育て支援	22.1
	47. 健康づくりと疾病対策の推進	22.1
10	53. 生活環境の保全	22.1
	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	21.7

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

イ 政策の不満足

(ア) 性別

- ・「男性」、「女性」とともに、「1. 景気対策（物価高騰対策などを含む）」が最も高く、上位3項目は、「1. 景気対策（物価高騰対策などを含む）」、「21. 中心市街地の賑わいの創出」、「59. 雪に強いまちづくり」となっている。
- ・「24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援」は、「男性」が38.7%に対して「女性」が31.0%と「男性」が7.7ポイント高くなっている。
- ・「男性」は、県平均（全体）では11位（32.9%）の「農山漁村の活性化」が7位（37.8%）に入っている。

図表 12 不満足(上位 10 項目)の男女比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性-男性)
1	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	49.1	47.1	50.5	3.4
2	医療福祉、環境保全、 防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	42.7	43.7	41.5	▲ 2.2
3	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	21. 中心市街地の賑わい創出	42.6	43.0	42.6	▲ 0.4
4	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.7	38.1	37.7	▲ 0.4
5	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	37.2	38.7	36.3	▲ 2.4
6	経済対策・産業振興など	産業	10. 雇用の確保と人材の育成	36.6	35.5	37.3	1.8
7	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	19. 選ばれ続ける観光地づくり	35.6	34.7	36.0	1.3
8	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23. 富山のブランドカアップ	34.8	37.3	32.9	▲ 4.4
9	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	34.2	38.7	31.0	▲ 7.7
10	医療福祉、環境保全、 防災対策など	安全・安心	61. 生活交通の確保	33.0	34.2	32.1	▲ 2.1

図表 13 男女別の政策の不満足(上位 10 項目)

単位：%

順位	項目	不満足
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	47.1
2	59. 雪に強いまちづくり	43.7
3	21. 中心市街地の賑わい創出	43.0
4	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	38.7
	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	38.7
6	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	38.1
7	43. 農山漁村の活性化	37.8
8	23. 富山のブランドカアップ	37.3
9	10. 雇用の確保と人材の育成	35.5
10	19. 選ばれ続ける観光地づくり	34.7

順位	項目	不満足
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	50.5
2	21. 中心市街地の賑わい創出	42.6
3	59. 雪に強いまちづくり	41.5
4	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.7
5	10. 雇用の確保と人材の育成	37.3
6	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	36.3
7	19. 選ばれ続ける観光地づくり	36.0
8	23. 富山のブランドカアップ	32.9
9	61. 生活交通の確保	32.1
10	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	31.0

※県平均（全体）の上位 10 項目にない項目は網掛け

(イ)年齢別

- ・「18、19歳」は、県平均（全体）では35位（24.0%）の「29. 大学教育・学術研究・科学技術の振興」と県平均（全体）では23位（26.6%）の「69. オープンで分かりやすい県政」がともに2位（33.3%）、県平均（全体）では22位（26.7%）の「40. 交流人口の拡大、定住・半定住の促進」が5位（30.3%）と上位10位に入っている。
- ・「20～29歳」は、県平均（全体）では25位（26.4%）の「16. 利便性の高い道路ネットワークの整備」が3位（30.4%）、県平均（全体）では16位（28.4%）の「71. スピード重視の県政」が6位（28.7%）と上位10位に入っているなど、県平均（全体）では上位10位以内に入っていない項目が4項目入っている。
- ・「30～39歳」、「40～49歳」では、県平均（全体）では13位（30.9%）の「67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり（働き方改革など）」、県平均（全体）では14位（30.2%）の「25. 子育て支援」、県平均（全体）では16位（28.4%）の「71. スピード重視の県政」が上位10項目に入っている。
- ・「50～59歳」では、県平均（全体）では16位（28.4%）の「71. スピード重視の県政」が10位（36.0%）と上位となっている。
- ・「60～69歳」では、県平均（全体）では11位（32.9%）の「43. 農山漁村の活性化」が6位（38.9%）と上位となっている。
- ・「70歳以上」は、県平均（全体）では12位（31.1%）の「11. 農業生産の振興」が3位（38.5%）、県平均（全体）では18位（28.0%）の「12. 森林の整備と林業の振興」が9位（33.1%）と上位10位に入っているなど、県平均（全体）では上位10位以内に入っていない項目が3項目入っている。

図表 14 不満度(上位 10 項目)の年齢比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	49.1	42.4	48.7	52.1	54.0	53.7	48.3	45.5
2	医療福祉・環境保全、 防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	42.7	21.2	47.0	50.9	47.5	50.0	45.5	35.0
3	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	21. 中心市街地の賑わい創出	42.6	24.2	27.0	38.3	44.2	51.3	40.1	43.9
4	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.7	30.3	29.6	37.7	37.3	45.0	37.2	37.0
5	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	37.2	30.3	24.3	37.1	36.6	44.3	40.1	35.8
6	経済対策・産業振興など	産業	10. 雇用の確保と人材の育成	36.6	24.2	27.0	40.7	41.7	41.7	40.1	32.1
7	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	19. 選ばれ続ける観光地づくり	35.6	33.3	30.4	43.7	38.8	42.0	36.6	30.4
8	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23. 富山のブランドカアップ	34.8	15.2	27.0	34.7	38.0	39.0	35.8	33.6
9	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	34.2	12.1	27.8	44.9	36.2	35.0	36.1	31.7
10	医療福祉・環境保全、 防災対策など	安全・安心	61. 生活交通の確保	33.0	30.3	26.1	31.1	32.6	40.7	38.1	29.3

※県平均（全体）よりも高い項目は網掛け

図表 15 年齢別の政策の不満度(上位 10 項目)

単位:%

18、19 歳

順位	項目	不満度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	42.4
2	19. 選ばれ続ける観光地づくり	33.3
	29. 大学教育・学術研究・科学技術の振興	33.3
	69. オープンで分かりやすい県政	33.3
5	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	30.3
	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	30.3
	40. 交流人口の拡大、定住・半定住の促進	30.3
9	61. 生活交通の確保	30.3
	2. 新たな成長産業の育成	24.2
	10. 雇用の確保と人材の育成	24.2
	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.2
	21. 中心市街地の賑わい創出	24.2

30～39 歳

順位	項目	不満度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	52.1
2	59. 雪に強いまちづくり	50.9
3	67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり(働き方改革など)	45.5
4	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	44.9
5	19. 選ばれ続ける観光地づくり	43.7
6	25. 子育て支援	42.5
7	10. 雇用の確保と人材の育成	40.7
8	71. スピード重視の県政	39.5
9	21. 中心市街地の賑わい創出	38.3
10	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.7

50～59 歳

順位	項目	不満度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	53.7
2	21. 中心市街地の賑わい創出	51.3
3	59. 雪に強いまちづくり	50.0
4	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	45.0
5	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	44.3
6	19. 選ばれ続ける観光地づくり	42.0
7	10. 雇用の確保と人材の育成	41.7
8	61. 生活交通の確保	40.7
9	23. 富山のブランドカアアップ	39.0
10	71. スピード重視の県政	36.0

70 歳以上

順位	項目	不満度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	45.5
2	21. 中心市街地の賑わい創出	43.9
3	11. 農産物の振興	38.5
4	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.0
5	43. 農山漁村の活性化	36.3
6	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	35.8
7	59. 雪に強いまちづくり	35.0
8	23. 富山のブランドカアアップ	33.6
9	12. 森林の整備と林業の振興	33.1
10	10. 雇用の確保と人材の育成	32.1

20～29 歳

順位	項目	不満度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	48.7
2	59. 雪に強いまちづくり	47.0
3	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	30.4
	19. 選ばれ続ける観光地づくり	30.4
5	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	29.6
6	71. スピード重視の県政	28.7
7	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	27.8
	67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり(働き方改革など)	27.8
	69. オープンで分かりやすい県政	27.8
10	10. 雇用の確保と人材の育成	27.0
	23. 富山のブランドカアアップ	27.0

40～49 歳

順位	項目	不満度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	54.0
2	59. 雪に強いまちづくり	47.5
3	21. 中心市街地の賑わい創出	44.2
4	10. 雇用の確保と人材の育成	41.7
5	67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり(働き方改革など)	39.1
6	19. 選ばれ続ける観光地づくり	38.8
7	25. 子育て支援	38.4
	71. スピード重視の県政	38.4
9	23. 富山のブランドカアアップ	38.0
10	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.3

60～69 歳

順位	項目	不満度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	48.3
2	59. 雪に強いまちづくり	45.5
3	21. 中心市街地の賑わい創出	40.1
	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.1
	10. 雇用の確保と人材の育成	40.1
6	43. 農山漁村の活性化	38.9
7	61. 生活交通の確保	38.1
8	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.2
9	19. 選ばれ続ける観光地づくり	36.6
10	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	36.1

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

(ウ)地域別

- ・「高岡地域」以外では、「1. 景気対策（物価高騰対策などを含む）」が最も高く、「高岡地域」は、「21. 中心市街地の賑わい創出」が最も高くなっている。
- ・「高岡地域」では県平均(全体)では 10 位以内に入っていない、「15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」が 8 位（36.7%）に入っている。
- ・「魚津地域」では県平均(全体)では 10 位以内に入っていない、「43. 農山漁村の活性化」が 10 位（35.8%）に入っている。
- ・「砺波地域」では県平均(全体)では 10 位以内に入っていない、「11. 農業生産の振興」が 6 位（32.9%）、「67：働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり（働き方改革など）」が 8 位（31.3%）など、県平均（全体）10 位以内に入っていない項目が 3 項目入っている。

図表 16 不満度(上位 10 項目)の地域比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	49.1	48.2	50.8	50.8	45.4
2	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	42.7	42.2	46.2	43.0	34.9
3	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	21. 中心市街地の賑わい創出	42.6	37.4	51.8	40.5	40.6
4	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.7	35.0	41.1	40.8	33.7
5	経済対策・産業振興など	産業	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	37.2	33.5	42.2	43.3	28.1
6	経済対策・産業振興など	産業	10. 雇用の確保と人材の育成	36.6	32.8	40.4	40.0	33.7
7	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	19. 選ばれ続ける観光地づくり	35.6	35.9	36.9	37.8	27.7
8	経済対策・産業振興など	まちづくり・観光	23. 富山のブランドカアップ	34.8	33.7	35.7	39.3	28.9
9	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	34.2	33.3	34.8	36.3	32.1
10	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	61. 生活交通の確保	33.0	34.1	34.1	32.3	28.5

※県平均（全体）よりも高い項目は網掛け

図表 17 地域別の政策の不満足度(上位 10 項目)

単位: %

富山地域

順位	項目	不満足度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	48.2
2	59. 雪に強いまちづくり	42.2
3	21. 中心市街地の賑わい創出	37.4
4	19. 選ばれ続ける観光地づくり	35.9
5	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	35.0
6	61. 生活交通の確保	34.1
7	23. 富山のブランドカアップ	33.7
8	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	33.5
9	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	33.3
10	10. 雇用の確保と人材の育成	32.8

魚津地域

順位	項目	不満足度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	50.8
2	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	43.3
3	59. 雪に強いまちづくり	43.0
4	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	40.8
5	21. 中心市街地の賑わい創出	40.5
6	10. 雇用の確保と人材の育成	40.0
7	23. 富山のブランドカアップ	39.3
8	19. 選ばれ続ける観光地づくり	37.8
9	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	36.3
10	43. 農山漁村の活性化	35.8

高岡地域

順位	項目	不満足度
1	21. 中心市街地の賑わい創出	51.8
2	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	50.8
3	59. 雪に強いまちづくり	46.2
4	8. 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	42.2
5	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	41.1
6	10. 雇用の確保と人材の育成	40.4
7	19. 選ばれ続ける観光地づくり	36.9
8	15. 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	36.7
9	23. 富山のブランドカアップ	35.7
10	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	34.8

砺波地域

順位	項目	不満足度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	45.4
2	21. 中心市街地の賑わい創出	40.6
3	59. 雪に強いまちづくり	34.9
4	10. 雇用の確保と人材の育成	33.7
	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	33.7
6	11. 農業生産の振興	32.9
7	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	32.1
	43. 農山漁村の活性化	31.3
8	67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり (働き方改革など)	31.3
10	23. 富山のブランドカアップ	28.9

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

(3) 県政への要望

問2 問1の項目の1番～68番のうち(※69番～73番の<県政運営>は除きます)、いま、あなたももっと力を入れてほしいと思っている県の政策はどれですか。5つ以内で選んでください。

- ・ 県政への要望の上位を見ると、「1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)」が32.1%と最も高く、次いで「59. 雪に強いまちづくり」が26.8%、「48. 高齢者福祉の充実」が17.8%の順となっている。
- ・ 前回調査では、上位10項目に入っていなかった「37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大」が9位(8.7%)となっている。

図表 18 県政への要望(上位10項目)

単位: %

順位	区分	領域	項目	比率	前回 (R4年度)
1	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	32.1	27.0(2位)
2	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	26.8	29.3(1位)
3	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	17.8	14.9(5位)
4	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	17.0	19.1(3位)
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	15.1	15.4(4位)
6	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.5	12.1(6位)
7	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	61. 生活交通の確保	11.7	11.1(7位)
8	人材の育成	人づくり	64. こども: 富山県や日本を担う子どもの育成	11.3	10.3(8位)
9	少子化対策・地域づくりなど	県民活動	37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大	8.7	7.1(15位)
10	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57. 防災・危機管理体制の充実	8.6	9.1(9位)

<時系列比較>

図表 19 県政への要望(上位5項目の時系列比較)

単位: %

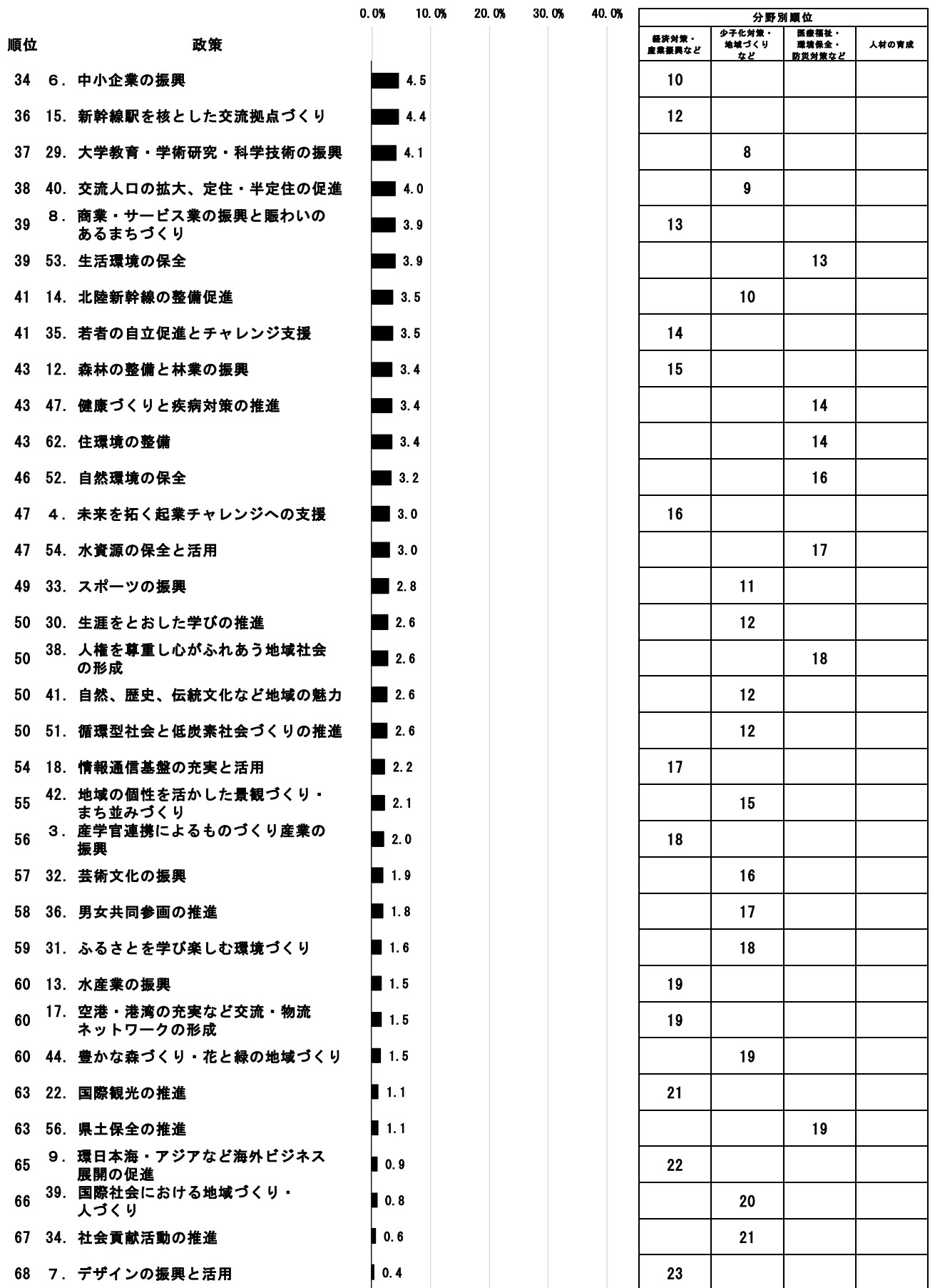
順位	R1	R2	R3	R4	R5
1	雪に強いまちづくり 22.7	景気対策 20.5	雪に強いまちづくり 29.0	雪に強いまちづくり 29.3	景気対策(物価高騰対策などを含む) 32.1
2	景気対策 20.1	高齢者福祉の充実 17.1	景気対策 16.1	景気対策(物価高騰対策などを含む) 27.0	雪に強いまちづくり 26.8
3	高齢者福祉の充実 16.5	子育て支援 16.1	医療提供体制の充実 13.7	子育て支援 19.1	高齢者福祉の充実 17.8
4	子育て支援 15.4	医療提供体制の充実 15.1	高齢者福祉の充実 13.4	医療提供体制の充実 15.4	子育て支援 17.0
5	医療体制の充実 14.4	雪に強いまちづくり 13.4	子育て支援 12.8	高齢者福祉の充実 14.9	医療提供体制の充実 15.1

図表 20 県政への要望(N=1,769、M. T. =440.0%)

単位: %



	分野別順位			
	経済対策・産業振興など	少子化対策・地づくりなど	医療福祉・環境保全・防災対策など	人材の育成
1				
			1	
			2	
	1			
			3	
	2			
			4	
				1
	3			
			5	
2				
				2
		4		
3				
4				
			6	
				3
			7	
5				
6				
		5		
		5		
				4
			8	
			9	
		7		
7				
			10	
8				
			11	
9				
				5
			12	
10				



(4) 属性別にみる県政への要望

ア 性別

- ・男女ともに「1. 景気対策（物価高騰対策などを含む）」が最も高く、次いで「59. 雪に強いまちづくり」の順となっている。
- ・「男性」は、県平均（全体）では上位10項目に入っていない「23. 富山のブランド力アップ」が9位（8.7%）、「雇用の確保と人材の育成」が10位（8.5%）に入っている。
- ・「女性」は、県平均（全体）では上位10項目に入っていない「67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり（働き方改革など）」が9位（10.0%）に入っている。

図表 21 県政への要望(上位10項目)の男女比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性-男性)
1	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	32.1	32.9	31.4	▲ 1.5
2	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	26.8	25.0	28.3	3.3
3	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	17.8	14.2	20.8	6.6
4	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	17.0	17.8	16.2	▲ 1.6
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	15.1	13.2	16.3	3.1
6	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.5	15.0	10.8	▲ 4.2
7	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	61. 生活交通の確保	11.7	9.7	13.2	3.5
8	人材の育成	人づくり	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	11.3	10.5	12.0	1.5
9	少子化対策・地域づくりなど	県民活動	37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大	8.7	8.1	9.2	1.1
10	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57. 防災・危機管理体制の充実	8.6	8.4	8.9	0.5

図表 22 男女別の県政への要望(上位10項目)

単位：%

男性

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	32.9
2	59. 雪に強いまちづくり	25.0
3	25. 子育て支援	17.8
4	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	15.0
5	48. 高齢者福祉の充実	14.2
6	46. 医療提供体制の充実	13.2
7	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	10.5
8	61. 生活交通の確保	9.7
9	23. 富山のブランド力アップ	8.7
10	10. 雇用の確保と人材の育成	8.5

女性

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	31.4
2	59. 雪に強いまちづくり	28.3
3	48. 高齢者福祉の充実	20.8
4	46. 医療提供体制の充実	16.3
5	25. 子育て支援	16.2
6	61. 生活交通の確保	13.2
7	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	12.0
8	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.8
9	67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり (働き方改革など)	10.0
10	37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大	9.2

※県平均（全体）の上位10項目にない項目は網掛け

イ 年齢別

- ・「30～39歳」を除くすべての年代で「1. 景気対策（物価高騰対策などを含む）」が最も高くなっており、「30～39歳」は、「25. 子育て支援」が最も高くなっている。
- ・「18～19歳」、「20～29歳」では、県平均（全体）では上位10項目に入っていない「16. 利便性の高い道路ネットワークの整備」、「20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進」、「65. 若者：若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進」が上位10項目に入っている。
- ・県平均（全体）では上位10項目に入っていない「67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり（働き方改革など）」は、「30～39歳」で6位（12.6%）、「40～49歳」で7位（10.9%）、「50～59歳」で8位（10.3%）と上位10項目に入っている。

図表 23 県政への要望(上位10項目)の年齢比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	32.1	39.4	36.5	37.7	41.7	33.7	30.4	26.7
2	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	26.8	6.1	28.7	27.5	25.0	32.0	26.4	25.7
3	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	17.8	6.1	7.8	5.4	6.5	17.7	22.4	24.9
4	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	17.0	15.2	24.3	40.7	31.2	11.0	17.0	7.7
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	15.1	9.1	9.6	10.8	13.8	14.7	20.7	14.9
6	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.5	9.1	23.5	15.6	10.1	10.3	14.5	11.2
7	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	61. 生活交通の確保	11.7	9.1	9.6	4.2	4.7	13.3	11.9	15.6
8	人材の育成	人づくり	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	11.3	6.1	7.8	12.0	12.7	11.3	13.4	10.3
9	少子化対策・地域づくりなど	県民活動	37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大	8.7	3.0	1.7	0.6	4.0	7.0	10.2	13.7
10	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57. 防災・危機管理体制の充実	8.6	3.0	7.0	5.4	7.2	10.3	8.5	9.8

※県平均（全体）よりも高い項目は網掛け

図表 24 年齢別の県政への要望(上位 10 項目)

単位:%

18、19 歳

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	39.4
2	19. 選ばれ続ける観光地づくり	18.2
	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	18.2
4	25. 子育て支援	15.2
5	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	12.1
	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	12.1
	38. 人権を尊重し心がふれあう地域社会の形成	12.1
8	10. 雇用の確保と人材の育成	9.1
	21. 中心市街地の賑わい創出	9.1
	29. 大学教育・学術研究・科学技術の振興	9.1
	40. 交流人口の拡大、定住・半定住の促進	9.1
	46. 医療提供体制の充実	9.1
	61. 生活交通の確保	9.1
	65. 若者：若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	9.1

20～29 歳

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	36.5
2	59. 雪に強いまちづくり	28.7
3	25. 子育て支援	24.3
4	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	23.5
5	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	13.0
6	65. 若者：若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	10.4
7	23. 富山のブランドカアップ	9.6
	46. 医療提供体制の充実	9.6
10	61. 生活交通の確保	9.6
	16. 利便性の高い道路ネットワークの整備	8.7
	63. 消費生活の安全の確保	8.7

30～39 歳

順位	項目	要望度
1	25. 子育て支援	40.7
2	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	37.7
3	59. 雪に強いまちづくり	27.5
4	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	15.6
5	26. 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	15.0
6	67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり(働き方改革など)	12.6
7	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	12.0
	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	12.0
9	46. 医療提供体制の充実	10.8
10	27. 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	10.2

40～49 歳

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	41.7
2	25. 子育て支援	31.2
3	59. 雪に強いまちづくり	25.0
4	46. 医療提供体制の充実	13.8
5	28. 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	12.7
	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	12.7
	10. 雇用の確保と人材の育成	10.9
7	67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり(働き方改革など)	10.9
9	27. 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	10.5
10	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.1

50～59 歳

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	33.7
2	59. 雪に強いまちづくり	32.0
3	48. 高齢者福祉の充実	17.7
4	46. 医療提供体制の充実	14.7
5	61. 生活交通の確保	13.3
6	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	11.3
7	25. 子育て支援	11.0
8	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.3
	57. 防災・危機管理体制の充実	10.3
	67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり(働き方改革など)	10.3

60～69 歳

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	30.4
2	59. 雪に強いまちづくり	26.4
3	48. 高齢者福祉の充実	22.4
4	46. 医療提供体制の充実	20.7
5	25. 子育て支援	17.0
6	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	14.5
7	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	13.4
8	61. 生活交通の確保	11.9
9	37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大	10.2
10	10. 雇用の確保と人材の育成	9.7

70 歳以上

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	26.7
2	59. 雪に強いまちづくり	25.7
3	48. 高齢者福祉の充実	24.9
4	61. 生活交通の確保	15.6
5	46. 医療提供体制の充実	14.9
6	37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大	13.7
7	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	11.2
8	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	10.3
9	57. 防災・危機管理体制の充実	9.8
	11. 農業生産の振興	9.8

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

ウ 地域別

- ・すべての地域で「1. 景気対策（物価高騰対策などを含む）」が最も高くなっている。
- ・県平均（全体）では上位 10 項目に入っていない「10. 雇用の確保と人材の育成」は、「富山地域」で 10 位（9.2%）、「魚津地域」で 9 位（9.5%）と上位 10 項目に入っている。
- ・県平均（全体）では上位 10 項目に入っていない「67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり（働き方改革など）」は、「高岡地域」で 10 位（8.8%）、「砺波地域」で 9 位（9.2%）と上位 10 項目に入っている。

図表 25 県政への要望(上位 10 項目)の地域比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	経済対策・産業振興など	産業	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	32.1	31.8	31.8	34.3	30.9
2	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	59. 雪に強いまちづくり	26.8	28.8	28.3	23.8	21.3
3	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	48. 高齢者福祉の充実	17.8	19.0	17.2	18.3	15.3
4	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	25. 子育て支援	17.0	19.1	16.5	17.3	11.2
5	医療福祉、環境保全、防災対策など	健康・福祉	46. 医療提供体制の充実	15.1	12.8	15.1	19.0	14.9
6	少子化対策・地域づくりなど	子育て・教育	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.5	13.9	13.4	10.8	9.6
7	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	61. 生活交通の確保	11.7	14.1	11.6	7.8	10.4
8	人材の育成	人づくり	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	11.3	11.5	11.2	11.0	10.8
9	少子化対策・地域づくりなど	県民活動	37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大	8.7	10.6	6.9	7.8	8.8
10	医療福祉、環境保全、防災対策など	安全・安心	57. 防災・危機管理体制の充実	8.6	8.5	9.1	9.3	6.8

※県平均（全体）よりも高い項目は網掛け

図表 26 地域別の県政への要望(上位 10 項目)

単位：%

富山地域

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	31.8
2	59. 雪に強いまちづくり	28.8
3	25. 子育て支援	19.1
4	48. 高齢者福祉の充実	19.0
5	61. 生活交通の確保	14.1
6	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	13.9
7	46. 医療提供体制の充実	12.8
8	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	11.5
9	37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大	10.6
10	10. 雇用の確保と人材の育成	9.2

高岡地域

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	31.8
2	59. 雪に強いまちづくり	28.3
3	48. 高齢者福祉の充実	17.2
4	25. 子育て支援	16.5
5	46. 医療提供体制の充実	15.1
6	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	13.4
7	61. 生活交通の確保	11.6
8	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	11.2
9	57. 防災・危機管理体制の充実	9.1
10	67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり（働き方改革など）	8.8

魚津地域

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	34.3
2	59. 雪に強いまちづくり	23.8
3	46. 医療提供体制の充実	19.0
4	48. 高齢者福祉の充実	18.3
5	25. 子育て支援	17.3
6	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	11.0
7	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.8
8	20. 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	10.0
9	10. 雇用の確保と人材の育成	9.5
10	57. 防災・危機管理体制の充実	9.3

砺波地域

順位	項目	要望度
1	1. 景気対策(物価高騰対策などを含む)	30.9
2	59. 雪に強いまちづくり	21.3
3	48. 高齢者福祉の充実	15.3
4	46. 医療提供体制の充実	14.9
5	25. 子育て支援	11.2
6	64. こども：富山県や日本を担う子どもの育成	10.8
7	61. 生活交通の確保	10.4
8	24. 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	9.6
9	67. 働き盛り：すべての人が活躍できる環境づくり（働き方改革など）	9.2
10	37. 元気な高齢者の活躍の場の拡大	8.8

※県平均（全体）の上位 10 項目にない項目は網掛け

2 個別施策に係る調査

(1)ブランディング戦略について

<いま>

「富山県成長戦略」では、新しい富山県の更なる発展に向けて、戦略のビジョンとして「幸せ人口 1000 万～ウェルビーイング先進地域、富山～」を掲げ、ウェルビーイングの向上により人材交流の活性化、人材の集積を図り、富山県成長戦略の取組みを進め「関係人口 1000 万人」を目指している。「関係人口 1000 万人」実現のため、県では、富山の強みを一体的に P R できる「寿司」に焦点を絞り、「寿司」を入口として、伝統文化や食文化、自然環境など富山県が世界に誇る魅力を県内外の方々に知ってもらうことで、富山県のブランド力を強化する取組みを実施している。

<調査結果>

問3 あなたは、「寿司」をどの程度食べていますか。（「寿司」は、握り寿司、ます寿し、のり巻き、いなり寿司、ちらし寿司、地域に伝わるお寿司などを含みます。）

(ア)全体

・「月に1～3回程度食べる」が48.6%と最も高く、次いで「年に数回程度食べる」が36.1%、「月に4回程度以上食べる」(13.6%)となっている。

(イ)性別

・「女性」は、「月に1～3回程度食べる」が50.5%と、「男性」の45.9%と比べて4.6ポイント高くなっている。

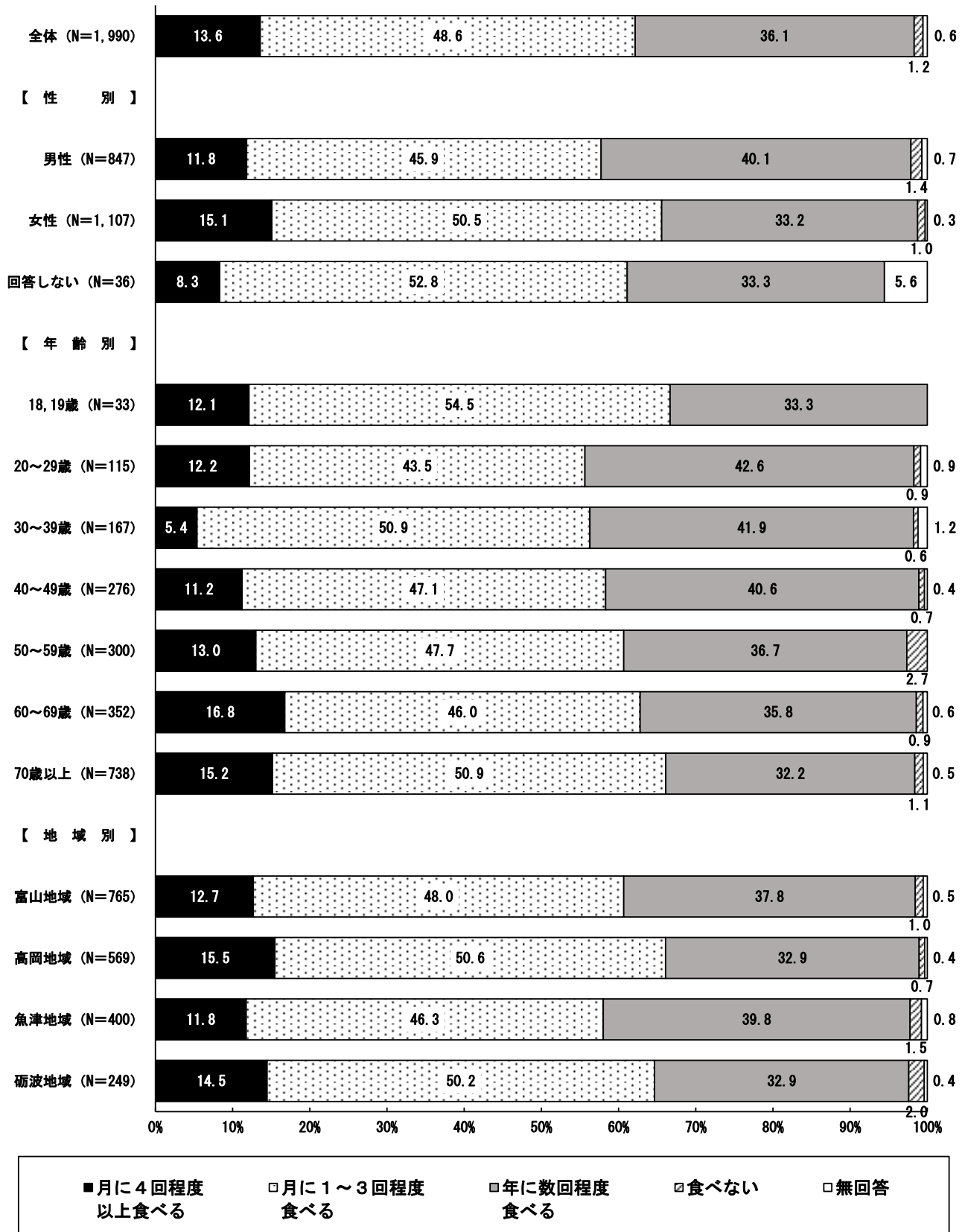
(ウ)年齢別

・「30～39歳」は、「月に4回程度以上食べる」が5.4%と他の年代と比べて低くなっている。

(エ)地域別

・「魚津地域」は、「月に4回以上食べる」が11.8%、「月に1～3回程度食べる」が46.3%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 27 「寿司」を食べる頻度



問4 あなたは、県内の「寿司」を県外の知人、友人等に積極的に勧めたいですか。

(ア)全体

- ・『勧めたい』（「ぜひ勧めたい」と「どちらかと言えば勧めたい」を合算したもの）が92.3%、『勧めたくない』（「どちらかと言えば勧めたくない」と「勧めたくない」を合算したもの）が6.8%となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、「ぜひ勧めたい」が50.6%と、「男性」の38.8%と比べて11.8ポイント高くなっている。

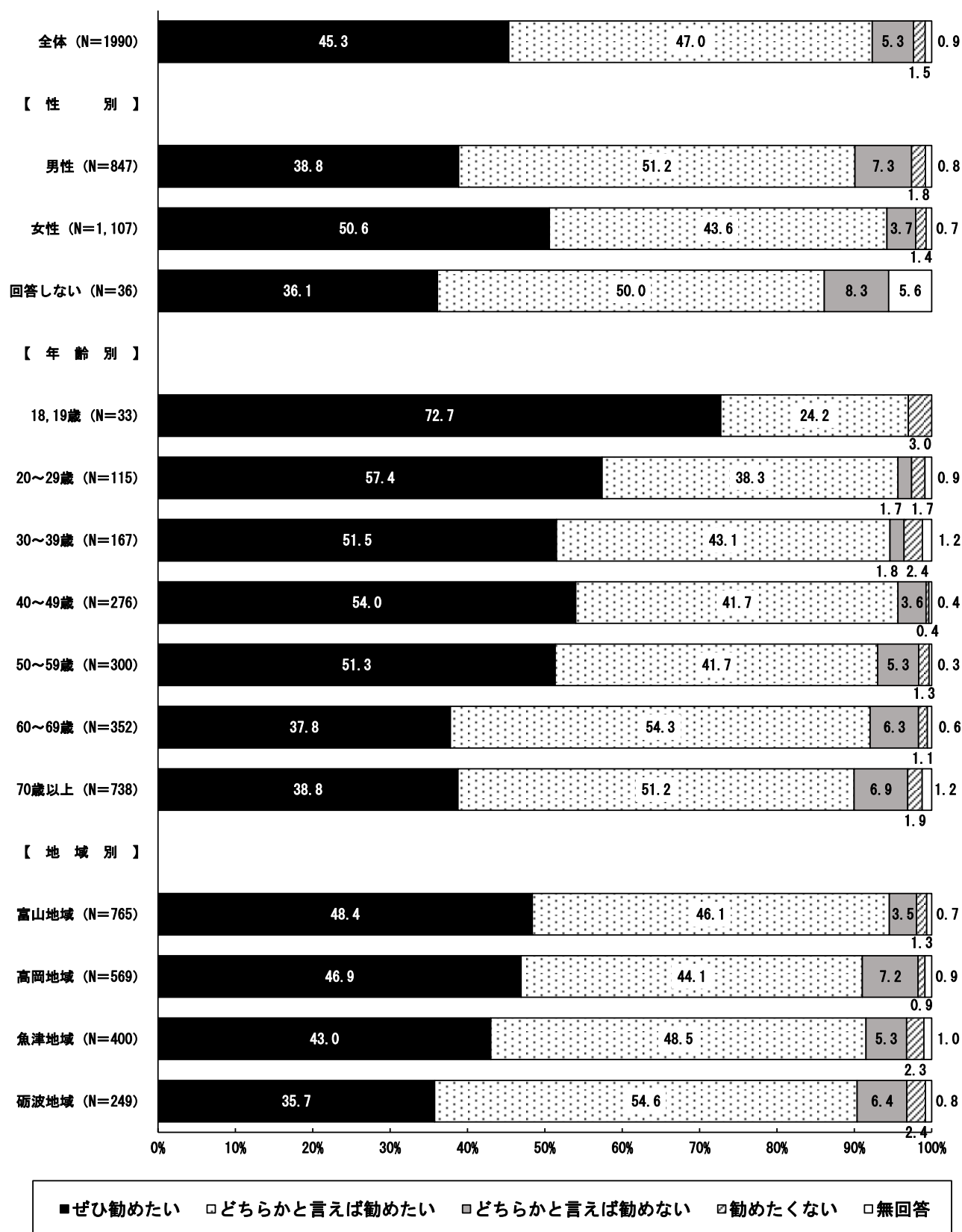
(ウ)年齢別

- ・「ぜひ勧めたい」は、「18、19歳」が72.7%と最も高く、年代が上がるにつれ、概ね、低くなっている。
- ・『勧めたい』は、すべての年代で9割以上となっている。

(エ)地域別

- ・「砺波地域」は、「ぜひ勧めたい」が35.7%と他の地域と比べて低くなっている。
- ・『勧めたい』は、すべての地域で9割以上となっている。

図表 28 「寿司」のお勧め度



<調査結果を受けて>

今回の調査結果のうち、富山の「寿司」を県外の知人・友人等に積極的に勧めたいかについて、「ぜひ勧めたい」と回答した方が5割弱、「どちらかと言えば勧めたい」と回答した方を含めると9割を超えることから、「寿司」に親しみを持つ県民が多いことがわかる。

また、「寿司」をどの程度食べるかについて、「月に4回程度以上食べる」及び「月に1～3回程度食べる」と回答した方の割合が6割を占めており、「寿司」が日々の暮らしに与える影響が一定程度高いことがわかったことから、「寿司」を入口とした富山県の認知度向上に向けた取組みは、県民が富山の魅力を情報発信しやすい取組みと言える。スマホやSNSが普及し、誰もが発信者になれる現代において、県民一人一人がメディアとなって富山の暮らしや魅力を全国全世界に発信していくことは、富山のファンを増やす大きなエネルギーとなる。富山の「寿司」を県外の知人・友人等に「ぜひ勧めたい」と回答する方がより増加するよう、市町村や民間事業者と連携し、富山の寿司をはじめとした食文化、自然環境など、世界に誇る魅力の背景を知ってもらうことで情報拡散したくなる機運を醸成する等、関係人口の増加に向けて取り組んでいく。

(2) ウェルビーイングについて

<いま>

ウェルビーイング (Well-being) は、心も身体も社会的にも”満たされた状態”、実感としての幸せ、心の豊かさなどを表す言葉として、国内外で注目が高まっている。

国では、「経済財政運営と改革の基本方針 2023」(骨太方針 2023) (R5. 6. 16) に、「政府の各種の基本計画等における KPI への Well-being 指標の導入を加速する」等の文言を盛り込むなど、国の政策においてもウェルビーイングが重要な観点となってきている。

県では、令和 4 年 2 月に策定した「富山県成長戦略」において、ウェルビーイングを”中心”に位置付け、「幸せ人口 1000 万～ウェルビーイング先進地域、富山～」のビジョンを掲げている。一人ひとりが、様々な人や社会との”つながり”の中で、日々、”自分らしく”生活していることに満足でき、心豊かに、幸せをずっと実感できる富山県を目指し、ウェルビーイング向上のための施策を展開している。

なお、令和 4 年 9 月にウェルビーイングに関する県民意識調査を実施し、その結果を踏まえ同年 12 月には、富山県独自のウェルビーイング指標を策定した。指標やそのデータは政策形成に活用し、県民起点のきめ細やかな政策展開に繋げていく。

<調査結果>

問5 ウェルビーイングについてご存知か教えてください。

(ア)全体

- ・『言葉を知っている』（「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は知らない」を合算したもの）が42.9%、「言葉も意味も知らない」が56.2%となっている。

(イ)性別

- ・男女間に大きな差はみられない。

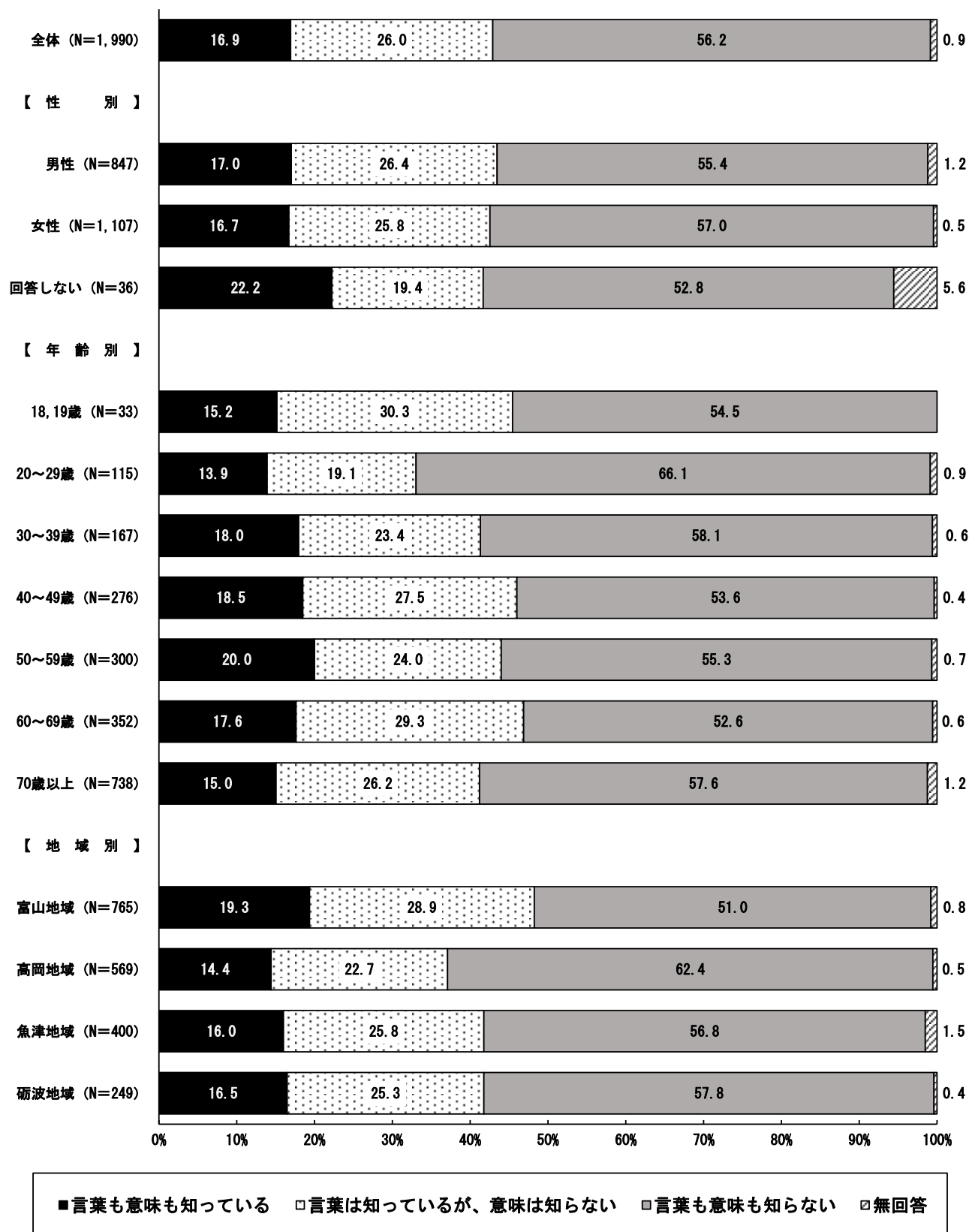
(ウ)年齢別

- ・「20～29歳」は、『言葉を知っている』が33.0%と他の年代と比べて低くなっている。

(エ)地域別

- ・「富山地域」は、『言葉を知っている』が48.2%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 29 ウェルビーイングの認知度



問5-1 問5で、「1. 言葉も意味も知っている」と回答した方にお尋ねします。
ウェルビーイングを知った主なきっかけを3つ以内で選んでください。

(ア)全体

- ・「新聞や雑誌、テレビなどの媒体」が73.9%と最も高く、次いで「ホームページ（ウェブサイト）・SNS」が25.2%、「職場・仕事での取組み」が16.9%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は「県のホームページ」が19.4%と「女性」の13.0%と比べて6.4ポイント高くなっている。
- ・「女性」は「新聞や雑誌、テレビなどの媒体」が78.4%と「男性」の68.8%と比べて9.6ポイント高くなっている。

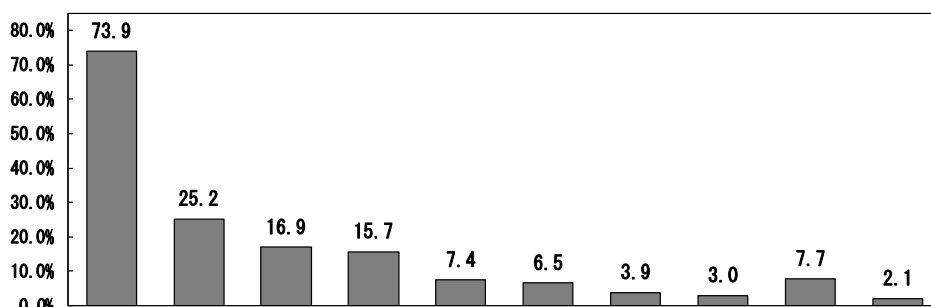
(ウ)年齢別

- ・60歳以上（「60～69歳」、「70歳以上」）は、「新聞や雑誌、テレビなどの媒体」が8割以上と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「民間企業や各種団体での取組み」は、「50～59歳」で10.0%、「70歳以上」で9.0%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・「魚津地域」は、「ホームページ（ウェブサイト）・SNS」が32.8%、「県のホームページ」が20.3%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「砺波地域」は、「職場・仕事での取組み」が9.8%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 30 ウェルビーイングを知ったきっかけ(N=337、M.T.=163.6%)



		有効回答数	新聞や雑誌、テレビなどの媒体	ホームページ(ウェブサイト)・SNS	職場・仕事での取組み	県のホームページ	学校(授業)での取組み	民間企業や各種団体での取組み(シンポジウム等)	民間研究機関等の報告書等	国の報告書等	その他	無回答
全体		337	73.9	25.2	16.9	15.7	7.4	6.5	3.9	3.0	7.7	2.1
性別	男性	144	68.8	27.1	18.1	19.4	4.9	6.3	4.9	4.9	9.0	1.4
	女性	185	78.4	23.8	15.1	13.0	9.2	7.0	2.7	1.1	6.5	2.7
	回答しない	8	62.5	25.0	37.5	12.5	12.5	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0
年齢別	18,19歳	5	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20~29歳	16	62.5	12.5	37.5	18.8	12.5	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0
	30~39歳	30	60.0	26.7	30.0	6.7	16.7	6.7	3.3	3.3	3.3	0.0
	40~49歳	51	58.8	31.4	25.5	3.9	7.8	5.9	5.9	5.9	7.8	0.0
	50~59歳	60	68.3	26.7	28.3	20.0	13.3	10.0	3.3	0.0	5.0	1.7
	60~69歳	62	82.3	33.9	11.3	19.4	0.0	1.6	0.0	0.0	8.1	1.6
	70歳以上	111	87.4	18.9	4.5	18.9	0.9	9.0	6.3	4.5	10.8	4.5
地域別	富山地域	148	75.7	26.4	14.9	14.9	6.1	4.7	4.1	4.1	6.8	2.0
	高岡地域	82	74.4	17.1	19.5	14.6	9.8	8.5	2.4	1.2	6.1	2.4
	魚津地域	64	71.9	32.8	23.4	20.3	4.7	9.4	3.1	1.6	12.5	1.6
	砺波地域	41	70.7	24.4	9.8	12.2	12.2	4.9	7.3	2.4	7.3	2.4

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、「言葉も意味も知っている」は16.9%（前回11.9%）、「言葉は知っているが、意味は知らない」は26.0%（前回17.7%）であり、前回と比べて認知度の向上は見られるものの、県民の皆様への更なる浸透が必要である。

ウェブサイトやSNS等での情報発信を引き続き実施していくほか、県民一人ひとりにウェルビーイングを「自分ごと」として捉えていただけるよう、指標も活用し、年代等に応じて発信手法を工夫しながら、普及促進のための施策を展開していく。

(3) 次の感染対策への備えについて

<いま>

我が国は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応を踏まえ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのある感染症の発生とまん延に備えるため、令和4年12月、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」を一部改正し、令和5年5月に「感染症の予防の総合的な推進を図るための基本的な指針」を改正した。

これを受け、県においても新たな感染症の発生やまん延に対応するため、感染症対策の一層の充実を図ることとし、「富山県感染症予防計画」を改訂することとしている。県は、県、保健所設置市、第一種及び第二種感染症指定医療機関、消防機関その他の関係機関及び関係団体で構成される「富山県感染症対策連携協議会」を設置し、感染症予防計画等について協議を行っているほか、次の感染症危機に備え、新型コロナウイルス感染症のこれまでの流行を踏まえた感染症対策への県民の意識を把握し、感染症予防計画や今後の富山県の取組みに反映することとしている。

<調査結果>

問6 新型コロナウイルス感染症のこれまでの流行を踏まえ、今後の新たな感染症に備え、感染対策として特に充実した方が良いと思う取組みについて、次の中から3つ以内で選んでください。

(ア)全体

- ・「発熱外来の確保」が30.0%と最も高く、次いで「自宅療養者への支援の充実」が29.9%、「治療薬の開発」が29.5%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」と「女性」は、順位は異なるものの、「発熱外来の確保」、「自宅療養者への支援の充実」、「治療薬の開発」が上位3項目を占めている。
- ・「男性」は、「ワクチンの開発」が17.2%と「女性」の11.7%と比べて5.5ポイント高くなっている。
- ・「女性」は、「自宅療養者への支援の充実」が32.2%と最も高くなっている。

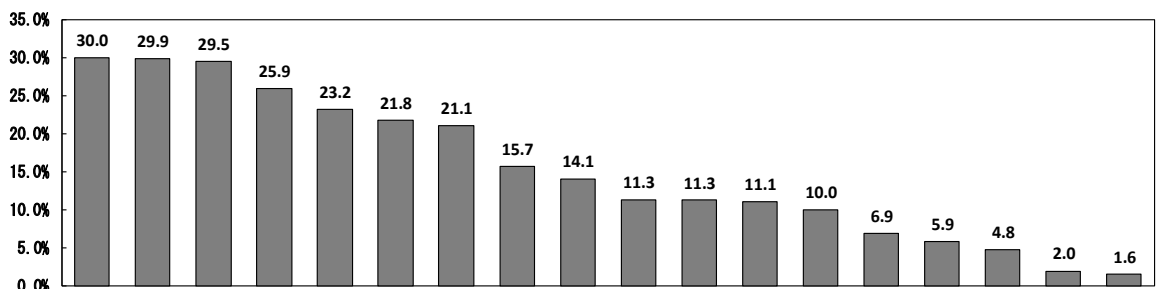
(ウ)年齢別

- ・40歳以上（「40～49歳」、「50～59歳」、「60～69歳」、「70歳以上」）は、順位は異なるものの、「発熱外来の確保」、「自宅療養者への支援の充実」、「治療薬の開発」が上位3項目を占めている。
- ・60歳以上（「60～69歳」、「70歳以上」）は、「ワクチンの開発」が17%以上と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・地域別は、順位は異なるものの、「発熱外来の確保」、「自宅療養者への支援の充実」、「治療薬の開発」が上位3項目を占めている。
- ・「魚津地域」は、「入院病床の確保」が27.5%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 31 新たな感染症に備え、特に充実した方が良い取組み (N=1,990、M. T. =278.6%)



	有効回答数	発熱外来の確保	自宅療養者への支援の充実	治療薬の開発	医療従事者の確保・資質向上	高額な医療費への支援	入院病床の確保	感染症以外の患者を受け入れる医療機関の確保	感染状況の把握、情報発信	ワクチンの開発	検査体制の強化	保健所機能の強化、相談窓口の充実	高齢者施設等での集団感染対策	ワクチンの接種体制の充実	県民への感染拡大防止策の勧奨	宿泊療養施設の確保・充実	不要不急の外出自粛要請や施設の使用制限、時短要請等	その他	無回答	
全体	1,990	30.0	29.9	29.5	25.9	23.2	21.8	21.1	15.7	14.1	11.3	11.3	11.1	10.0	6.9	5.9	4.8	2.0	1.6	
性別	男性	847	29.6	26.8	26.1	24.2	24.1	23.4	18.5	16.1	17.2	13.1	10.3	9.1	11.5	7.1	6.6	3.8	2.8	1.7
	女性	1,107	30.6	32.2	31.9	27.0	22.8	20.2	23.3	15.8	11.7	9.8	11.9	12.6	9.1	6.6	5.4	5.4	1.4	1.3
	回答しない	36	19.4	33.3	36.1	30.6	16.7	30.6	13.9	5.6	11.1	13.9	13.9	8.3	2.8	11.1	2.8	8.3	0.0	8.3
年齢別	18,19歳	33	24.2	27.3	27.3	30.3	24.2	18.2	15.2	12.1	3.0	12.1	6.1	12.1	6.1	6.1	6.1	6.1	3.0	0.0
	20~29歳	115	32.2	33.9	23.5	33.0	20.0	26.1	24.3	7.8	9.6	7.8	10.4	9.6	4.3	3.5	5.2	4.3	3.5	2.6
	30~39歳	167	35.9	36.5	25.1	31.1	20.4	16.8	30.5	10.2	7.8	7.8	9.0	10.2	6.0	3.6	7.8	5.4	3.6	1.2
	40~49歳	276	31.9	32.6	34.1	26.8	20.3	19.9	23.9	9.8	9.8	12.0	9.4	8.0	5.8	6.9	4.0	3.3	5.4	0.4
	50~59歳	300	32.0	31.3	33.3	26.0	25.7	20.0	20.7	13.3	12.3	11.7	13.0	10.0	11.3	3.0	6.7	4.3	2.7	0.3
	60~69歳	352	31.8	30.7	29.8	23.0	24.1	20.7	18.8	16.8	17.9	11.9	15.1	15.3	9.9	6.5	6.5	4.3	0.6	0.6
	70歳以上	738	26.3	26.0	27.8	24.4	24.1	24.3	19.0	21.3	17.1	11.7	10.4	11.1	13.0	10.0	5.7	5.6	0.4	2.8
地域別	富山地域	765	32.0	29.8	27.5	25.8	22.9	19.9	21.4	14.9	13.2	11.8	13.1	11.0	10.5	6.4	5.5	4.8	1.7	1.7
	高岡地域	569	31.3	31.1	32.3	25.7	24.1	20.0	21.1	14.4	13.2	10.9	9.3	12.7	9.0	9.0	5.3	5.4	1.8	1.1
	魚津地域	400	28.0	30.8	28.0	27.3	23.3	27.5	21.3	17.3	15.5	12.5	11.8	8.8	10.8	4.5	7.0	3.8	2.5	1.3
	砺波地域	249	24.5	26.1	30.9	24.5	22.9	22.1	19.7	19.3	16.5	8.4	9.6	11.6	10.0	7.6	6.8	4.4	2.4	2.4

<調査結果を受けて>

今回の調査結果によると、「今後の新たな感染症に備え、感染対策として特に充実した方が良いと思う取組み」として「発熱外来の確保」が30.0%と最も高く、次いで「自宅療養者への支援の充実」(29.9%)、「治療薬の開発」(29.5%)が続く。調査対象を性別、年齢別(40歳以上)、地域別に分類した場合においても、これらの取組みは上位3項目を占める。

新たな感染症の発生時期や感染力等を予測することは困難であるものの、平時から新興感染症発生・まん延時の医療提供体制を検討し、速やかに対応できるよう準備を進めておくことが必要である。また、医療提供体制の検討にあたっては、まずは現に対応しており、これまでの教訓を生かすことができる新型コロナウイルスへの対応を念頭に、入院(病床確保)、発熱外来、自宅療養者等への医療提供等の確保・強化に取り組むことが重要である。

県は、令和6年度以降、富山県感染症対策連携協議会を通じ、感染症予防計画に基づく取組状況や進捗確認を行いながら、関係機関との連携強化や平時より新興感染症発生・まん延時の医療提供体制構築のための取組みを進める。また、平時に新興感染症の対応を行う病院・診療所、薬局及び訪問看護事業所と協定を締結し、感染症発生段階に応じた医療提供体制の速やかな構築に取り組むたい。

(4)犯罪の予防について

<いま>

県警察では、「日本一安全で安心して暮らせるとやまの実現」をめざして、県民の安心感が得られる効果的な警察活動に努めるとともに、犯罪検挙、犯罪抑止等の各種活動を推進している。

県内の刑法犯認知件数は、平成 13 年のピーク時から 4 分の 1 以下に減少しており、とりわけ万引き、車上ねらいといった窃盗犯罪は大きく減少している。

一方で、情報技術の発展や社会情勢の変化に伴い、被疑者と被害者が対面せずに敢行される特殊詐欺やサイバー犯罪、家族等私的な関係の中で発生することが多いストーカー・DV 事案、児童虐待のほか、子供・女性に対する声掛け事案など、犯罪の態様や手口は複雑化しており、予断を許さない情勢にある。

<調査結果>

問7 あなたは、自分や家族が、犯罪の被害に遭うのではないかと不安を感じることがありますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『不安を感じることがある』（「よくある」と「たまにある」を合算したもの）が55.1%、『不安を感じることがない』（「ほとんどない」と「まったくない」を合算したもの）が43.6%となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、『不安を感じることがある』が59.5%と「男性」の49.7%と比べて9.8ポイント高くなっている。

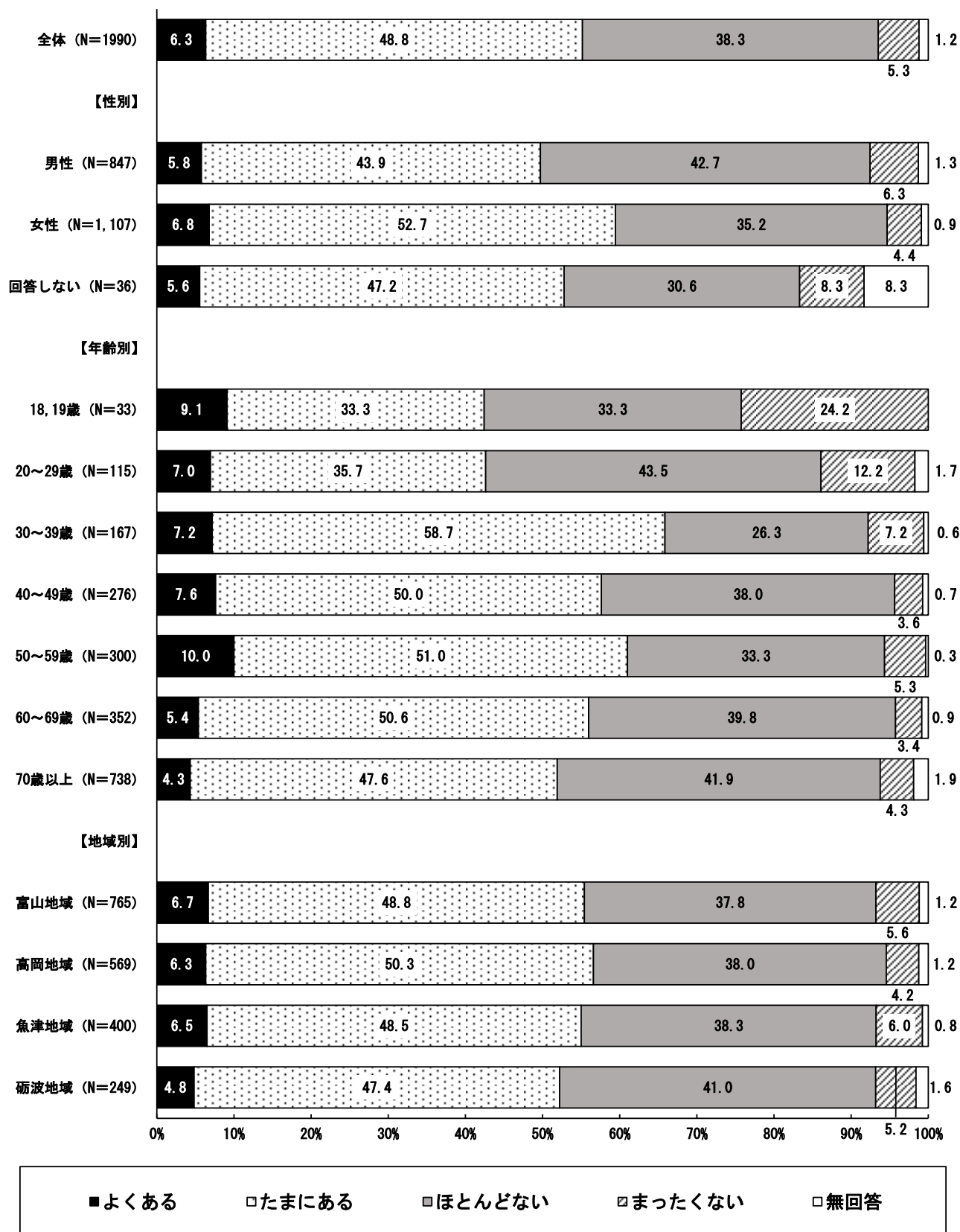
(ウ)年齢別

- ・「18、19歳」、「20～29歳」は、『不安を感じることがある』が4割程度と他の年代と比べて低くなっている。

(エ)地域別

- ・地域別に大きな差はないが、「砺波地域」は、『不安を感じることがある』が52.2%と他の地域と比べて若干低くなっている。

図表 32 犯罪被害に遭うことへの不安感



問7-1 問7で「1. よくある」「2. たまにある」と回答した方にお聞きします。

どのような犯罪に不安を感じますか。

次の中から当てはまるものを5つ以内で選んでください。

(ア)全体

- ・「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」が57.6%と最も高く、次いで「オレオレ詐欺をはじめとした特殊詐欺」が51.4%、「インターネット（パソコン、スマートフォン）を利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等」が38.3%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、「暴行、傷害等の粗暴な犯罪」（19.0%）、「ごみの不法投棄等の環境犯罪」（19.5%）、「外国人による犯罪」（18.3%）が「女性」と比べて高くなっている。
- ・「女性」は、「通り魔的犯罪」（24.8%）、「高齢者に対する犯罪」（25.4%）、「子供に対する犯罪」（24.3%）が「男性」と比べて高くなっている。

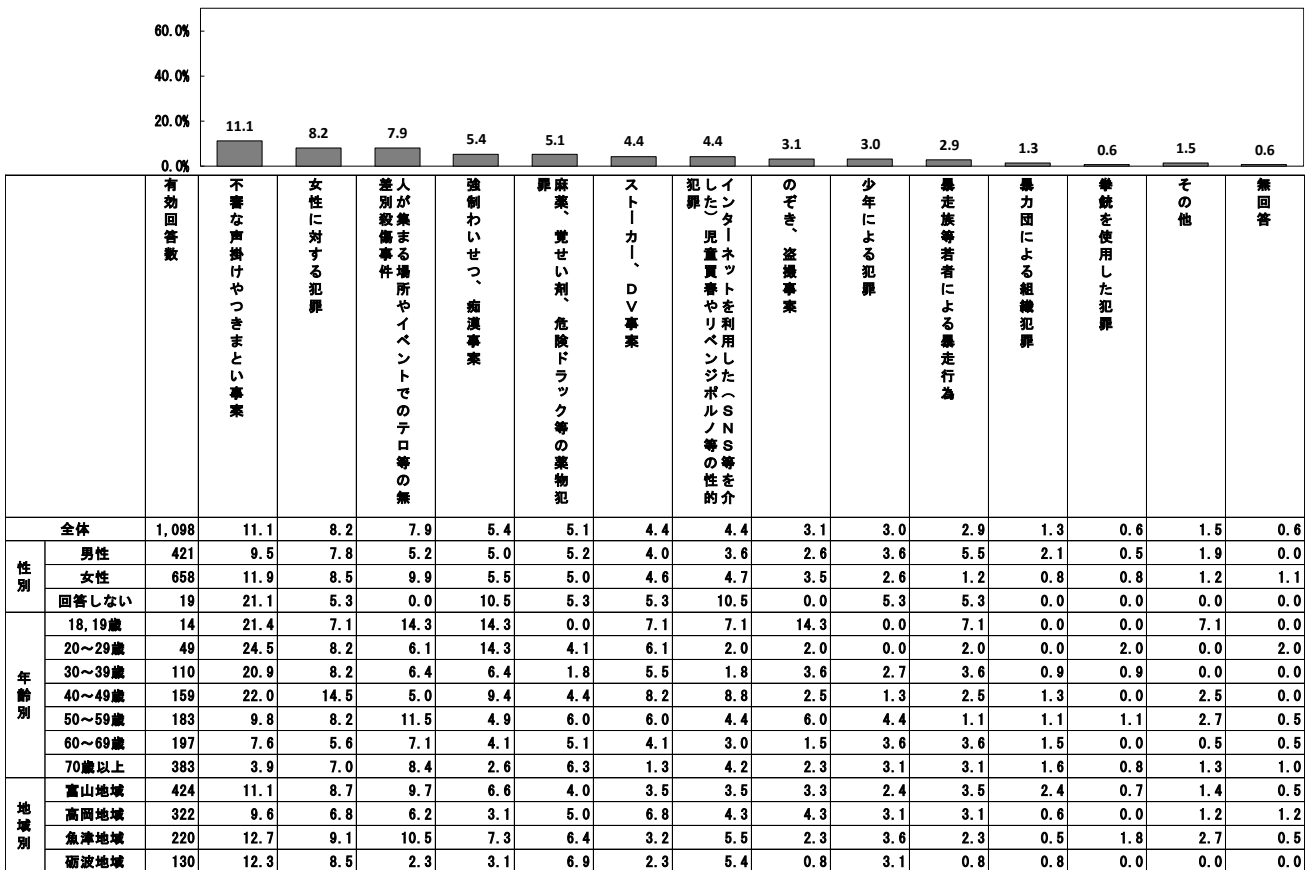
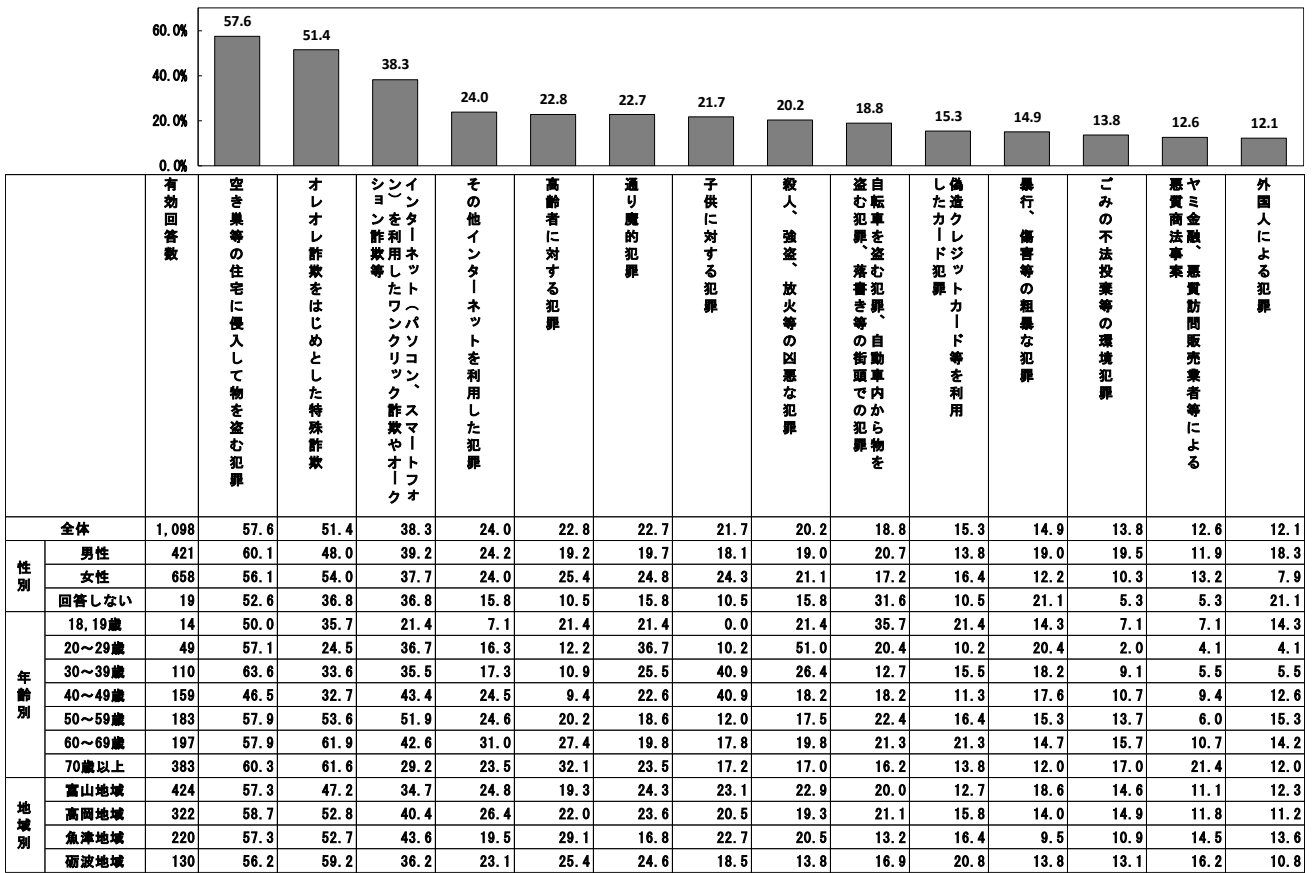
(ウ)年齢別

- ・「30～39歳」、「40～49歳」は、「子供に対する犯罪」が約4割と他の年代と比べて高くなっている。
- ・50歳未満（「18, 19歳」、「20～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」）は、「不審な声掛けや付きまとい事案」が約2割と高くなっている。
- ・50歳以上（「50～59歳」、「60～69歳」、「70歳以上」）は、「オレオレ詐欺をはじめとした特殊詐欺」が5割以上と高くなっている。

(エ)地域別

- ・「富山地域」、「高岡地域」、「魚津地域」は、「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」が最も高くなっている。
- ・「砺波地域」は、「オレオレ詐欺をはじめとした特殊詐欺」が59.2%と最も高くなっており、「殺人、強盗、放火等の凶悪な犯罪」が13.8%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 33 不安を感じる犯罪(N=1,098、M. T. =407.3%)



<調査結果を受けて>

犯罪被害に不安を感じる人の割合が、前回（令和4年度）より1.4ポイント増加し、不安を感じる犯罪27種のうち、15種について前回より不安を感じる人の割合が減少した。

一方、前回同様に「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」「オレオレ詐欺をはじめとした特殊詐欺」「インターネット（パソコン、スマートフォン）を利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等」が不安を感じる犯罪の上位を占めている。

県警察では、引き続き、犯罪に対する検挙活動を徹底するとともに、県や関係機関・団体と連携し、犯罪発生実態を踏まえたパトロールや地域安全メールを活用した情報発信のほか、施錠の呼び掛けや防犯カメラの設置促進、特殊詐欺に対する広報啓発活動や被害の未然防止対策、実行犯を生まないためのSNS・闇バイト対策、産学官連携によるサイバーセキュリティ対策など、総合的な犯罪抑止対策を推進し、県民の不安感の解消に努めてまいりたい。

(5)地域交通について

<いま>

地域交通は、交通弱者等にとってのセーフティネットであるだけでなく、地域の観光や商業、福祉、子育て、教育等、様々な分野の振興を移動の面から支え、人と人との交流を生み出すなど、生き生きと暮らせる魅力的なまちづくり、そして県民のウェルビーイングの向上にとって欠かせないサービスである。

本県の県民一人当たりの地域交通の利用回数は、平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業等を背景に、コロナ禍前まで増加が続いていた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行により、地域交通の利用回数は大きく減少し、さらには燃料価格など物価の高騰の影響を大きく受け、今後も人口減少・少子高齢化が進展するなど、地域交通をとりまく環境はこの数年で大きく変化し、厳しさを増している。

こうした中、将来にわたって持続可能な地域交通サービスを確保するため、県では、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく地域公共交通計画として、「富山県地域交通戦略」を新たに策定する。

<調査結果>

問8 普段の生活で県内の鉄道、路面電車、バス、タクシーなどをどの程度利用されますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア)全体

- ・「利用しない」が41.8%と最も高く、次いで「年1～2日程度利用」が38.9%、「月1～2日程度利用」が12.5%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、「月1～2日程度利用」が14.6%と「女性」の10.9%と比べて3.7ポイント高くなっている。

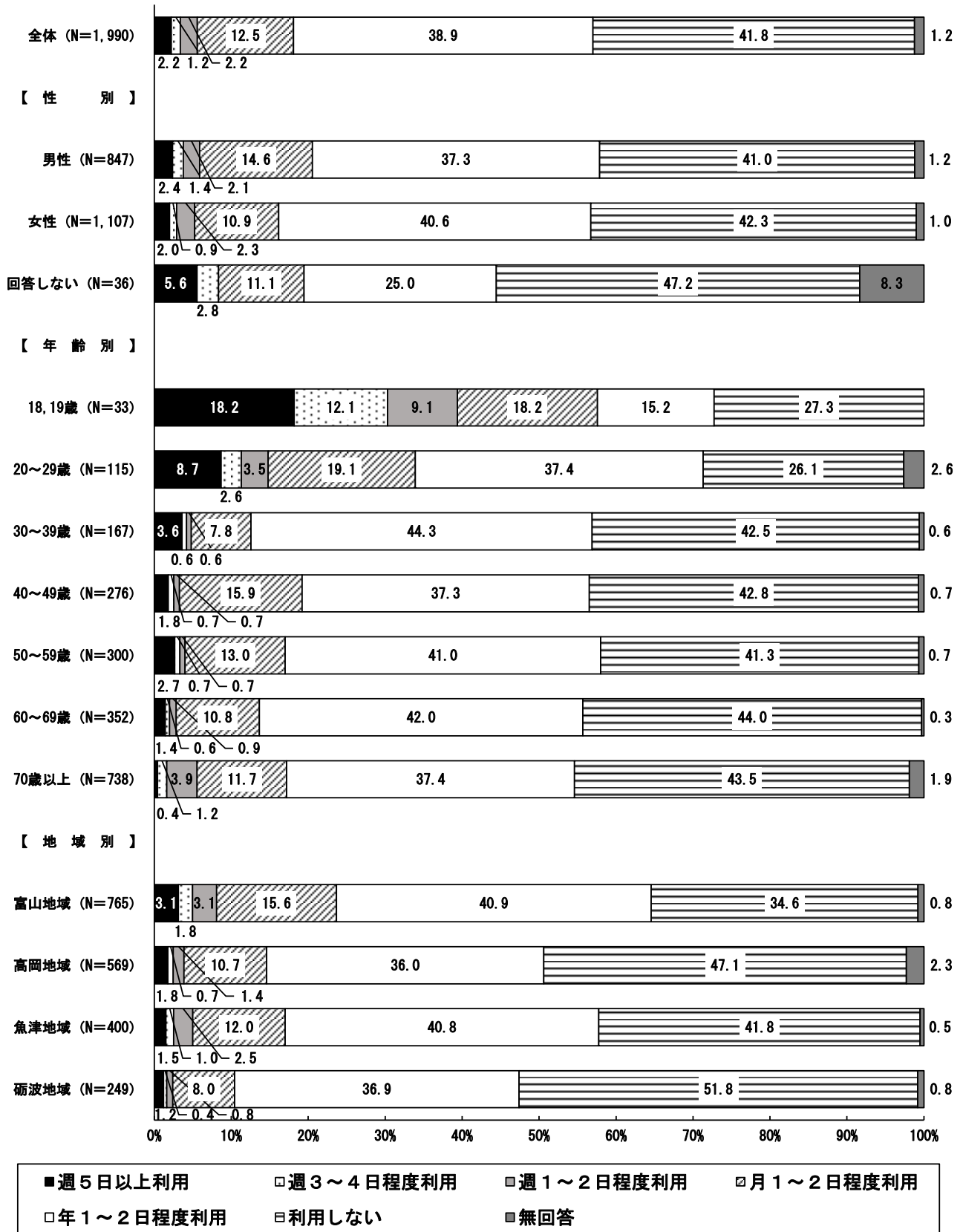
(ウ)年齢別

- ・「週5日以上利用」は、「18、19歳」が18.2%と最も高く、年代が上がるにつれ、概ね、低くなっている。

(エ)地域別

- ・「富山地域」は、「月1～2日程度」以上の頻度で地域交通を利用するという回答が23.6%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「魚津地域」は、「月1～2日程度」以上の頻度で地域交通を利用するという回答が17.0%と「富山地域」に次いで高くなっている。

図表 34 地域交通の利用状況



問9 鉄道、路面電車、バス、タクシーなどを利用して、便利で使いやすい、安全快適に移動できると感じたことはありますか。

次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア)全体

・『感じたことはある』（「はい」と「どちらかと言えばはい」を合算したもの）が38.9%、『感じたことはない』（「どちらかと言えばいいえ」と「いいえ」を合算したもの）が24.7%、「利用していないのでわからない」が33.8%となっている。

(イ)性別

・男女間に大きな差はみられない。

(ウ)年齢別

・「18、19歳」は、『感じたことはある』が72.7%と他の年代と比べて最も高く、『感じたことはない』が15.2%と他の年代と比べて最も低くなっている。

・「20～29歳」は、『感じたことはある』が49.5%と「18、19歳」と比べて低く、『感じたことはない』が33.1%と「18、19歳」と比べて高くなっている。

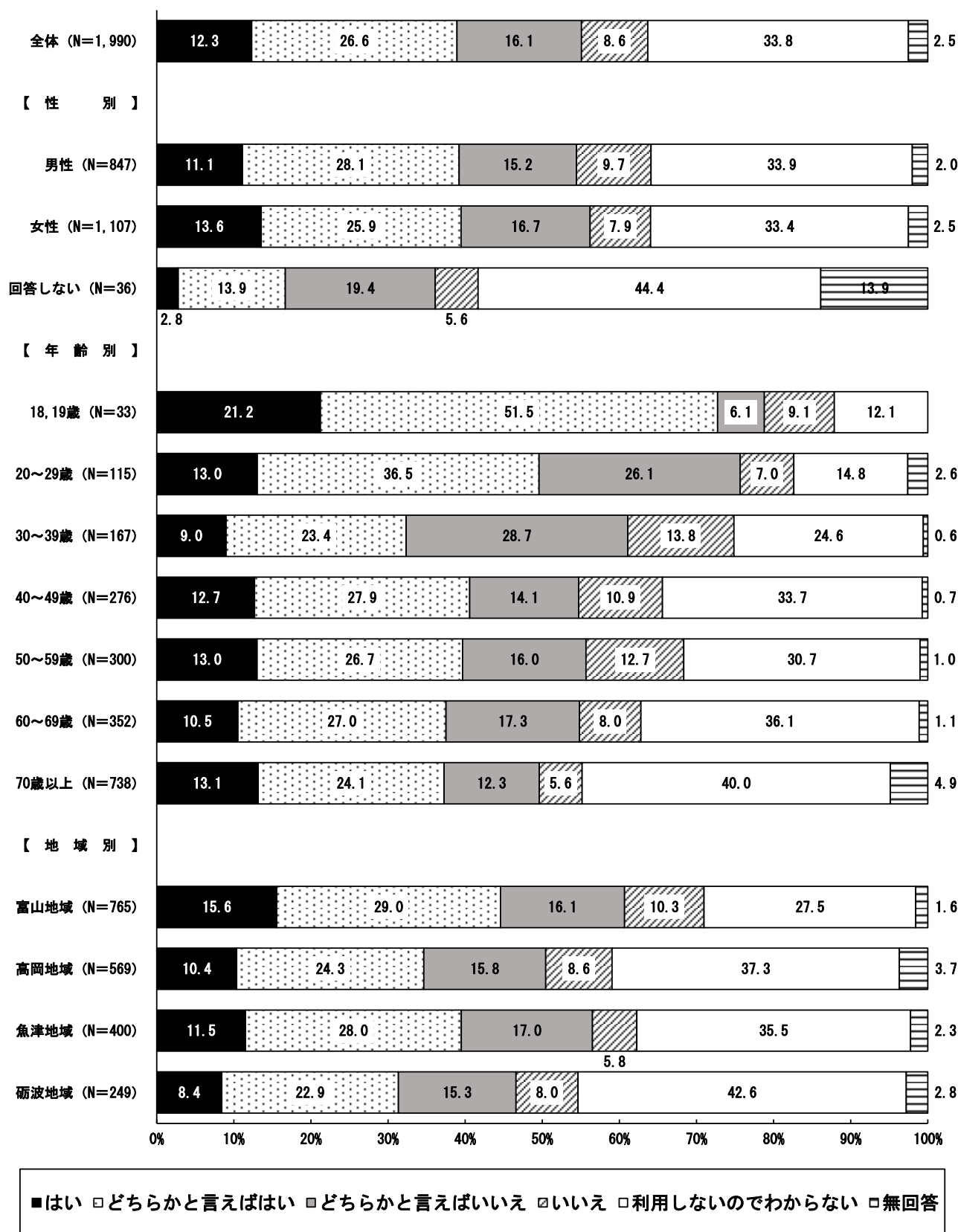
・「30～39歳」は、『感じたことはない』が42.5%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

・「富山地域」は、『感じたことはある』が44.6%と他の地域に比べて最も高くなっている。

・「魚津地域」は、『感じたことはある』が39.5%と「富山地域」に次いで高くなっている。

図表 35 地域交通を利用して、便利で使いやすい、安全快適に移動できると感じたことはあるか



問 10 鉄道、路面電車、バス、タクシーなどを利用して、自分の住む地域や人との関わりあいがあった、暮らしの中で生きがいをもてたと感じたことはありますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『感じたことはある』（「はい」と「どちらかと言えばはい」を合算したもの）が 17.3%、『感じたことはない』（「どちらかと言えばいいえ」と「いいえ」を合算したもの）が 42.0%、「利用していないのでわからない」が 38.3%となっている。

(イ)性別

- ・男女間に大きな差はみられない。

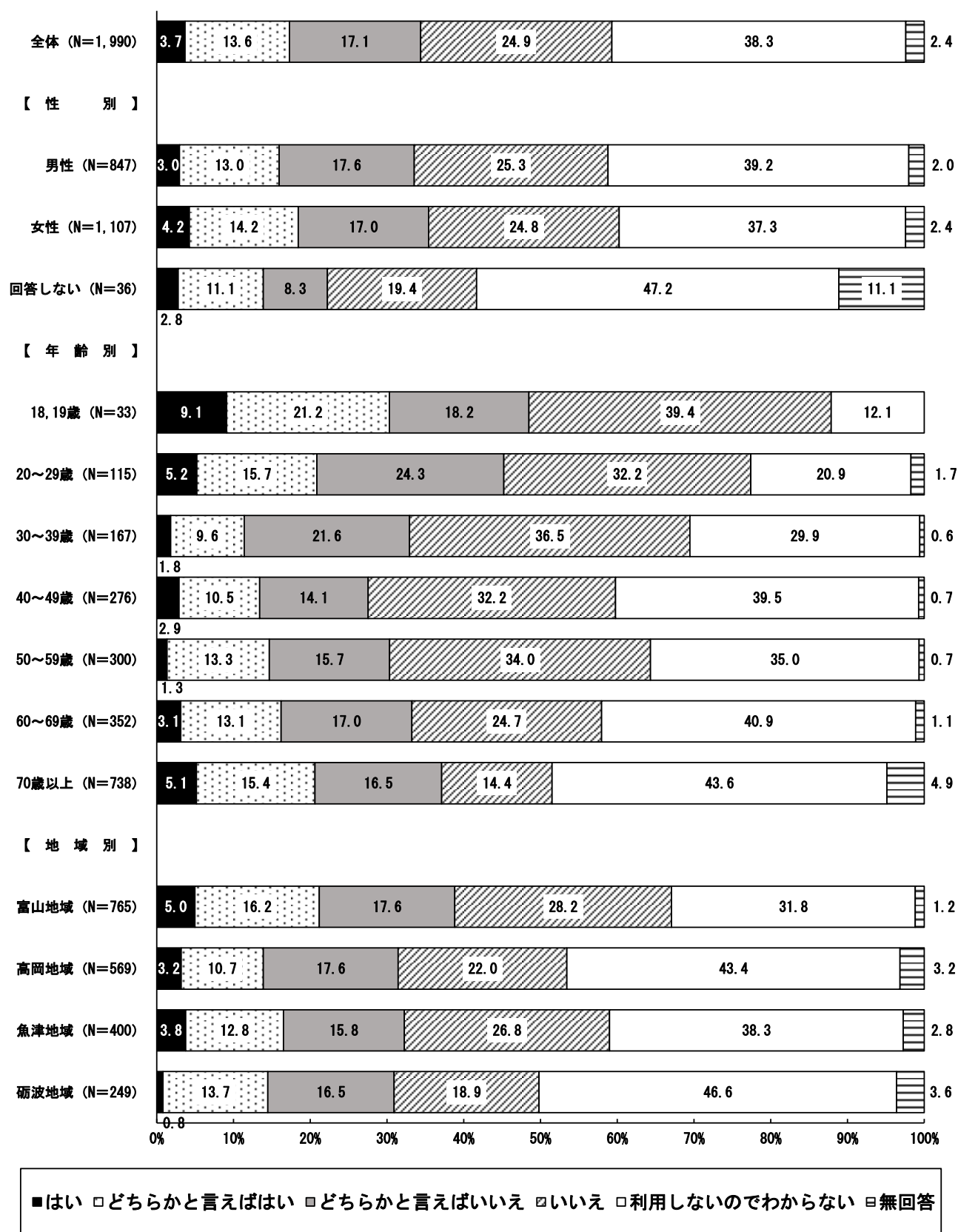
(ウ)年齢別

- ・『感じたことはある』は、「18、19 歳」が 30.3%と最も高く、次いで「20～29 歳」が 20.9%、「70 歳以上」が 20.5%となっている。

(エ)地域別

- ・「富山地域」は、『感じたことはある』が 21.2%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 36 地域交通を利用して、自分の住む地域や人との関わりあいがあった、暮らしの中で生きがいをもてたと感じたことはあるか



問 11 鉄道、路面電車、バス、タクシーなどを利用して、お得に出かけることができた、健康や環境などにいいことができたと感じたことはありますか。
次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア)全体

・『感じたことはある』（「はい」と「どちらかと言えばはい」を合算したもの）が 23.0%、『感じたことはない』（「いいえ」と「どちらかと言えばいいえ」を合算したもの）が 35.6%、「利用していないのでわからない」が 38.3%となっている。

(イ)性別

・「女性」は、『感じたことはある』が 25.7%と「男性」の 20.3%と比べて 5.4 ポイント高くなっている。

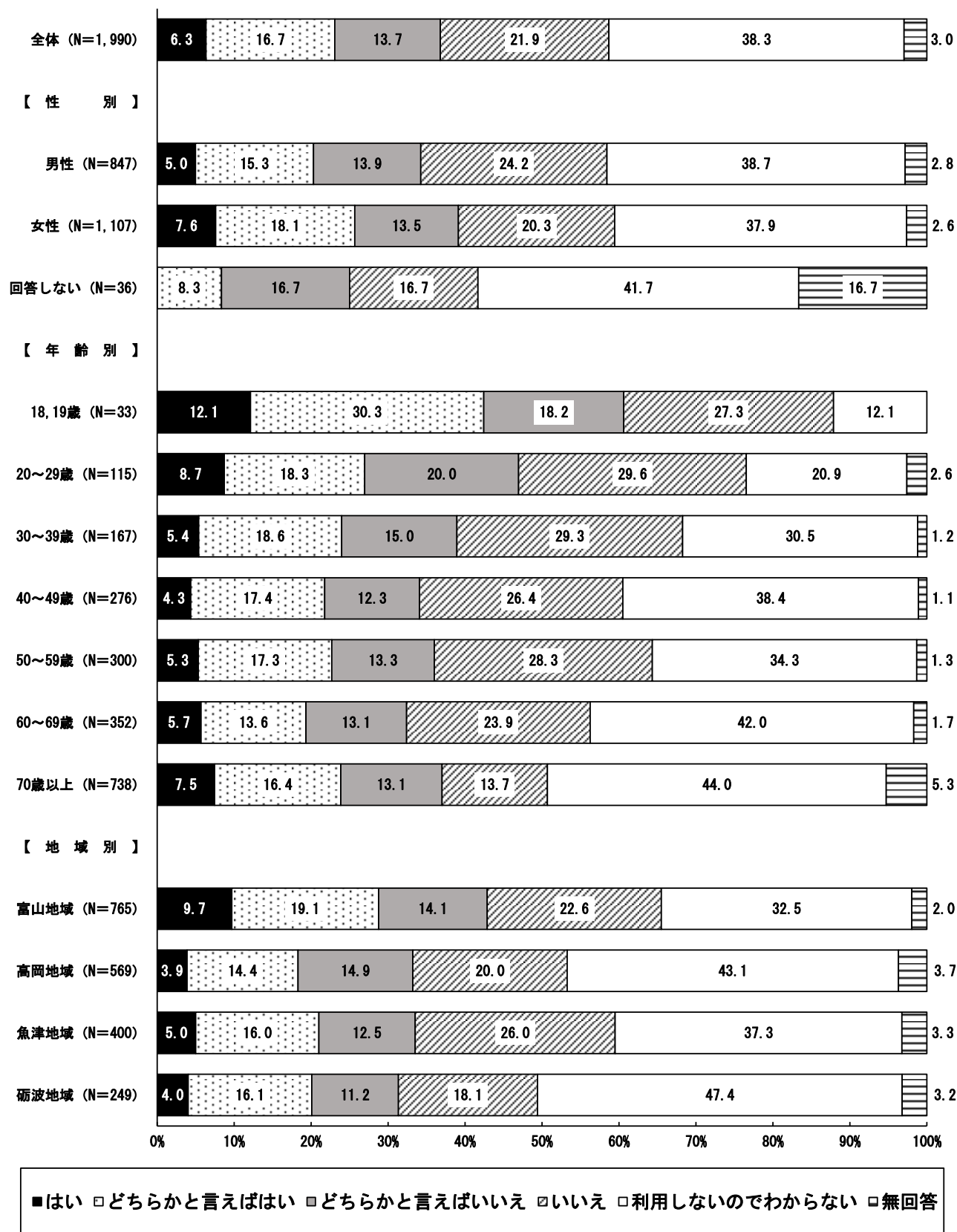
(ウ)年齢別

・「18、19 歳」は、『感じたことはある』が 42.4%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

・「富山地域」は、『感じたことはある』が 28.8%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 37 地域交通を利用して、お得に出かけることができた、健康や環境などにいいことができたと感じたことはあるか



問 12 鉄道、路面電車、バス、タクシーなどの利用促進のために重視する点はなんですか。

次の中から当てはまるものを2つ以内で選んでください。

(ア)全体

- ・「わかりやすい、使いやすいダイヤ・運行本数」が55.3%と最も高く、次いで「時刻、経路、運行状況などの充実した情報提供」が33.4%、「乗り放題サービスなど、お得感がある企画乗車券」が27.6%となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、「わかりやすい、使いやすいダイヤ・運行本数」が58.0%と「男性」の51.8%と比べて6.2ポイント高くなっている。

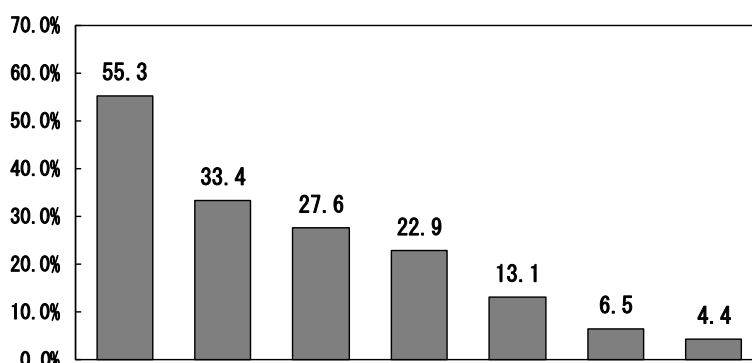
(ウ)年齢別

- ・「20～29歳」は、「乗り放題サービスなど、お得感がある企画乗車券」が19.1%と他の年代と比べて低くなっている。
- ・「車両の更新、車両の増、混雑解消などによる快適な車内環境」は、年代が上がるにつれ、概ね、低くなっている。

(エ)地域別

- ・「富山地域」、「高岡地域」は、「時刻、経路、運行状況などの充実した情報提供」が3割強と他の地域と比べて高く、「魚津地域」、「砺波地域」は、「乗り放題サービスなど、お得感がある企画乗車券」が約3割と他の地域と比べて高くなっている。

図表 38 地域交通の利用促進のために重視する点(N=1,990、M. T. 166.0%)



		有効回答数	わかりやすい、使いやすいダイヤ・運行本数	時刻、経路、運行状況などの充実した情報提供	乗り放題サービスなど、お得感がある企画乗車券	誰もが快適に過ごせる駅やバス停の環境	車両の更新、車両の増、混雑解消などによる快適な車内環境	その他	無回答
全体		1,990	55.3	33.4	27.6	22.9	13.1	6.5	4.4
性別	男性	847	51.8	32.6	26.0	22.4	14.0	7.2	4.5
	女性	1,107	58.0	34.4	28.5	23.6	12.2	6.1	4.3
	回答しない	36	52.8	19.4	36.1	11.1	19.4	5.6	2.8
年齢別	18,19歳	33	45.5	33.3	24.2	24.2	30.3	9.1	0.0
	20～29歳	115	64.3	28.7	19.1	22.6	30.4	3.5	0.0
	30～39歳	167	59.3	34.7	29.3	24.0	19.8	6.0	0.0
	40～49歳	276	63.4	32.2	26.4	20.7	17.0	4.7	2.2
	50～59歳	300	60.7	29.3	26.7	20.7	15.7	8.7	1.7
	60～69歳	352	52.3	36.4	26.1	26.4	11.4	7.4	3.7
	70歳以上	738	49.9	34.1	30.2	22.6	6.2	6.4	8.3
地域別	富山地域	765	55.7	35.8	24.1	23.1	15.4	7.2	3.4
	高岡地域	569	56.4	34.4	28.5	21.1	12.3	4.6	5.4
	魚津地域	400	54.5	29.3	31.5	25.0	11.3	7.0	2.8
	砺波地域	249	53.0	29.3	30.1	22.1	10.4	8.0	7.2

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、地域交通の利用状況については、「利用しない」が41.8%と最も高く、次いで「年1～2日程度利用」が38.9%となっており、「月1～2日程度」以上の頻度で地域交通を利用するという回答は18.1%となった。

地域交通への満足度については、肯定的な回答の割合が、「便利で使いやすい、安全快適に移動できると感じたことはあるか」では38.9%、「自分の住む地域や人との関わりあいがあった、暮らしの中で生きがいをもてたと感じたことはあるか」では17.3%、「お得に出かけることができた、健康や環境などにいいことができたと感じたことはあるか」では23.0%となった。

地域交通の利用促進のために重視する点については、「わかりやすい、使いやすいダイヤ・運行本数」を求める回答が55.3%と最も高かった。

「富山県地域交通戦略」では、地域交通サービスを「公共サービス」と位置づけ、自治体・県民の役割を、これまでの事業者への側面支援から、自らの地域に対する「投資」「参画」へと舵を切ることとした。

今回の調査結果も踏まえ、今後、施策の着実な実行を通じ、地域交通の利用機会の増加と地域交通への満足度の改善等を図ってまいりたい。

(6)リカレント教育への取組みについて

<いま>

人生 100 年時代や Society5.0※の到来を迎え、誰がいくつになっても学び直し、活躍できる社会の実現のため、産学官が連携しリカレント教育を一層推進することが求められている。

県では、「富山県人生 100 年時代人づくり構想会議」(H30)の提言を受け、本県において取り組むべきリカレント教育等の学習内容や実施方法等について、提供側の県内高等教育機関と職業能力訓練機関、受講者側の経済・労働者団体、そして行政の各関係機関が協議する「富山県リカレント教育等産学官連携推進会議」(R1～)を設置した。

また、職務能力の向上を図るビジネスパーソンや一旦職を離れ復職を希望する社会人の学び直しをサポートするため、県内高等教育機関が社会人を対象に職務上の知識や技術の習得に有用な学習講座「リカレント教育等産学官連携講座」を、社会人が受講しやすい CiC ビル 5 階研修室等において開講するとともに、平日夕方、土日・祝日に開講する場合の経費の一部を支援し、県民等への普及啓発を行っている。

※「Society5.0」とは

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society） 狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されたもの

<調査結果>

問 13 現在、お勤めですか。

(ア)全体

- ・「勤めている」が 51.9%、「現在、職についていないが、就職を目指して準備中」が 2.7%、「いずれにも該当しない」が 40.4%となっている。

(イ)性別

- ・「勤めている」は「男性」が 57.7%、「女性」が 47.4%となっている。

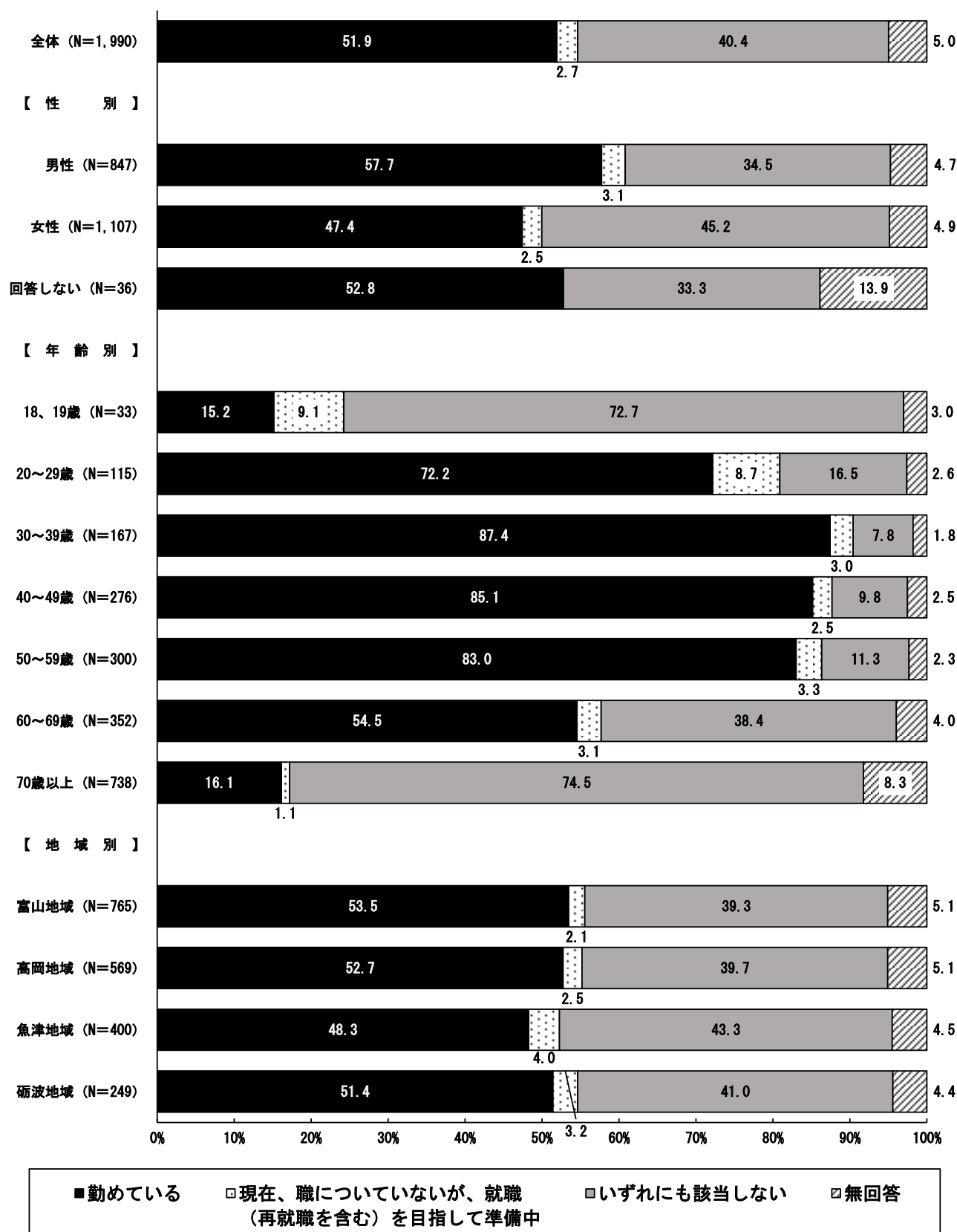
(ウ)年齢別

- ・「勤めている」は、「18、19 歳」が 15.2%、「20～29 歳」が 72.2%、30～50 歳代（「30～39 歳」、「40～49 歳」、「50～59 歳」）が 8 割以上、「60～69 歳」が 54.5%、「70 歳以上」が 16.1%となっている。

(エ)地域別

- ・地域間に大きな差はみられないが、「魚津地域」は、「勤めている」が 48.3%と他の地域と比べて若干低くなっている。

図表 39 就業状況



問 13-1 問 13 で「1. 勤めている」「2. 現在、職についていないが、就職（再就職を含む）を目指して準備中」と回答した方にお尋ねします。あなたはリカレント教育※（社会人の学び直し）として、現在、何か取り組んでいますか。
次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「何もしていない」が 61.2%と最も高く、次いで「関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等により、情報収集や学習をしている」が 23.0%、「講習会、研修会等に参加して、情報収集や学習をしている」が 13.8%となっている。

(イ)性別

- ・男女間に大きな差はみられない。

(ウ)年齢別

- ・全ての年代で「何もしていない」が約 6 割と最も高くなっている。
- ・「関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等により、情報収集や学習をしている」は、年代が上がるにつれ、概ね、低くなっている。

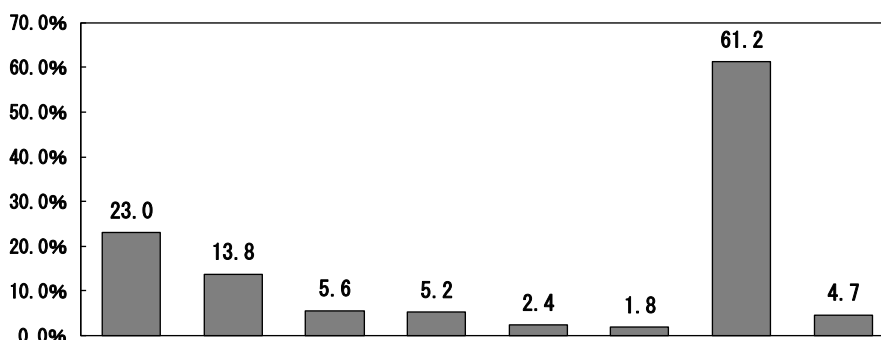
(エ)地域別

- ・「高岡地域」は、「関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等により、情報収集や学習をしている」が 19.4%と他の地域と比べて若干低く、「会社の同僚や友人、知人と勉強会を開催し、情報収集や学習をしている」が 7.3%と他の地域と比べて若干高くなっている。

※「リカレント教育（社会人の学び直し）」とは

人生 100 年時代や IoT、AI など第四次産業革命による急速な技術革新の進展等を見据え、社会人が職業能力（技術・知識）の向上を図り、キャリアアップ（昇進・昇格、正社員登用等）、キャリアチェンジ（転職）や起業、現在従事している仕事の改革・改善、定年後の就職など、人生の様々なステージで活躍できるようにする学び直しのこと。（いわゆる生涯学習とは違うもの。）

図表 40 リカレント教育への取り組み(N=1,087、M. T. =123.6%)



		有効回答数	関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等	講習会、研修会等に参加して、情報収集や学習をしている。	会社の同僚や友人、知人と勉強会を開催し、情報収集や学習をしている。	通信教育やインターネットの学習サービスにより学習している。	大学、専門学校、職業訓練機関等に通って学習している。	その他	何もしていない	無回答
全体		1,087	23.0	13.8	5.6	5.2	2.4	1.8	61.2	4.7
性別	男性	515	24.9	12.8	5.0	5.8	2.9	2.3	59.4	4.3
	女性	553	21.3	14.6	6.0	4.9	2.0	1.4	62.7	5.1
	回答しない	19	21.1	15.8	10.5	0.0	0.0	0.0	63.2	5.3
年齢別	18、19歳	8	0.0	0.0	0.0	12.5	37.5	0.0	62.5	0.0
	20～29歳	93	25.8	14.0	4.3	7.5	7.5	2.2	60.2	1.1
	30～39歳	151	25.8	11.3	7.3	10.6	0.7	0.7	56.3	2.0
	40～49歳	242	26.9	15.7	4.1	5.4	1.7	0.4	62.0	1.7
	50～59歳	259	22.8	14.7	6.2	4.6	3.1	1.2	61.4	1.9
	60～69歳	203	19.7	12.8	6.4	2.0	1.0	4.4	66.0	2.5
	70歳以上	127	16.5	14.2	5.5	3.1	0.8	3.1	58.3	25.2
地域別	富山地域	425	23.8	15.3	5.4	6.8	2.6	1.4	62.1	4.2
	高岡地域	314	19.4	12.7	7.3	5.1	1.6	2.2	58.9	6.1
	魚津地域	209	25.4	12.0	4.8	1.9	2.4	0.5	64.6	2.9
	砺波地域	136	25.0	14.7	3.7	5.9	3.7	4.4	58.1	5.1

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、リカレント教育への取組みについて、「何もしていない」が約6割と最も高く、次いで約2割の人が「関係する本、雑誌、インターネットのホームページ等により情報収集をしている」、約1割の人が「講習会、研修会等に参加して情報収集や学習をしている」と回答している。

リカレント教育の普及には、更なる企業等への情報発信や学びやすい環境づくりが不可欠であり、また、県内企業における「働き方改革」の意識を高める取組みを進めていくことも必要である。

デジタル化や技術革新の急速な進展などにより、求められる知識や技術が大きく変化し続けており、一人ひとりが長期間にわたり活躍し続け、人生をより充実したものとして過ごすためには、誰もが、何歳からでも、何回でも学び直し、能力を高める機会と環境があることが重要である。

こうしたことから、県としては、産学官連携の一層の推進を図り、リカレント教育の普及に取り組んでまいりたい。

(7)障害者福祉の充実について

<いま>

本県における障害者施策推進の基本的な計画である富山県障害者計画では、「すべての人が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し支え合い、地域の中で共に生きる『共生社会』を実現するとともに、障害者一人ひとりが住み慣れた地域で、自立し、安心して、いきいきと暮らすことができる幸せな富山を目指すことを基本理念に掲げている。

共生社会の実現のため、県では、県民の障害及び障害者に対する理解が広く浸透するよう、啓発・広報活動や学校、地域における福祉教育を推進するとともに、日常的なふれあいや交流、様々なボランティア活動が行われるよう、各種施策を展開してきたところである。

<調査結果>

問 14 障害のある人が、住み慣れた地域で安心して生活していくためには、皆さんとの日常的なふれあいや交流の促進が必要です。あなたはこれまでに障害のある人に対し、どのような交流や手助けをしたことがありますか。

次の中から当てはまるものをいくつでも選んでください。

（「障害のある人」とは、身体障害、知的障害又は精神障害がある方に限らず、発達障害（※1）、高次脳機能障害（※2）などの障害のある方や難病の方を含みます。また、施設（特別養護老人ホーム等）に入所しておられる高齢者で障害のある方も念頭に置いてください。）

（ア）全体

- ・「したことがない」が 25.9%と最も高く、次いで「電車やバスなどで席をゆずった」が 24.6%、「募金などの寄付を行った」が 22.4%となっている。

（イ）性別

- ・「男性」は、「したことがない」が 32.0%と「女性」の 21.4%と比べて 10.6 ポイント高くなっている。
- ・「女性」は、「福祉施設等で製造した商品を購入した」が 28.7%と「男性」の 13.1%と比べて 15.6 ポイント高くなっている。

（ウ）年齢別

- ・「30～39 歳」は、「したことがない」が 35.9%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「18、19 歳」は、「電車やバスなどで席をゆずった」が 39.4%と他の年代と比べて高く、「募金などの寄付を行った」が 15.2%と他の年代と比べて低くなっている。
- ・60 歳以上（「60～69 歳」、「70 歳以上」）は、「車椅子を押した」が 2 割以上と他の年代と比べて高くなっている。

（エ）地域別

- ・「砺波地域」は、「福祉施設等で製造した商品を購入した」が 27.3%と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「魚津地域」は、「募金などの寄付を行った」が 26.3%と他の地域と比べて高くなっている。

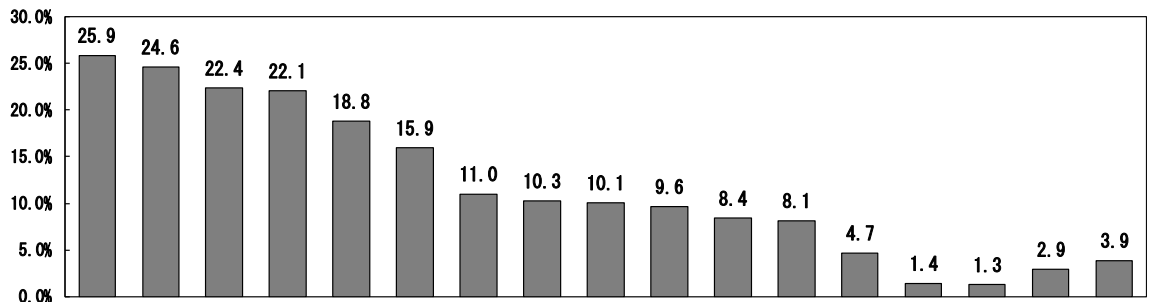
※1 「発達障害」とは

自閉症、アスペルガー症候群等を含む広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害など、脳に何らかの機能障害があり、認知や言語、運動、社会的な能力や技術の獲得にかたよりや遅れがある状態をいう。

※2 「高次脳機能障害」とは

頭部外傷、脳血管障害等による脳の損傷の後遺症として生じる、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害。これに起因して、日常生活・社会生活への適応が困難となる場合がある。

図表 41 障害のある人への交流や手助け(N=1,990、M. T. =205.3%)



	有効回答数	したことがない	電車やバスなどで席をゆずった	募金などの寄付を行った	福祉施設等で製造した商品を購入した	車椅子を押した	相談相手、話相手になった	店舗等への出入を手伝った	横断歩道や階段で手助けをした	家事や買い物などの身のまわりの世話をした	レクリエーション活動を一緒にした	電車やバスなどの乗降を手伝った	障害者の芸術作品展に行った	勉強や仕事を共に学んだり、教えたりした	手話や点訳などのボランティア活動を行った	パラリンピック等障害者スポーツの応援に行った	その他	無回答	
全体	1,990	25.9	24.6	22.4	22.1	18.8	15.9	11.0	10.3	10.1	9.6	8.4	8.1	4.7	1.4	1.3	2.9	3.9	
性別	男性	847	32.0	26.8	19.7	13.1	15.3	12.6	10.2	11.5	6.6	7.2	8.1	4.8	3.4	0.2	1.5	2.7	3.9
	女性	1,107	21.4	23.0	24.5	28.7	21.4	18.7	11.7	9.3	12.7	11.7	8.4	10.7	5.7	2.3	1.1	3.2	3.5
	回答しない	36	19.4	22.2	19.4	27.8	19.4	8.3	8.3	11.1	8.3	2.8	13.9	8.3	2.8	0.0	0.0	0.0	13.9
年齢別	18、19歳	33	21.2	39.4	15.2	21.2	15.2	9.1	3.0	0.0	3.0	12.1	3.0	3.0	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0
	20～29歳	115	29.6	29.6	21.7	11.3	10.4	14.8	5.2	7.8	4.3	12.2	3.5	2.6	8.7	2.6	3.5	0.9	2.6
	30～39歳	167	35.9	25.1	20.4	16.8	15.6	12.6	9.0	8.4	5.4	13.2	8.4	4.2	4.2	1.2	1.2	1.2	1.2
	40～49歳	276	30.4	21.4	21.7	22.8	14.5	10.9	10.9	9.1	9.8	10.9	5.1	4.0	6.2	1.8	1.4	2.9	1.4
	50～59歳	300	30.0	23.0	23.0	21.0	15.3	12.7	12.0	12.0	10.7	9.7	9.7	8.7	6.0	1.3	1.7	3.3	2.7
	60～69歳	352	22.7	23.3	24.1	22.2	24.4	18.8	14.2	11.4	10.8	9.1	10.8	7.7	6.0	1.4	1.7	3.1	2.8
	70歳以上	738	21.5	25.7	22.2	25.1	21.3	19.1	10.4	10.4	11.8	8.3	8.9	11.7	2.3	1.1	0.4	3.5	6.6
地域別	富山地域	765	24.8	27.5	20.0	22.2	17.6	17.8	12.0	12.0	9.0	9.3	9.7	7.8	5.4	1.2	1.6	2.6	4.2
	高岡地域	569	25.7	23.6	22.8	19.2	20.2	14.6	12.1	12.0	11.1	10.5	9.0	9.3	4.0	1.6	0.9	2.6	3.7
	魚津地域	400	26.8	24.8	26.3	22.5	20.3	15.3	9.0	8.0	11.8	8.5	7.0	5.8	3.5	1.5	1.8	3.0	3.0
	砺波地域	249	28.5	18.5	21.7	27.3	16.9	14.5	8.0	4.0	8.0	10.8	5.2	10.0	5.6	1.6	0.4	4.4	4.4

<調査結果を受けて>

今回の調査では、障害のある人との交流や手助けを「したことがない」と回答した方の割合が25.9%と、前回調査（平成30年度）より増加した。

また、「交流や手助けをしたことがある」と回答した方の中でも「レクリエーション活動を一緒にした（9.6%）」、「電車やバスなどの乗降を手伝った（8.4%）」、「勉強や仕事を共に学んだり、教えたりした（4.7%）」といった項目を選択した方の割合が比較的少なく、障害のある人とない人との間の日常的なふれあいや交流の機会が十分でないことがうかがえる。

県では、令和6年度を計画期間の初年度とする新しい障害者計画を令和5年度中に策定する予定である。今回の調査結果も踏まえ、引き続き、障害や障害のある人に対する理解が広く浸透する取組や心のバリアフリーの推進に取り組み、年齢や障害の有無等にかかわらず、住み慣れた地域で安心して生活できる「とやま型地域共生社会」の構築を目指してまいりたい。

(8)福祉施策の充実について

<いま>

本県の人口は平成 11 年から減少に転じており、高齢者人口（65 歳以上）も令和 2 年から緩やかな減少局面に入っているが、生産年齢人口の減少の加速に伴い高齢化率は上昇し、令和 5 年時点で、県民の 3 人に 1 人が高齢者となっている。（令和 5 年の高齢者人口の割合は 33.3%）。

こうした中、平成 12 年度にスタートした介護保険制度のサービス受給者は、本県では、平成 12 年度の約 21,000 人から令和 4 年度の約 60,300 人と大幅に増加している。受給者（※1）の内訳は、居宅サービスが約 38,800 人（約 64%）、地域密着型サービス（※2）が約 10,600 人（約 18%）、施設サービスが約 10,900 人（約 18%）となっている。

※1 「受給者」とは

令和 4 年度の各サービス受給者数は暫定版。

※2 「地域密着型サービス」とは

地域(市町村)内のグループホームなどで生活できるようにするサービス。

問 15 あなたは、ご自身の介護が必要になった場合、どのような生活を望みますか。

次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア)全体

- ・「自宅で、介護サービス等（ホームヘルパーや訪問診療・看護、富山型デイサービスなど）を活用しながら、生活を続けたい」が 30.2%と最も高く、次いで「住み慣れた地域にあるグループホームなど、小規模な施設に入居して生活したい」が 19.0%、「自宅で、家族の世話や介護サービス等を受けて、生活を続けたい」が 14.1%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、「自宅で、家族の世話を受けながら、生活を続けたい」が 12.5%と「女性」の 5.1%と比べて 7.4 ポイント高くなっている。
- ・「女性」は、「住み慣れた地域にあるグループホームなど、小規模な施設に入居して生活したい」が 22.7%と「男性」の 14.5%と比べて 8.2 ポイント高くなっている。

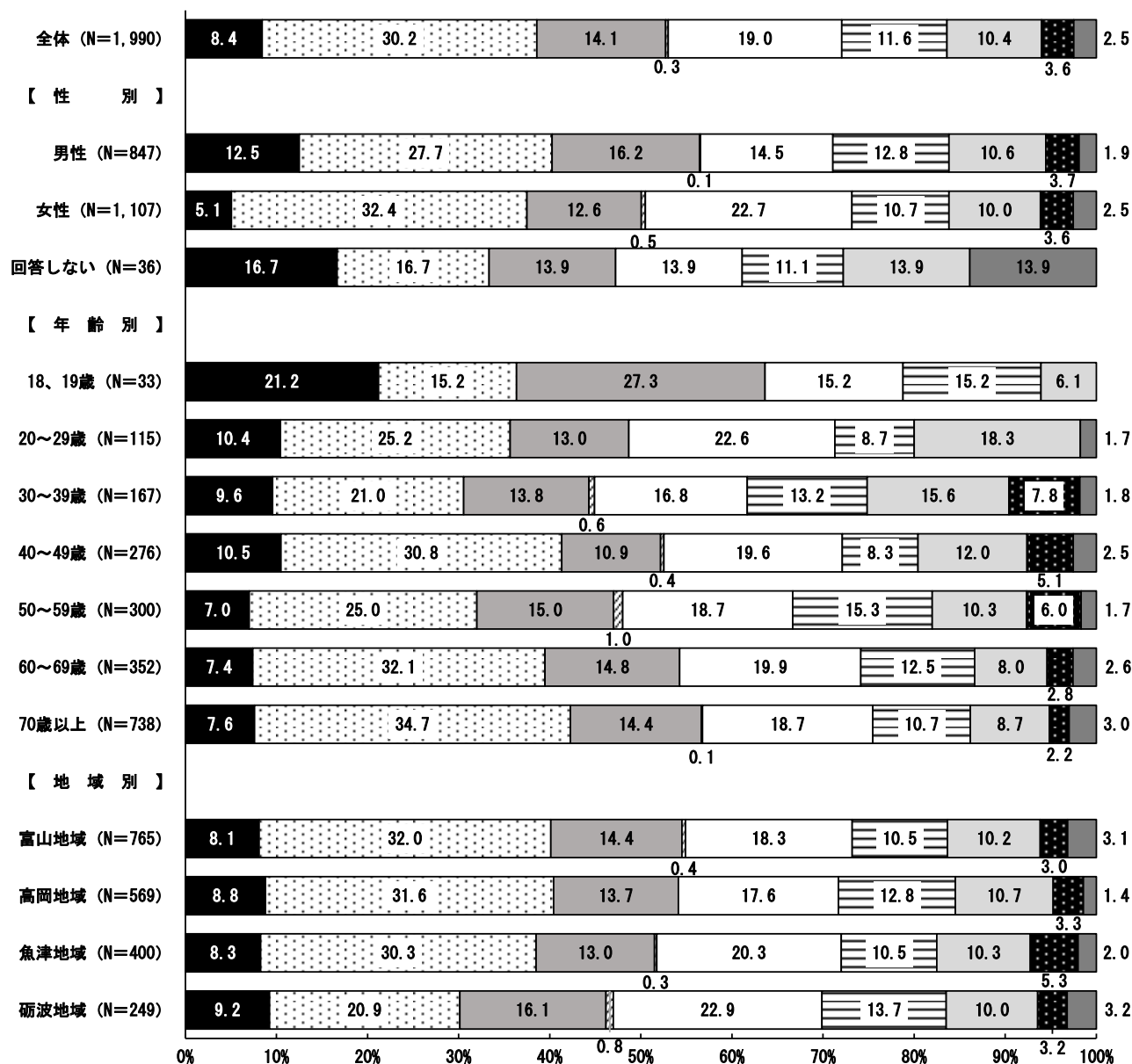
(ウ)年齢別

- ・「18、19 歳」は、「自宅で、家族の世話を受けながら、生活を続けたい」が 21.2%、「自宅で、家族の世話や介護サービス等を受けて、生活を続けたい」が 27.3%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・「砺波地域」は、「自宅で、介護サービス等（ホームヘルパーや訪問診療・看護、富山型デイサービスなど）を活用しながら、生活を続けたい」が 20.9%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 42 自身の介護が必要になった場合に望む生活



- 自宅で、家族の世話を受けながら、生活を続けたい
- 自宅で、介護サービス等（ホームヘルパーや訪問診療・看護、富山型デイサービスなど）を活用しながら、生活を続けたい
- 自宅で、家族の世話や介護サービス等を受けて、生活を続けたい
- 子どもや親戚などの家に移って、子どもや親戚の世話及び介護サービス等を受けて生活したい
- 住み慣れた地域にあるグループホームなど、小規模な施設に入居して生活したい
- 特別養護老人ホームなど、大規模な介護保険施設に入居して生活したい
- 介護が受けられる有料老人ホームなどに移って生活したい
- その他
- 無回答

問 15-1 問 15 で 1 から 5 までの選択肢を選ばれた方にお尋ねします。

誰もが住み慣れた地域で安心して生活するため、取り組むべき課題を、次の中から当てはまるものを 2つ 選んでください。

(ア)全体

- ・「高齢者、障害者、子どもなど、誰もが住み慣れた地域と一緒にサービスを受けられる場（富山型サービス等）の整備」が 62.0%と最も高く、次いで「保健、医療及び福祉人材の確保や資質の向上」が 55.1%、「地域住民が参加し、お互いに支え合うネットワークづくりの推進」が 25.5%となっている。

(イ)性別

- ・男女間に大きな差はみられない。

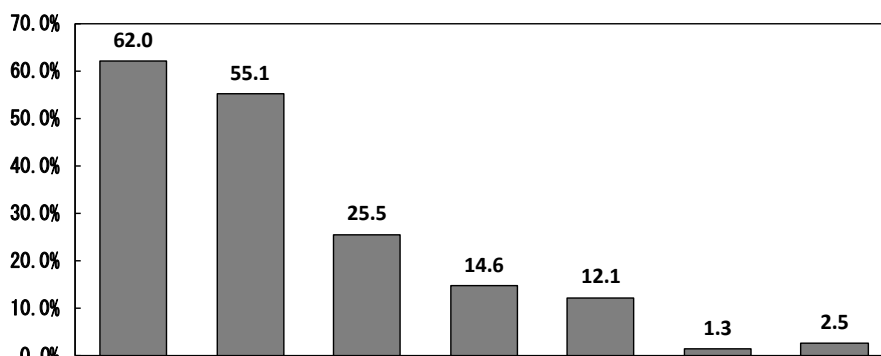
(ウ)年齢別

- ・「30～39 歳」は、「子どもの時からの福祉教育の充実」が 21.4%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「18、19 歳」と「20～29 歳」は、「地域住民が参加し、お互いに支え合うネットワークづくりの推進」が 3割以上と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「50～59 歳」は、「保健、医療及び福祉人材の確保や資質の向上」が 61.0%と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・「魚津地域」は、「地域住民の福祉活動（ボランティア活動）の支援及び参加促進」が 16.3%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 43 誰もが住み慣れた地域で安心して生活するために取り組むべき課題(N=1,434、M. T. =175.1%)



		有効回答数	高齢者、障害者、子どもなど、誰もが住み慣れた地域で一緒にサービスを受けられる場（富山型デイサービス等）の整備	保健、医療及び福祉人材の確保や資質の向上	地域住民が参加し、お互いに支え合うネットワークづくりの推進	子どもの時からの福祉教育の充実	地域住民の福祉活動（ボランティア活動）の支援及び参加促進	その他	無回答
全体		1,434	62.0	55.1	25.5	14.6	12.1	1.3	2.5
性別	男性	602	61.3	52.8	26.9	13.1	12.0	1.0	2.7
	女性	810	62.5	56.5	24.6	16.0	12.5	1.6	2.2
	回答しない	22	63.6	63.6	22.7	4.5	4.5	0.0	9.1
年齢別	18、19歳	26	46.2	38.5	42.3	7.7	15.4	0.0	0.0
	20～29歳	82	58.5	50.0	35.4	15.9	2.4	1.2	1.2
	30～39歳	103	67.0	53.4	21.4	21.4	6.8	1.0	1.0
	40～49歳	199	52.3	57.3	26.1	17.1	10.6	3.0	2.0
	50～59歳	200	56.0	61.0	26.0	12.5	11.5	2.0	2.0
	60～69歳	261	61.7	52.1	25.7	14.2	16.5	1.5	1.9
	70歳以上	557	68.2	55.1	23.9	13.6	13.1	0.5	3.6
地域別	富山地域	560	63.0	55.2	26.3	14.6	10.9	1.6	3.4
	高岡地域	408	59.6	52.0	28.7	15.0	11.5	1.2	2.5
	魚津地域	288	62.2	56.9	23.3	14.9	16.3	1.4	0.7
	砺波地域	174	63.8	58.0	20.1	13.8	10.9	0.6	2.3

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、介護が必要となった場合でも、介護サービス等や家族の世話を受けながら自宅や家族等の家で生活を続けたいと回答された方と、地域のグループホームなどへ入居して生活したいと回答された方を合わせ、7割を超える人が自宅や住み慣れた地域で生活を続けたいと希望している。

こうした県民の意向に沿って、これまで以上に地域での高齢者の生活を支えるため、地域密着型サービスをはじめとした在宅介護サービス基盤の充実を図るとともに、在宅医療の基盤整備や多様な住まいの確保、地域における自主的な支え合い活動の推進など、地域包括ケアシステムの構築に積極的に取り組んでいく。

(9) 食品ロスの削減について

<いま>

食品ロス※削減は、国連のSDGs(持続可能な開発目標)で「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人あたりの食料の廃棄を半減する」という目標が設定されており、世界的な課題となっている。

我が国では、本来食べられるのに廃棄される「食品ロス」の排出量は、年間約523万トン(令和3年度農林水産省及び環境省推計)と計算されており、資源・環境等の観点から大きな問題となっている。

平成28年5月のG7富山環境大臣会合で採択された「富山物質循環フレームワーク」を踏まえ、県では、食品ロス・食品廃棄物の削減を進めるため、平成29年5月に有識者や事業者・消費者の関係団体などで構成する「富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議」を設置した。平成30年11月には同会議のもとに「商慣習検討専門部会」を設置し、平成31年3月には、食品ロス発生の大きな要因とされている「1/3ルール」などの商慣習の見直しに向けて、全国に先駆けて食品関連事業者、消費者、行政による共同宣言を行うなど、県民総参加の運動として取り組んでいる。

国においては、「食品ロス削減推進法」のもと、国民運動としての食品ロスの削減が推進されるとともに、令和2年3月には、「食品ロス削減の推進に関する基本方針」が策定されるなど、取組みが一層強化されている。

本県においても、食品ロス削減の取組みを総合的に推進するため、令和2年4月に、「富山県食品ロス削減推進計画」を策定し、本計画に基づき

①食品ロス削減の取組みの情報発信

②食材の使いきりや飲食店等での食べ残しを削減する食べきりの推進

③フードバンク活動やフードドライブ等の未利用食品の有効活用

など、食品ロス削減の取組みの加速化を図っている。本計画の中間年の見直しを行うにあたり、令和5年度には、食品ロス・食品廃棄物の発生状況を把握するための「食品ロス・食品廃棄物等実態調査」を実施している。

※「食品ロス」とは

食べ残しや賞味期限切れの食品など、本来食べられる部分が捨てられたものです。また、「食品廃棄物」とは、食品ロスに加え、魚の骨や野菜の皮、調理油など、通常は食べられない部分も含んだものです。

日本では年間約2,402万トンの食品廃棄物等が排出されており、そのうち食品ロスは、年間約523万トンと試算(本県では食品廃棄物は年間約17.0万トン、うち食品ロスは4.3万トンと試算)され、資源・環境等の観点から大きな問題となっています。

<調査結果>

問 16 あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていましたか。

次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア)全体

- ・「よく知っていた」が 36.4%、「ある程度知っていた」が 53.7%であり、『知っていた』（「よく知っていた」と「ある程度知っていた」を合算したもの）が 90.1%となっている。
- ・「あまり知らなかった」が 5.9%、「ほとんど・全く知らなかった」が 1.8%であり、『知らなかった』（「あまり知らなかった」と「ほとんど・全く知らなかった」を合算したもの）が 7.7%となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、「よく知っていた」が 38.8%と「男性」の 33.5%と比べて 5.3 ポイント高くなっている。

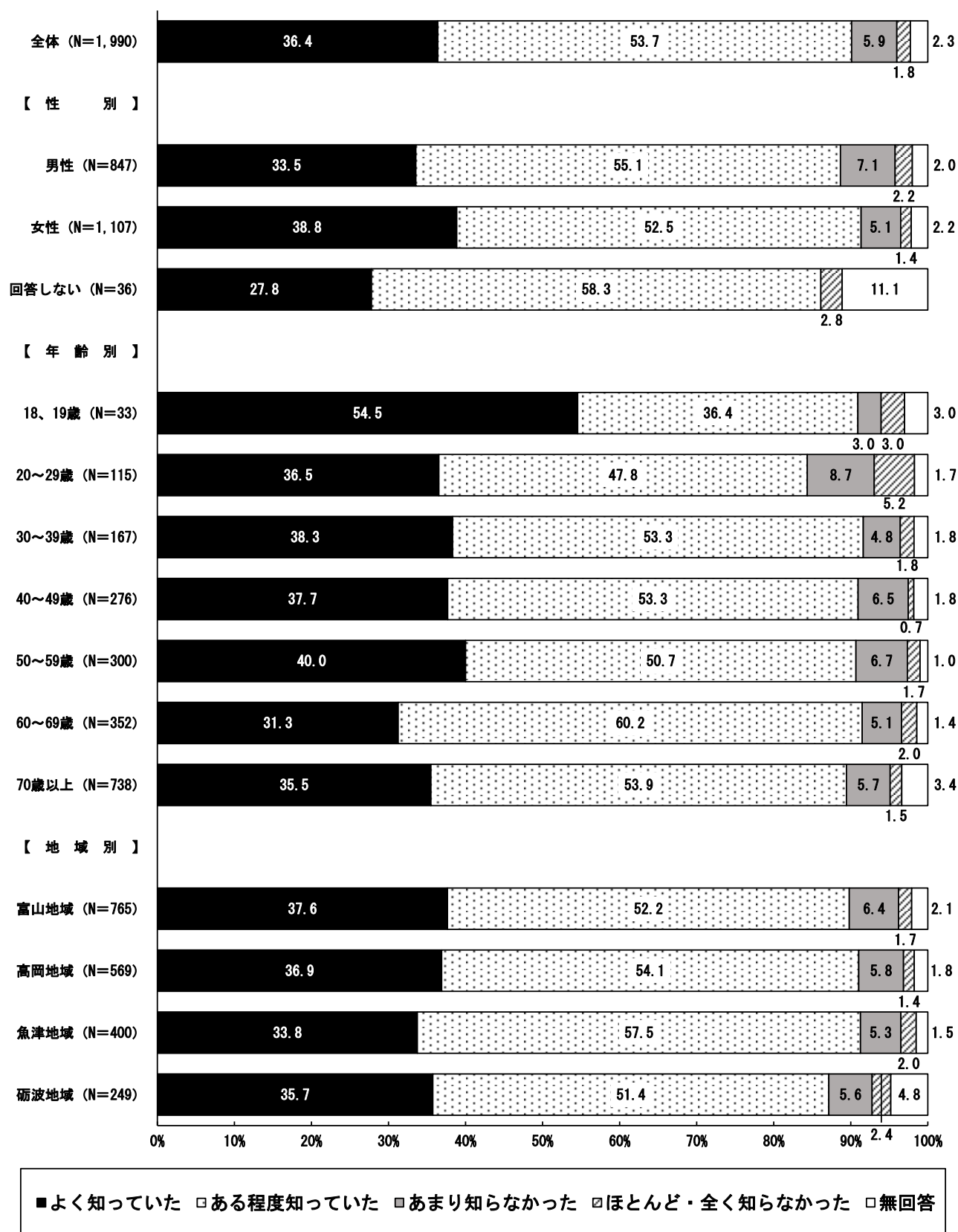
(ウ)年齢別

- ・『知っていた』は、「30～39 歳」が 91.6%と最も高く、「20～29 歳」が 84.3%と最も低くなっている。

(エ)地域別

- ・「砺波地域」は、『知っていた』が 87.1%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 44 食品ロス問題の認知度



問 17 「食品ロス」の軽減につながる以下の工夫の中で、あなたが取り組んでいることはありますか。
次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が 68.7%と最も高く、次いで「残さず食べる」が 63.5%、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれる量を購入する」が 58.0%となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、「残さず食べる」、「宴会等の食べ残しを減らすため、宴会の開始後 30 分と終了前 15 分に食事を楽しむ時間を設定する「3015 運動」を実践する」、「取り組んでいることはない」以外の選択肢が「男性」と比べて高くなっている。

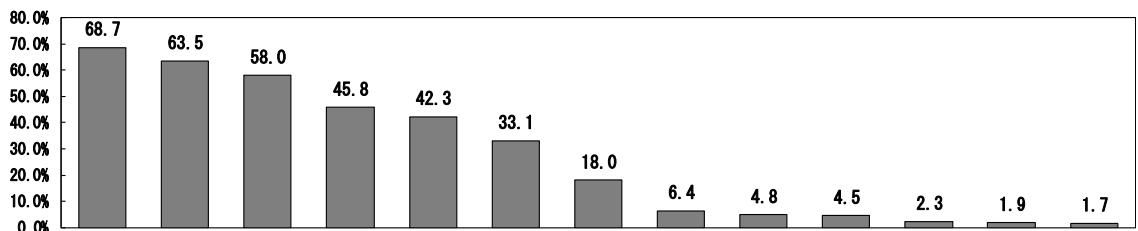
(ウ)年齢別

- ・60 歳以上（「60～69 歳」、「70 歳以上」）は、「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が 7 割以上、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれる量を購入する」が 6 割以上と他の年代と比べて高くなっている。
- ・50 歳未満（「18 歳、19 歳」、「20～29 歳」、「30～39 歳」、「40～49 歳」）は、「残さず食べる」が最も高くなっている。

(エ)地域別

- ・「富山地域」は、「残さず食べる」が 66.9%、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれる量を購入する」が 60.5%と他の地域に比べて若干高くなっている。

図表 45 「食品ロス」軽減に向けた取り組み (N=1,990、M. T. =355.3%)



	有効回答数	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	残さず食べる	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	飲食店等で注文し過ぎない	すぐに食べるものは、消費期限(※1)・賞味期限(※1)の近いものから購入する	店舗でのある程度の欠品を許容する	賞味期限の近いものから購入する	商慣習の見直し(納品期限の緩和)を先行して進めている飲料及び賞味期間180日以上のもので「菓子」について	「3015運動(※2)」を実施する	宴会等の食べ残しを減らすため、宴会の開始後30分と終了前15分に食事を楽しむ時間を設定する	フードドライブ(※3)に協力する	取り組んでいることはない	その他	無回答
全体	1,990	68.7	63.5	58.0	45.8	42.3	33.1	18.0	6.4	4.8	4.5	2.3	1.9	1.7		
性別	男性	847	62.3	64.1	52.1	34.9	38.8	30.1	17.6	5.4	6.6	3.0	3.1	1.5	1.7	
	女性	1,107	74.0	63.2	62.9	54.7	44.9	35.4	18.4	7.0	3.4	5.7	1.7	2.1	1.4	
	回答しない	36	58.3	58.3	50.0	27.8	44.4	33.3	13.9	11.1	5.6	5.6	0.0	2.8	11.1	
年齢別	18、19歳	33	66.7	84.8	36.4	39.4	39.4	48.5	6.1	6.1	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20～29歳	115	59.1	73.9	55.7	27.8	35.7	35.7	25.2	4.3	4.3	0.9	1.7	0.0	2.6	
	30～39歳	167	57.5	70.1	51.5	35.3	41.3	46.1	25.1	8.4	0.6	4.2	3.0	3.0	1.2	
	40～49歳	276	65.9	67.0	48.6	38.8	42.8	40.6	20.7	6.9	3.3	4.0	1.8	1.4	1.1	
	50～59歳	300	65.7	65.3	52.3	40.0	42.0	39.0	24.3	9.0	6.0	3.3	3.3	1.7	1.0	
	60～69歳	352	73.6	59.1	60.5	48.6	42.9	28.1	16.5	5.4	4.3	4.8	2.6	2.6	0.6	
	70歳以上	738	72.9	60.0	65.9	54.7	43.1	26.4	13.0	5.6	6.2	5.6	1.9	1.8	2.6	
地域別	富山地域	765	68.1	66.9	60.5	45.1	44.3	33.7	18.7	7.7	5.0	4.3	2.1	1.8	2.1	
	高岡地域	569	69.8	62.7	56.6	48.5	40.4	32.0	19.9	5.8	4.7	4.7	2.1	1.8	1.1	
	魚津地域	400	68.0	61.8	57.0	44.8	41.3	30.8	16.0	5.3	4.8	5.3	3.3	1.8	0.8	
	砺波地域	249	69.5	58.6	55.8	43.4	41.4	37.8	14.9	5.6	4.8	3.2	1.6	2.0	2.8	

※1 「消費期限」とは

開封していない状態で、表示されている保存方法に従って保存したときに、表示の年月日まで、安全に食べられる期限のことで、この期限を過ぎたら食べないほうが良いとされています。

「賞味期限」は、開封していない状態で、表示されている保存方法に従って保存したときに、おいしく食べることができる期限のことで、この期限を過ぎても、すぐに食べられなくなるということではありません。

※2 「3015 (さんまるいちご) 運動」とは

立山の標高3015mにちなみ、「30」と「15」をキーワードにした富山型の食品ロス削減運動です。

- ・食べきり3015運動：宴会時において、開宴後30分と終了前15分に自席で料理を楽しむ時間を設定し、食べきる運動です。
- ・使いきり3015運動：毎月30日と15日に家庭の冷蔵庫等をチェックし、食材を使いきる運動です。

※3 「フードドライブ」とは

家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている福祉団体やこども食堂などに寄付する活動です。

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、「よく知っていた」と「ある程度知っていた」を合わせた「食品ロスが問題となっていることを知っていた」人の割合は 90.1%であった。年代別では、特に 18、19 歳の割合の伸びが著しかった（R4:86.2%→90.9%）一方で、20代については 84.3%であり、若い世代の間で認知度に差異が見られた。今後、さらなる認知度の向上を図るため、幅広い世代への働きかけを行ってまいりたい。

食品ロスの軽減につながる取組みの中で、「店舗でのある程度の欠品を許容する」、「商慣習の見直しを先行して進めている『飲料及び賞味期間 180 日以上菓子』について賞味期限の近いものから購入する」、「宴会時の食べ残しを減らすため、『3015 運動』などの取組みを実践する」、「フードドライブに協力する」と回答した人の割合が低いことから、期限の近接した商品の優先購入や未利用食品の有効活用の促進、宴会時等の食べきり運動の一層の推進に取り組んでまいりたい。

(10)食育の推進について

<いま>

富山県では、全国に先駆け平成 17 年 9 月に「富山県食育推進会議」を設置し、「富山県食育推進計画」を策定し、改訂を重ねながら県民運動として食育を推進してきた。この結果、食育に関心がある県民の割合が高まってきたが、カロリーや栄養バランスを考えた食事をする県民の割合は減少傾向にあり、実践が伴っていない状況である。また、20 代、30 代の若者世代のバランスの良い食生活の実践が課題となっている。

『第 18 回食育推進全国大会inとやま』を令和 5 年 6 月に開催し、県内外から 23,000 人を超える方々が来場し、多様なライフスタイルに合った食育の提案、栄養バランスのよい食事や食を通じた健康増進、食に関する正しい知識を学べる場の提供、富山ならではの多彩な食の魅力の発信を行った。本大会の成果が一過性のものとならないよう、来場されなかった方々も含めて、食育推進への県民意識の調査を行い、県民一人ひとりが主役として参加する食育県民運動の一層の普及・定着を図るものである。

<調査結果>

問 18 「第 18 回全国食育推進大会 in とやま」を本年 6 月 24 日、25 日に開催しましたが、あなたは、そのことを知っていましたか。
次の中から当てはまるものを 1 つ選んでください。

(ア)全体

- ・「知っていた。参加した。」が 1.7%、「知っていた。しかし参加しなかった。」が 15.5%であり、『知っていた』（「知っていた。参加した。」と「知っていた。しかし参加しなかった。」を合算したもの）が 17.2%となっている。
- ・「知らなかった。もし知っていれば参加したかった。」が 11.9%、「知らなかった。知っていても参加しなかった。」が 69.3%であり、『知らなかった』（「知らなかった。もし知っていれば参加したかった。」と「知らなかった。知っていても参加しなかった。」を合算したもの）が 81.2%となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、「知っていた。しかし参加しなかった。」が 17.3%と「男性」の 13.6%と比べて 3.7 ポイント高くなっている。

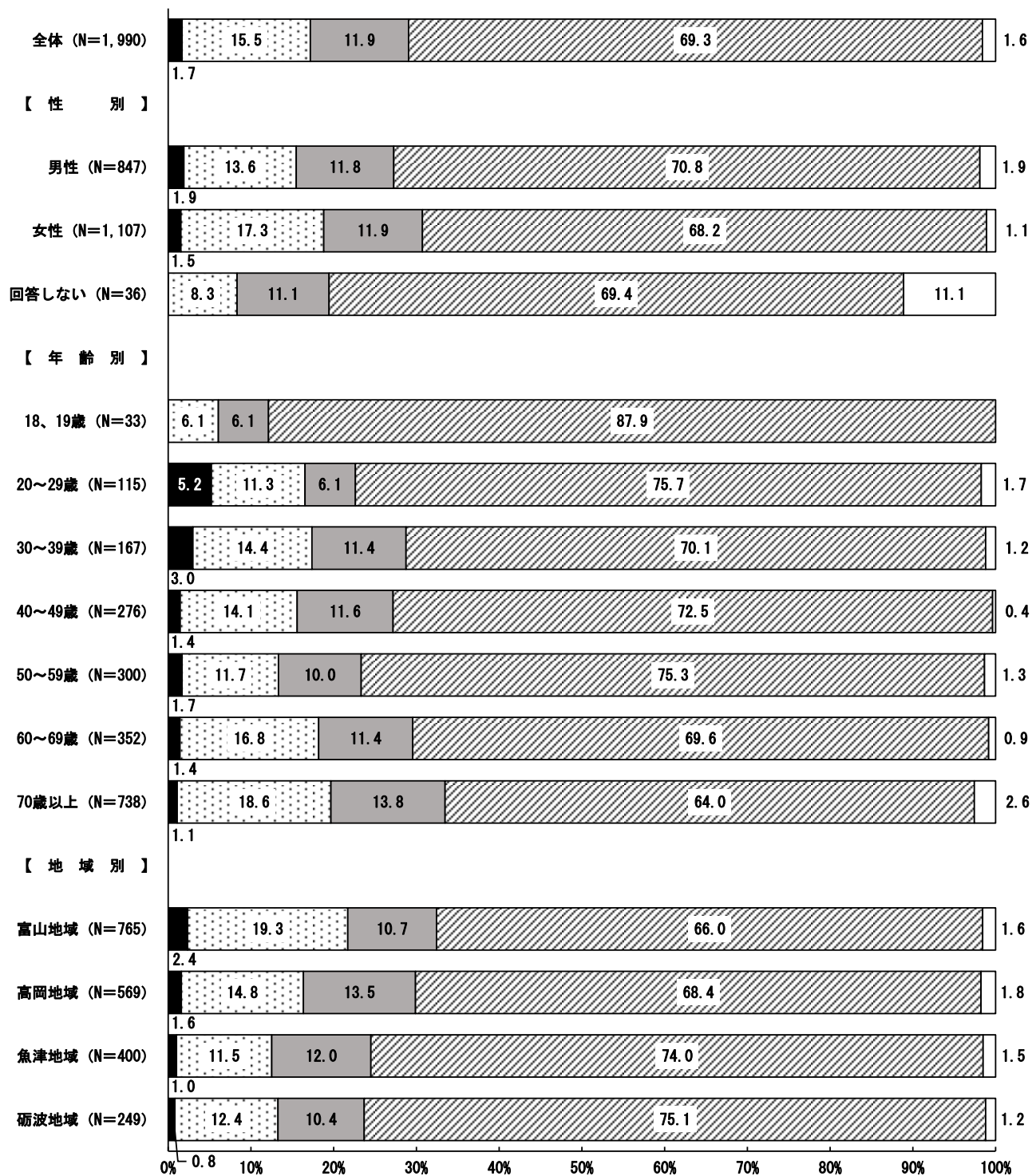
(ウ)年齢別

- ・『知っていた』は、「70 歳以上」が 19.7%と最も高く、「18、19 歳」が 6.1%と最も低くなっている。

(エ)地域別

- ・「富山地域」は、『知っていた』が 21.7%と他の地域に比べて高くなっている。

図表 46 「第 18 回全国食育推進大会 in とやま」の認知度



知っていた。参加した。
 知っていた。しかし参加しなかった。
 知らなかった。もし知っていたら参加したかった。
 知らなかった。知っているも参加しなかった。
 無回答

問 19 食育（※）について、あなたはどのように考えますか。

(ア)全体

- ・「たいへん重要であり、ぜひ取り組んでいくべき」が 20.6%、「重要であり、取り組んでいくべき」が 44.4%、「やや重要であり、できれば取り組むことが望ましい」が 19.3%、「重要ではなく、取り組む必要はない」が 1.2%となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、『重要であり取り組んでいくべき』（「たいへん重要であり、ぜひ取り組んでいくべき」と「重要であり、取り組んでいくべき」を合算したもの）が 70.6%と「男性」の 58.2%と比べて 12.4 ポイント高くなっている。

(ウ)年齢別

- ・「たいへん重要であり、ぜひ取り組んでいくべき」は、年代が上がるにつれ、概ね、低くなっている。

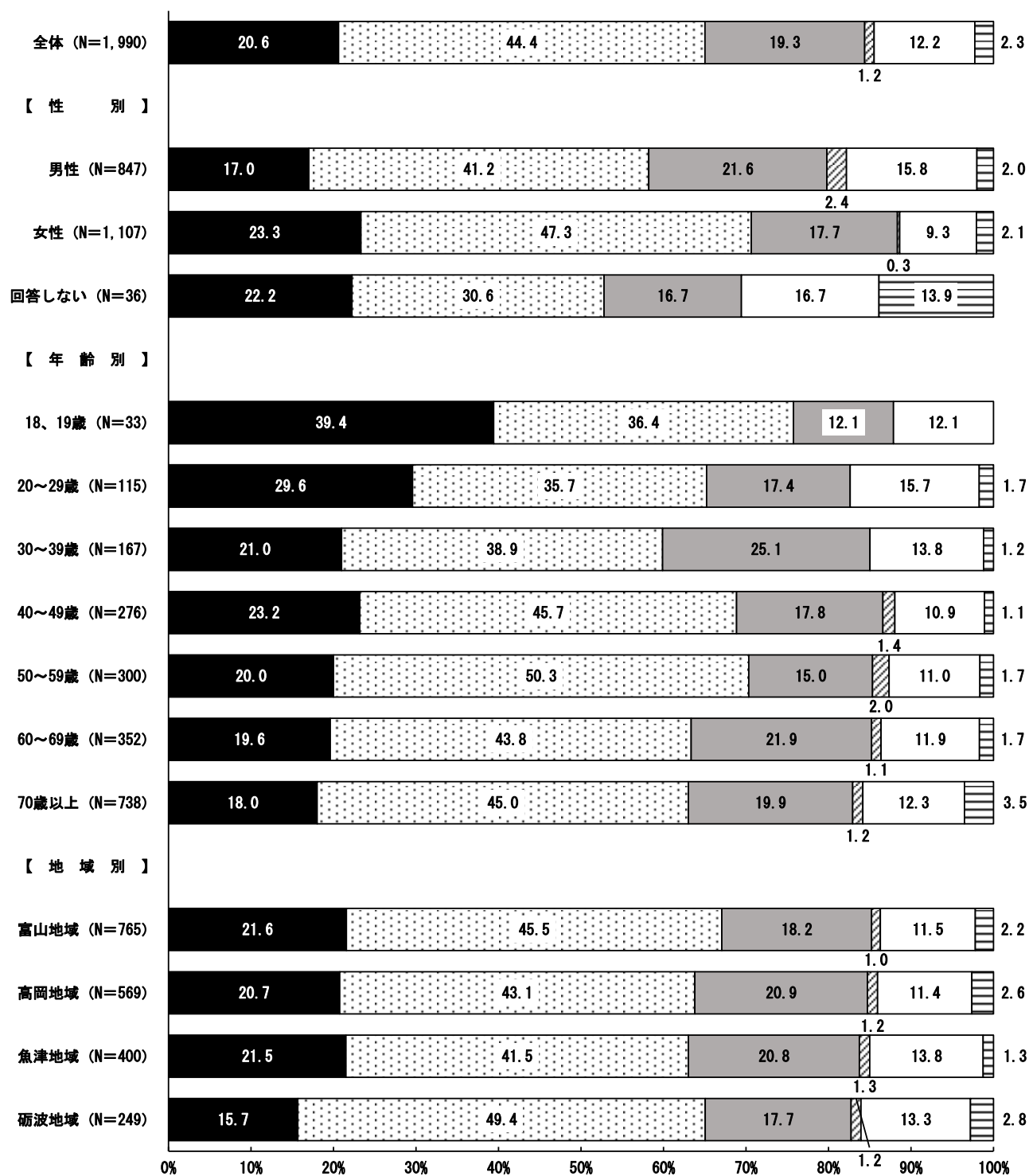
(エ)地域別

- ・「砺波地域」は、「たいへん重要であり、ぜひ取り組んでいくべき」が 15.7%と他の地域に比べて低くなっている。

※食育とは

「食」の知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てる取組み。

図表 47 食育について感じる事



たいへん重要であり、ぜひ取り組んでいくべき 重要であり、取り組んでいくべき
 やや重要であり、できれば取り組むことが望ましい 重要でなく、取り組む必要はない
 わからない 無回答

問 20 食育を推進するにあたって、行政にはどのような取組みを進めてもらいたいと考えますか。
次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

・「食べ残しをなくすなど食品ロス削減」が 58.1%と最も高く、次いで「地産地消など地場産食材の活用」が 52.7%、「栄養バランスや減塩など健全な食生活の推進」が 45.2%となっている。

(イ)性別

・「女性」は、「食育の意識向上の普及啓発（イベント、研修会等）」、「その他」以外のすべての選択肢で「男性」と比べて高くなっている。

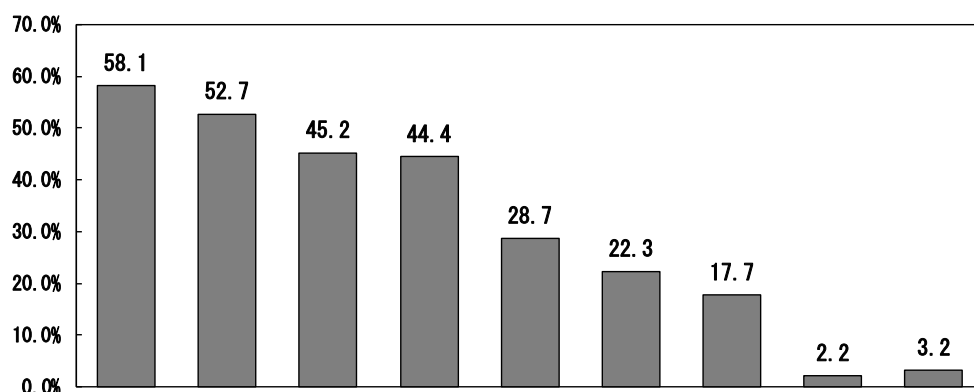
(ウ)年齢別

・「20～29 歳」は、「栄養バランスや減塩など健全な食習慣の推進」、「子どもの望ましい食習慣の形成」が約 3 割と他の年代と比べて低くなっている。

(エ)地域別

・「砺波地域」は、「栄養バランスや減塩など健全な食習慣の推進」が 51.0%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 48 食育の推進に向けた取り組み (N=1,990、M. T. =280.4%)



		有効回答数	食べ残しをなくすなど食品ロス削減	地産地消など地場産食材の活用	栄養バランスや減塩など健全な食習慣の推進	子どもの望ましい食習慣の形成	食育の意識向上の普及啓発 (イベント、研修会等)	多様なライフスタイル (共働き、一人暮らし等) に応じた調理教室	農林漁業の体験活動	その他	無回答
全体		1,990	58.1	52.7	45.2	44.4	28.7	22.3	17.7	2.2	3.2
性別	男性	847	55.1	48.1	37.7	41.2	31.5	18.3	15.8	2.8	3.5
	女性	1,107	60.6	56.2	51.7	46.8	26.7	25.2	18.8	1.6	2.7
	回答しない	36	52.8	55.6	25.0	47.2	22.2	27.8	30.6	2.8	11.1
年齢別	18、19歳	33	57.6	39.4	51.5	54.5	24.2	24.2	30.3	0.0	0.0
	20～29歳	115	62.6	45.2	29.6	33.0	28.7	28.7	18.3	0.0	1.7
	30～39歳	167	48.5	43.7	44.3	50.3	29.9	21.6	17.4	4.2	4.8
	40～49歳	276	53.6	55.1	39.5	55.1	26.4	18.8	23.2	1.8	2.2
	50～59歳	300	59.0	48.7	38.0	42.7	31.3	17.0	20.3	3.7	3.0
	60～69歳	352	58.5	53.4	45.2	46.3	27.8	26.1	16.8	2.6	2.6
	70歳以上	738	60.7	56.8	53.0	40.0	28.5	23.2	14.6	1.5	3.9
地域別	富山地域	765	60.7	54.1	43.5	42.9	29.2	19.9	19.2	2.2	3.0
	高岡地域	569	58.9	51.1	46.2	47.3	26.5	23.9	14.8	1.9	3.2
	魚津地域	400	53.5	52.8	43.8	43.3	30.8	24.8	19.0	2.5	3.0
	砺波地域	249	55.8	51.4	51.0	44.2	28.5	22.5	18.1	2.0	4.0

<調査結果を受けて>

今回の調査で、食育について『重要であり取り組んでいくべき』と考えている方が65.0%もあり、県民の食育への関心が高い傾向がみられた。その中でも「たいへん重要であり、ぜひ取り組んでいくべき」と答えた方が10代、20代で多い傾向であり、これまで重点的に行ってきた若い世代への食育の取組みが、食育への意識向上につながっているものと推察される。

また、「食べ残しをなくすなど食品ロス削減」の取組みについては、食育への重要度に関わらず幅広い層で、行政に取組みを進めてほしいと回答する方が多かったが、その他の項目については、食育を重要だと考えている方ほど、取組みを進めてほしいと回答する方が多い傾向があった。

『第18回食育推進全国大会inとやま』に参加した方の7倍の方が「もし知っていれば参加したかった。」と回答しており、食育の取組みやイベントのニーズは高いものと推察される。食育への関心を高め、食育の実践につなげていくために、今後も幅広い層に向けた食育の取組みを進めていく。

(11) 中山間地域の振興について

<いま>

中山間地域では、急速な人口の減少に伴う集落の空洞化、魅力ある多様な就業機会の不足、生活を支えるサービスの衰退等が、住民の暮らしに深刻な影響を及ぼし、地域社会の存続さえもが危ぶまれている。

しかしながら、中山間地域は、県土の保全、水源の涵養、文化の継承、自然と触れ合う機会の提供、食料の安定的な供給等に関し重要な役割を担い、県民生活及び本県経済の安定に寄与しており、中山間地域の維持は、すべての県民に関わる課題である。

このため、県では「富山県中山間地域における持続可能な地域社会の形成に関する条例」、「富山県中山間地域創生総合戦略」に基づき、中山間地域の総合的な振興を図っている。

<調査結果>

問 21 あなたは、県内の中山間地域の魅力は何だと思えますか。
最も魅力があると思うものを次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・「自然や景色」が 58.6%と最も高く、次いで「住みやすい環境」が 12.9%となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、「自然や景色」が 60.5%と「男性」の 55.8%と比べて 4.7 ポイント高くなっている。

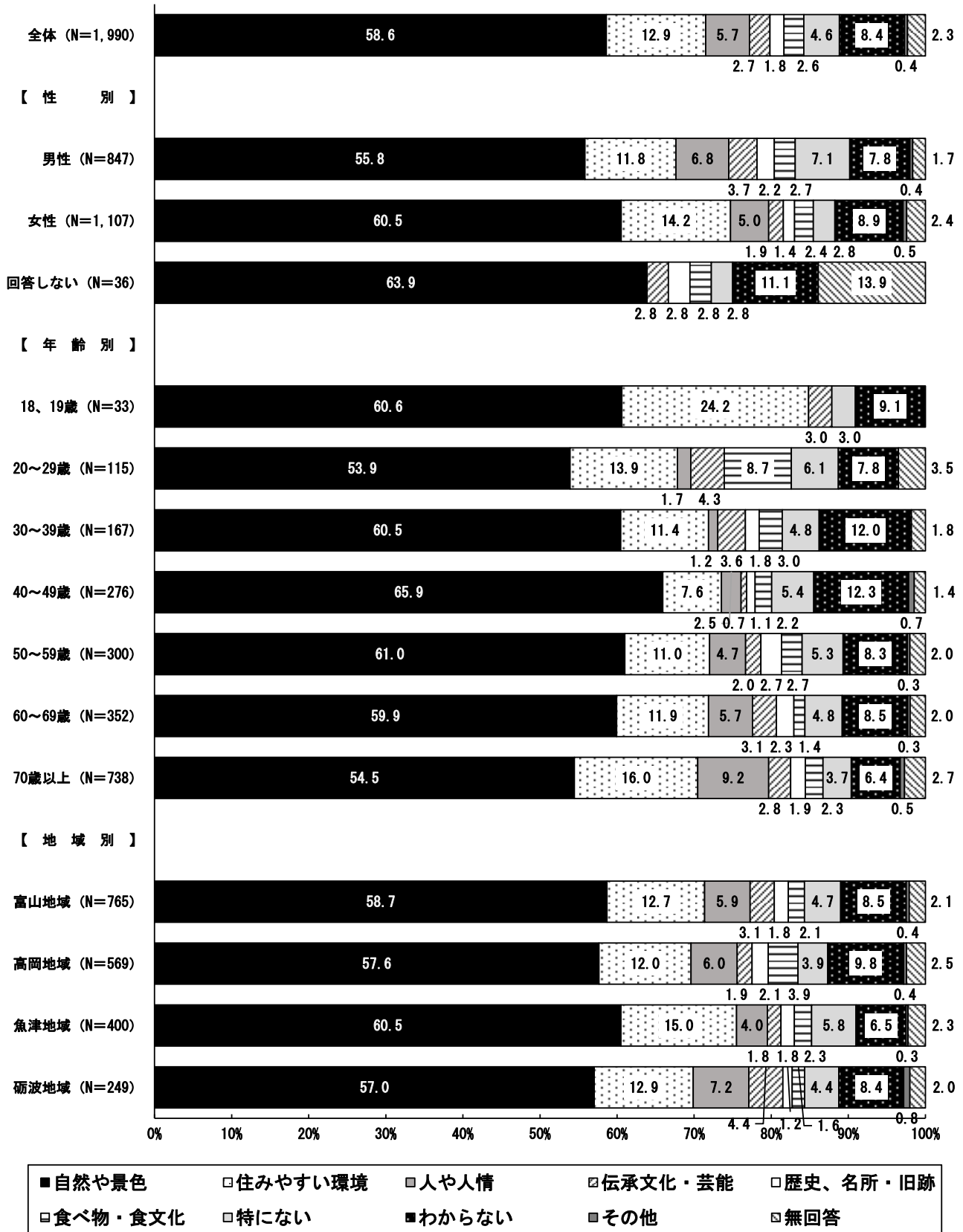
(ウ)年齢別

- ・「18、19 歳」は、「住みやすい環境」が 24.2%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「70 歳以上」は、「人や人情」が 9.2%と他の年代と比べて若干高くなっている。

(エ)地域別

- ・地域間に大きな差はみられない。
- ・すべての地域において「自然や景色」が約 6 割となっている。

図表 49 中山間地域の魅力



問 22 あなたは、県内の中山間地域の魅力を向上するためにどのような取り組みが必要だと思いますか。
次の中から当てはまものを3つ以内で選んでください。

(ア)全体

- ・「空き家や廃校の活用」が 40.3%と最も高く、次いで「地域公共交通の利便性の向上」が 27.9%、「田園風景や趣あるまちなみなど景観の保全」が 27.0%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は「農林業の活性化」が 25.9%と「女性」の 20.0%と比べて 5.9 ポイント高くなっている。
- ・「女性」は、「空き家や廃校の活用」が 42.8%と「男性」の 37.4%と比べて 5.4 ポイント高くなっている。

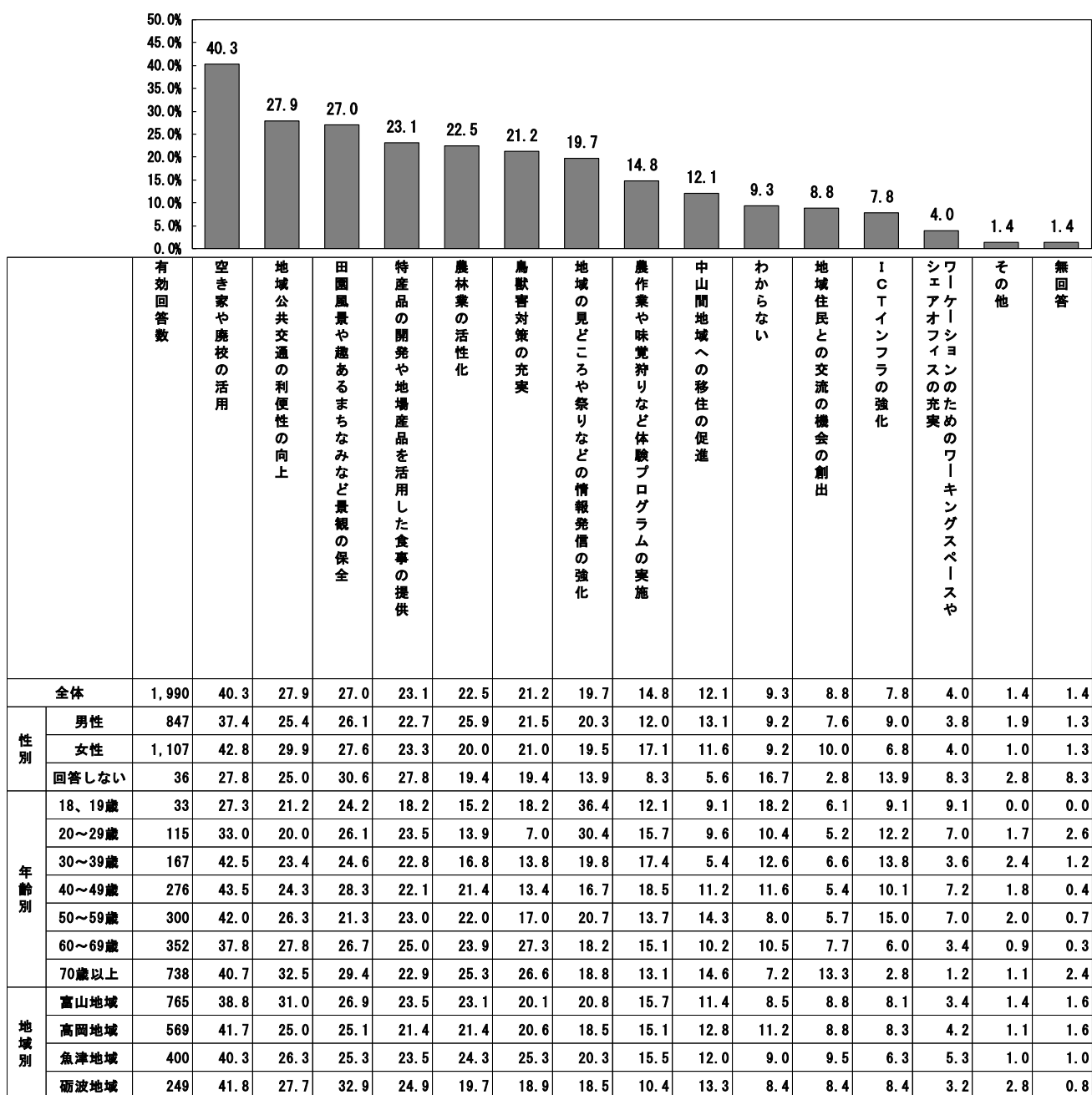
(ウ)年齢別

- ・「地域の見どころや祭りなどの情報発信の強化」は、「18、19 歳」が 36.4%、「20～29 歳」が 30.4%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「20～29 歳」は、「鳥獣害対策の充実」が 7.0%と他の年代と比べて低くなっている。

(エ)地域別

- ・「富山地域」は、「地域公共交通の利便性の向上」が 31.0%と他の地域に比べて高くなっている。
- ・「砺波地域」は、「田園風景や趣あるまちなみなど景観の保全」が 32.9%と他の地域に比べて高くなっている。

図表 50 中山間地域の魅力向上に向けた取り組み(N=1,990、M. T. =243.4%)



<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、全ての年代で5割以上の方が「自然や景色」を中山間地域の魅力だと回答しており、「住みやすい環境」と回答した人は全体では12.9%のところ、18、19歳で24.2%、20代で13.9%と平均より高くなっている。これらのことから、全ての世代が一定程度中山間地域に何らかの魅力を感じていることが見受けられる。

また、中山間地域の魅力向上には約4割の人が「空き家や廃校の活用」、約3割の人が「地域公共交通の利便性の向上」の取組みが必要と回答しており、18、19歳、20代の若い世代では約3割の人が「地域の見どころや祭りなどの情報発信の強化」が必要と回答している。

県では、引き続き住民主体の地域づくりを支援することで中山間地域の振興を図るとともに、より多くの県民に中山間地域の魅力を感じてもらうことなどをきっかけに、中山間地域への理解や関心を深めていただけるよう努めていく。

(12) 里親制度について

<いま>

何らかの事情により、実親が育てられない子どもを含め、すべての子どもの育ちを保障する観点から、平成28年の児童福祉法改正で、子どもが権利主体であることや、実親による養育が困難である場合は、特別養子縁組や里親による養育を推進することが明確化された。この理念を実現するため、国は「新しい社会的養育ビジョン」を示し、里親家庭で育てられる子どもの割合（里親委託率）を大幅に引き上げる目標が掲げられた。

本県においては、平成28年3月に「富山県家庭的養護推進計画」、令和2年3月に「富山県社会的養育推進計画」を策定し、里親制度の普及啓発や里親の資質向上等に取り組み、里親委託を推進している。今回、令和4年の児童福祉法改正を受け、富山県社会的養育推進計画を見直すこととしている。

<調査結果>

問 23 さまざまな事情（実親の病気や死亡、実親による児童虐待など）で実親の養育が受けられない子どもたちがいますが、あなたはこのような子どもたちを家庭的な環境で養育する「里親」になってみたいですか。

(ア)全体

- ・『里親になってみたい』（「里親になってみたい」と「どちらかというとき里親になってみたい」を合算したもの）が9.7%、『里親になりたくない』（「どちらかというとき里親になりたくない」と「里親になりたくない」を合算したもの）が47.1%、「どちらとも言えない」が41.8%となっている。

(イ)性別

- ・男女間に大きな差はみられない。

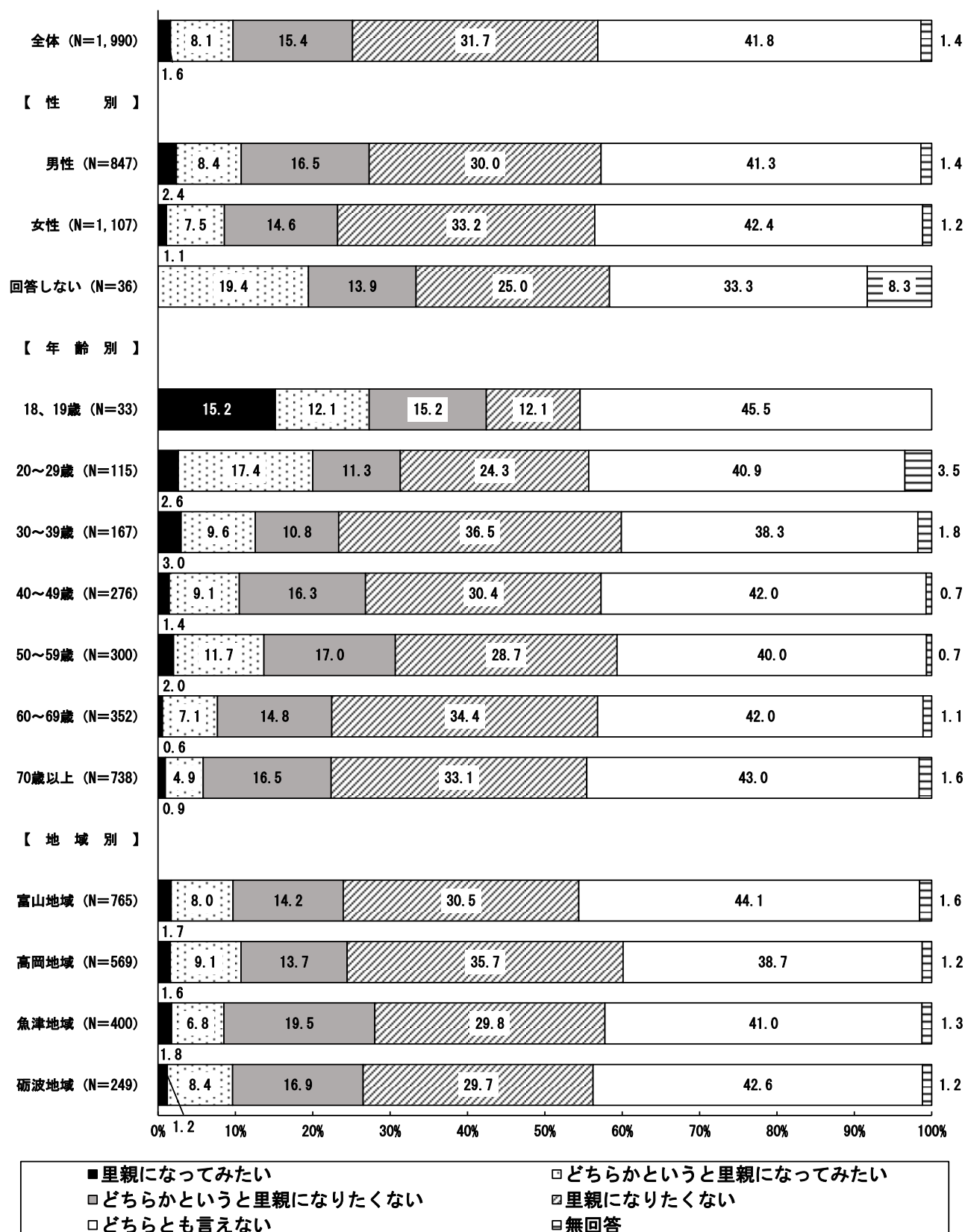
(ウ)年齢別

- ・『里親になってみたい』は、「50～59歳」を除き、年代が上がるにつれ、低くなっている。

(エ)地域別

- ・「高岡地域」は、「里親になりたくない」が35.7%と他の地域に比べて高くなっている。

図表 51 里親になってみたいか



問 23-2 問 23 で「1. 里親になってみたい」、「2. どちらかというとき里親になってみたい」と回答された方にお尋ねします。

里親になってみたい理由は何ですか。次の中から当てはまるものすべてを選んでください。

(ア)全体

- ・「家庭を必要とする子どもを助けたいから」が 68.4%と最も高く、次いで「子どもが好きだから」が 34.7%、「社会貢献をしたいから」が 18.7%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、「実子がないから」が 22.0%と「女性」の 12.6%と比べて 9.4 ポイント高くなっている。
- ・「女性」は、「家庭を必要とする子どもを助けたいから」が 74.7%と「男性」の 63.7%と比べて 11.0 ポイント高くなっている。

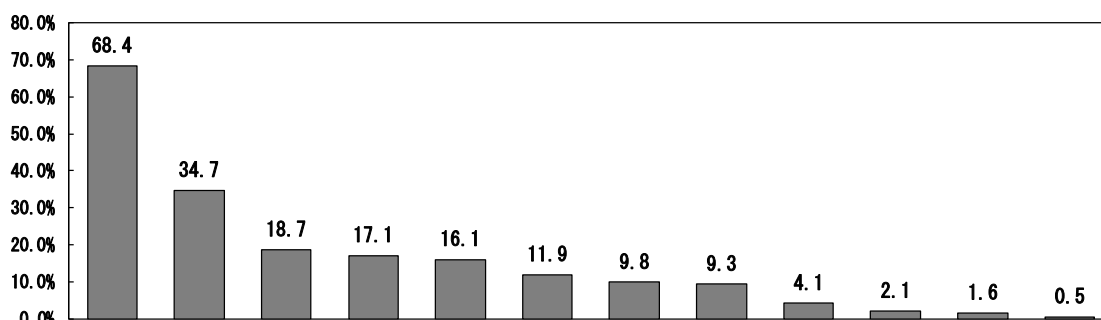
(ウ)年齢別

- ・「20～29 歳」は、「社会貢献をしたいから」が 30.4%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「30～39 歳」は、「実子がないから」が 28.6%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・50 歳以上（「50～59 歳」、「60～69 歳」、「70 歳以上」）は、「実子の子育てが終わったから」が他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・「砺波地域」は、「子どもが好きだから」が 45.8%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 52 里親になってみたい理由(N=193、M. T. =194.8%)



		有効回答数	家庭を必要とする子どもを助けたいから	子どもが好きだから	社会貢献をしたいから	実子がないから	実子の子育てが終わったから	子育てをしたいから	時間に余裕ができたから	自分にもできそうと思ったから	経済的に余裕があるから	補助金が出るから	その他	無回答
全体		193	68.4	34.7	18.7	17.1	16.1	11.9	9.8	9.3	4.1	2.1	1.6	0.5
性別	男性	91	63.7	36.3	19.8	22.0	13.2	12.1	7.7	8.8	4.4	2.2	0.0	1.1
	女性	95	74.7	34.7	18.9	12.6	18.9	12.6	11.6	8.4	3.2	1.1	3.2	0.0
	回答しない	7	42.9	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0
年齢別	18、19歳	9	44.4	44.4	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0
	20～29歳	23	73.9	43.5	30.4	4.3	0.0	17.4	0.0	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	21	76.2	38.1	19.0	28.6	0.0	14.3	0.0	4.8	4.8	4.8	0.0	0.0
	40～49歳	29	69.0	44.8	17.2	24.1	6.9	20.7	3.4	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	50～59歳	41	63.4	26.8	14.6	24.4	34.1	7.3	9.8	4.9	4.9	2.4	0.0	0.0
	60～69歳	27	77.8	40.7	18.5	7.4	25.9	7.4	14.8	11.1	7.4	3.7	3.7	0.0
	70歳以上	43	65.1	23.3	16.3	16.3	18.6	11.6	23.3	16.3	4.7	0.0	2.3	2.3
地域別	富山地域	74	67.6	37.8	17.6	16.2	9.5	10.8	5.4	9.5	4.1	2.7	1.4	0.0
	高岡地域	61	67.2	32.8	21.3	14.8	11.5	13.1	6.6	9.8	4.9	3.3	3.3	0.0
	魚津地域	34	70.6	23.5	8.8	26.5	23.5	17.6	14.7	11.8	2.9	0.0	0.0	2.9
	砺波地域	24	70.8	45.8	29.2	12.5	37.5	4.2	25.0	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0

問 23-3 問 23 で「3. どちらかというとき里親になりたくない」、「4. 里親になりたくない」と回答された方にお聞きします。里親になりたくない理由は何ですか。
当てはまるものすべてを選んでください。

(ア)全体

- ・「漠然と大変そうだから」が 46.2%と最も高く、次いで「経済的負担が心配だから」が 44.7%、「子どもの人生を左右するので責任が重いから」が 40.4%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、主に「仕事や生活への負担が心配だから」が 42.1%、「支援してくれる組織や体制がないと思うから」が 12.9%、「興味がないから」が 12.9%と「女性」と比べて高くなっている。
- ・「女性」は、主に「漠然と大変そうだから」が 49.8%、「子どもの人生を左右するので責任が重いから」が 45.5%、「専門的な知識やスキルが必要そうだから」が 24.5%と「男性」と比べて高くなっている。

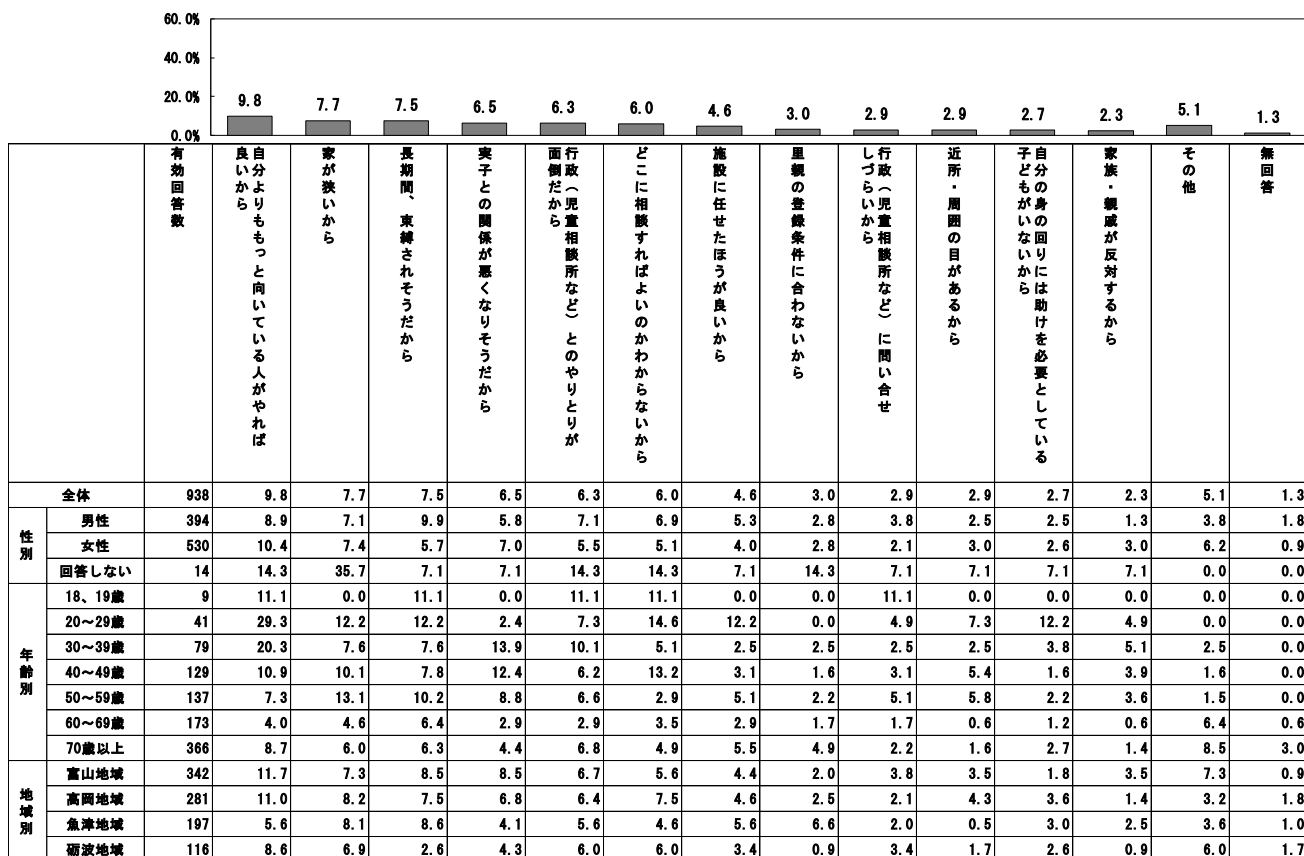
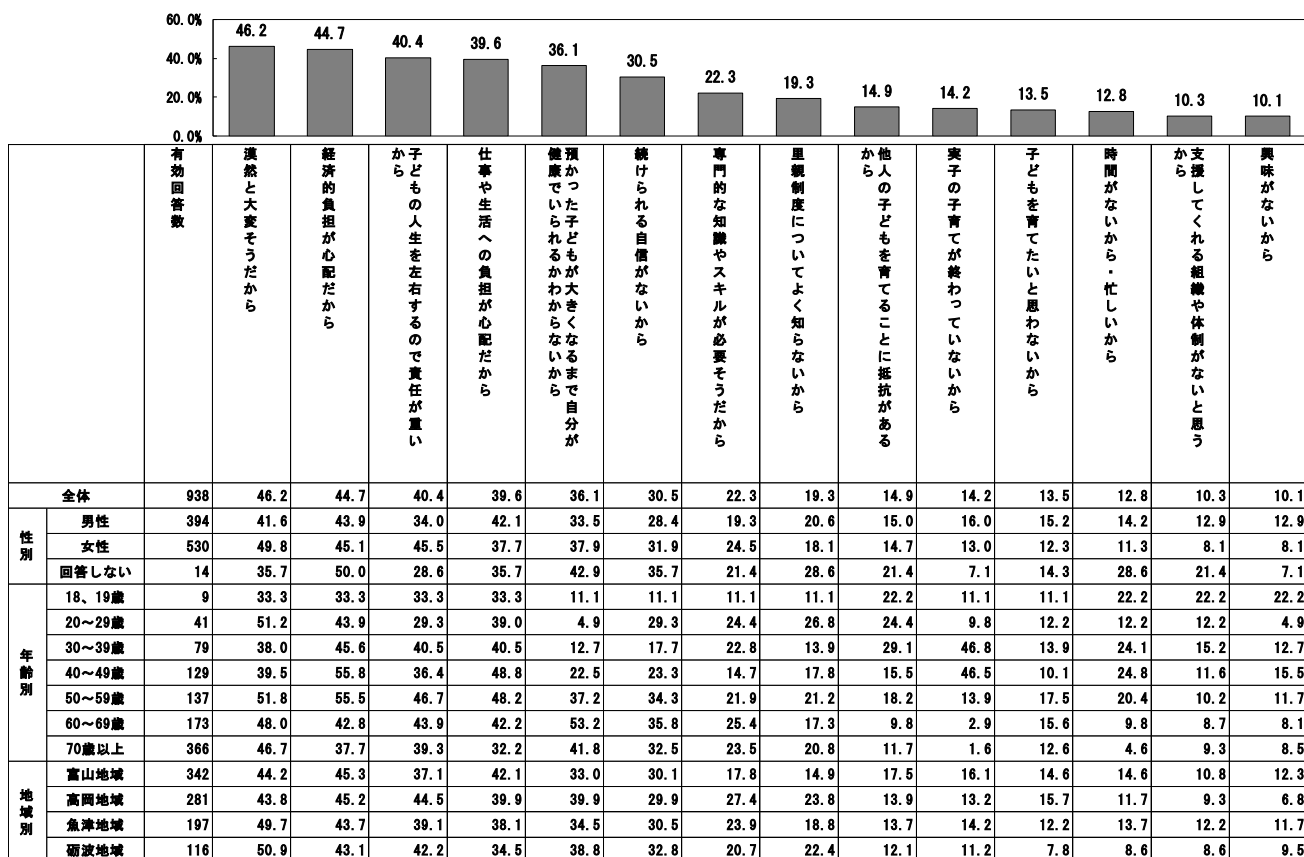
(ウ)年齢別

- ・「20～29 歳」と「50～59 歳」は、「漠然と大変そうだから」が約 5 割と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「30～39 歳」、「40～49 歳」は、「実子の子育てが終わっていないから」が 4 割半ばと他の年代と比べて高くなっている。
- ・「40～49 歳」、「50～59 歳」は、「経済的負担が心配だから」が 5 割半ばと他の年代と比べて高くなっている。
- ・「60～69 歳」、「70 歳以上」は、「預かった子どもが大きくなるまで自分が健康でいられるかわからないから」が他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・「魚津地域」、「砺波地域」は、「漠然と大変そうだから」が約 5 割と他の地域と比べて高くなっている。

図表 53 里親になりたくない理由(N=938、M. T. =427.5%)



<調査結果を受けて>

今回の調査では、里親に「なつてみたい」、「どちらかというとなつてみたい」は9.7%にとどまり、大多数が「なりたくない」、「どちらかというとなりたくない」、もしくは、「どちらとも言えない」と回答しており、平成30年度の調査結果とほとんど変わらなかつた。

里親になつてみたい理由として、「社会貢献をしたいから」という理由も上位に挙がつており（前回5位→今回3位）、里親が社会的養育の重要な担い手であることの認識が広まっていると考えられる。

里親になつてみたいと思わない理由については、「漠然と大変そうだから」、「経済的負担が心配だから」という理由が上位を占めており、里親制度についての内容や、経済的な支援体制等を知ることによって里親になつてみたいか否かの回答が変わる可能性もあると思われる。

以上のことから、里親になつてみたいと考えている方への周知はもちろん、里親制度について知らない方へ制度や支援体制について普及啓発を図り、里親のなり手を増やすなど、里親委託を推進し、子どもたちがより家庭的な環境で養育されるよう施策の推進に努めたい。

3 意識調査

問 24 次の設問について、あなたが普段どのように感じられたり、どのように思ったりされているかお聞かせください。

(1) あなたは、富山県は住みよい県だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・「非常に住みよい」が 23.8%、「まあまあ住みよい」が 67.5%であり、『住みよい』（「非常に住みよい」と「まあまあ住みよい」を合算したもの）は 91.3%となっている。
- ・『住みにくい（「住みにくい」と「やや住みにくい」を合算したもの）』は 7.5%となっている。

(イ)性別

- ・男女差に大きな差は見られない。

(ウ)年齢別

- ・『住みよい』は、年代が上がるにつれ、高くなっている。
- ・「30～39歳」は、「非常に住みよい」が 18.6%と最も低くなっている。

(エ)地域別

- ・地域別に大きな差はみられないが、「非常に住みよい」は、「富山地域」が 26.0%、「魚津地域」が 24.5%と他の地域と比べて若干高くなっている。

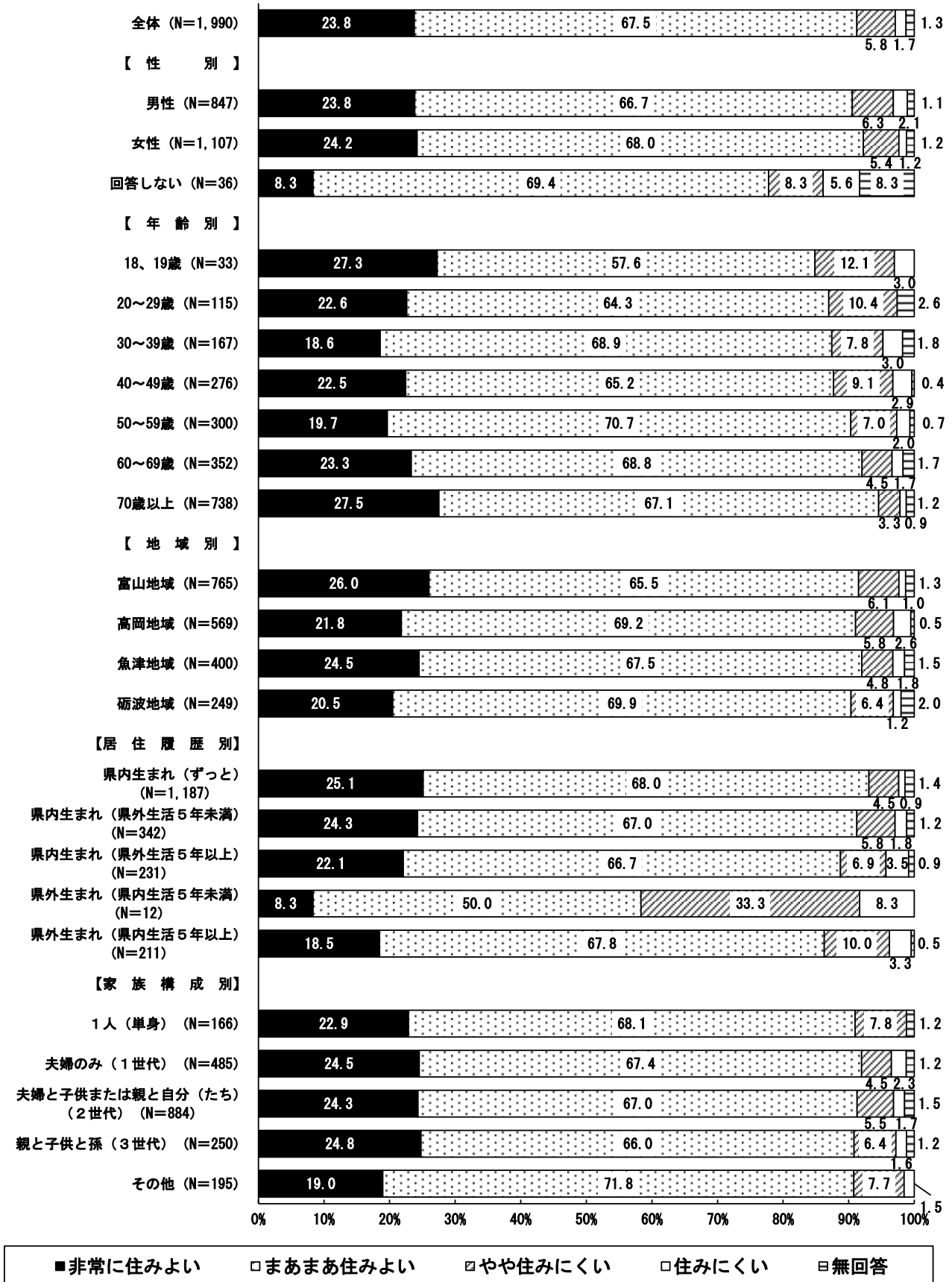
(オ)居住履歴別

- ・「非常に住みよい」は、県内生まれが県外生まれと比べて高くなっている。
- ・『住みよい』は、「県外生まれ（県内生活5年未満）」が 58.3%と他の居住履歴と比べて低くなっている。

(カ)家族構成別

- ・『住みよい』は、すべての家族構成で9割以上と高くなっている。

図表 54 富山県の住みよさ



(2) これからも富山県に住みたいと思われませんか。次の中から1つ選んでください。

(通学、転勤等により県外に転出される予定がある方についても、ご自身の意識としてお答えください。)

(ア)全体

- ・「これからも富山県に住みたいと思う」が 81.5%、「県外に転出したいと思う」が 4.6%、「わからない」が 12.4%となっている。

(イ)性別

- ・男女差に大きな差は見られないが、「女性」は「これからも富山県に住みたいと思う」が 83.2%と「男性」の 80.9%と比べて 2.3 ポイント高くなっている。

(ウ)年齢別

- ・「これからも富山県に住みたいと思う」は、年代が上がるにつれ、概ね、高くなっている。

(エ)地域別

- ・「魚津地域」は、「これからも富山県に住みたいと思う」が 77.3%と他の地域と比べて低くなっている。

(オ)職業別

- ・「これからも富山県に住みたいと思う」は、「農林漁業」が 86.7%と最も高く、「自由業」が 74.2%と「学生」の次に低くなっている。
- ・「県外に転出したいと思う」は、「学生」が 17.3%と他の職業と比べて高くなっている。

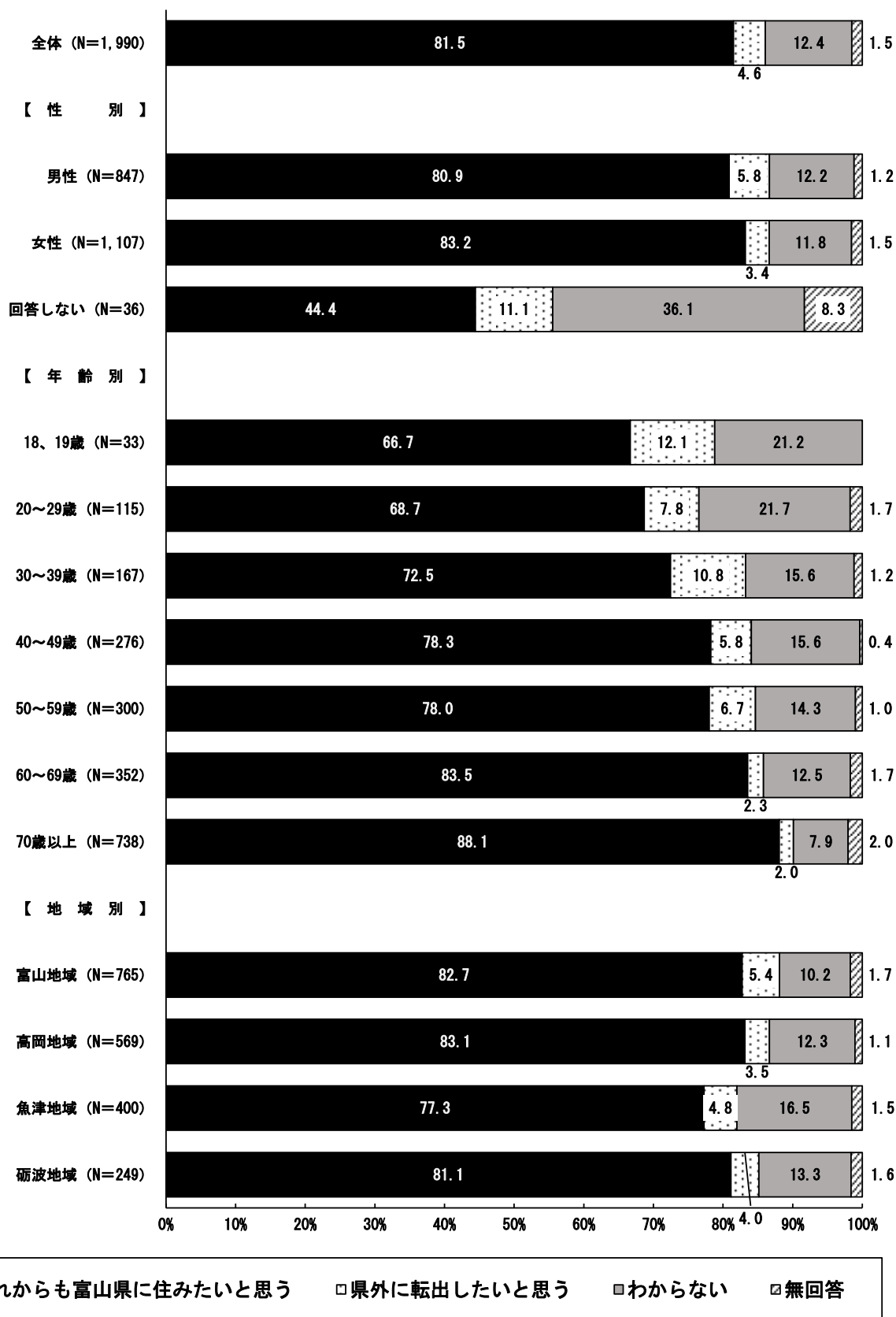
(カ)居住履歴別

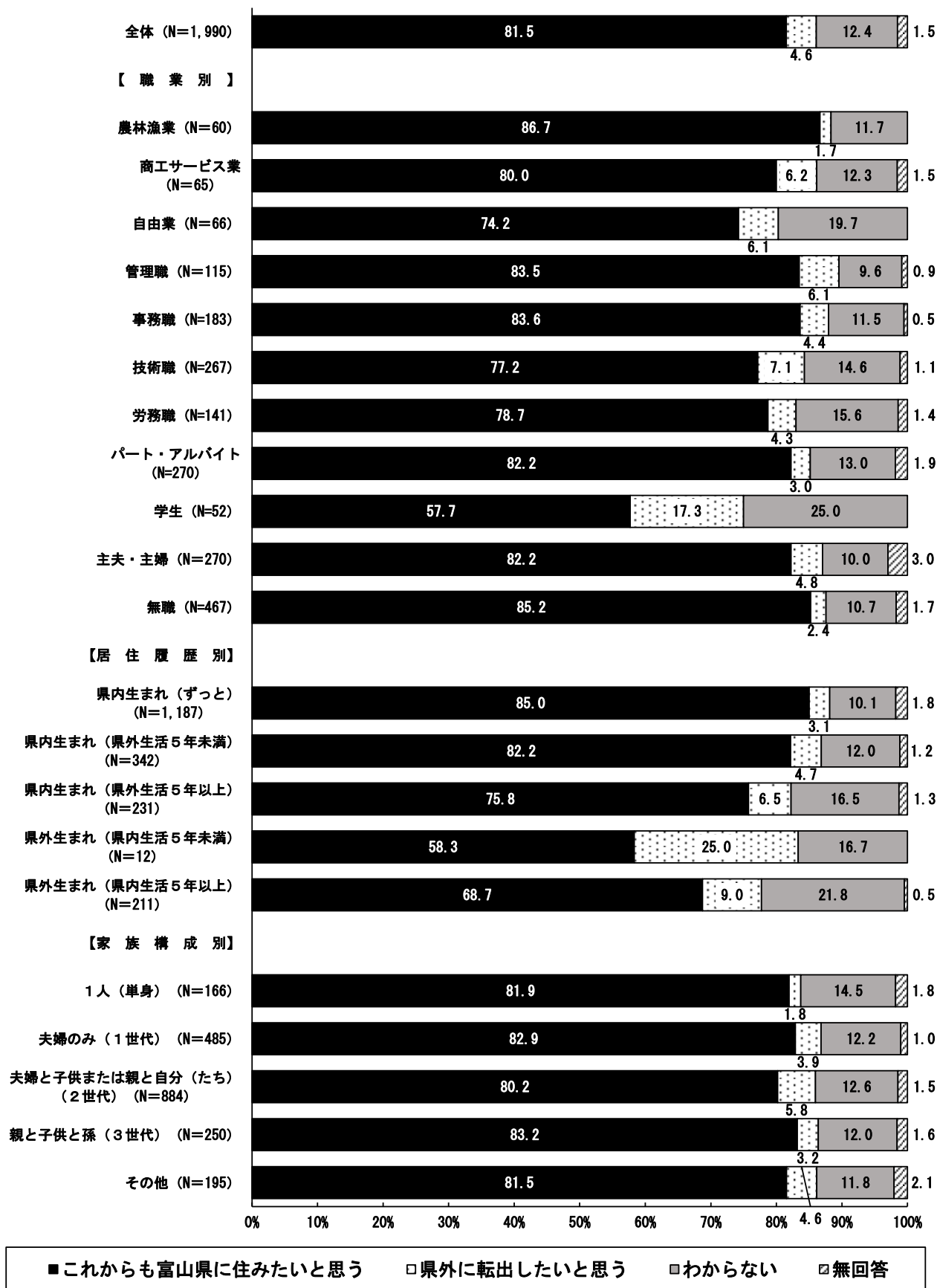
- ・「これからも富山県に住みたいと思う」は、県内生まれが県外生まれと比べて高くなっている。
- ・「県外に転出したいと思う」は、「県外生まれ（県内生活5年未満）」が 25.0%と他の居住履歴と比べて高くなっている。

(キ)家族構成別

- ・「これからも富山県に住みたいと思う」は、すべての家族構成で8割以上と高くなっている。

図表 55 富山県への継続した居住意向





(3) あなたは、仕事に充実感（満足感）を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『充実している』（「非常に充実している」と「まあまあ充実している」を合算したもの）が41.2%、『充実していない』（「あまり充実していない」と「まったく充実していない」を合算したもの）が10.1%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、『充実している』が43.5%と「女性」の39.9%と比べて3.6ポイント高くなっている。

(ウ)年齢別

- ・『充実している』は、「50～59歳」が52.6%と最も高くなっており、次いで「40～49歳」が51.4%となっている。

(エ)地域別

- ・地域間に大きな差はみられない。

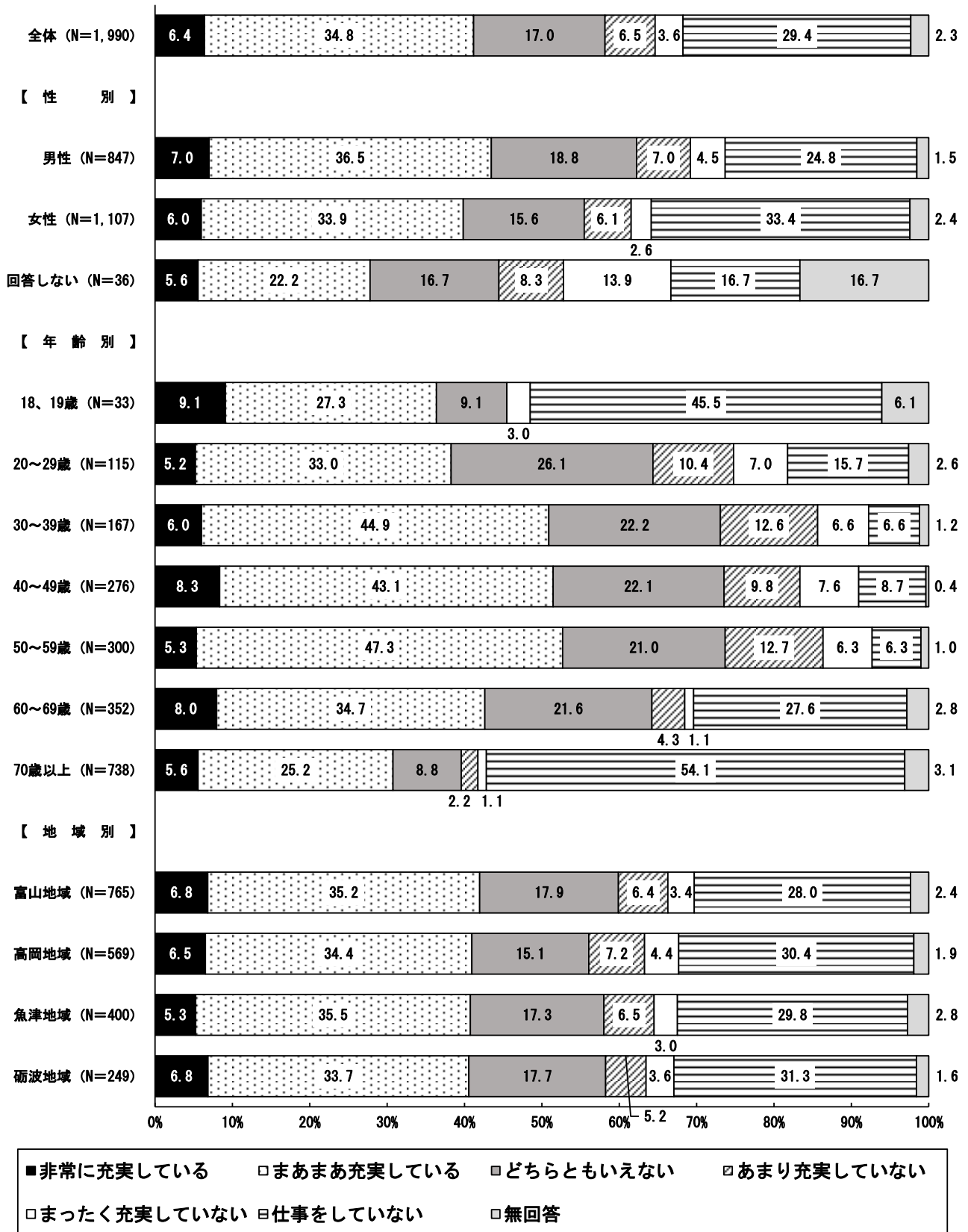
(オ)職業別

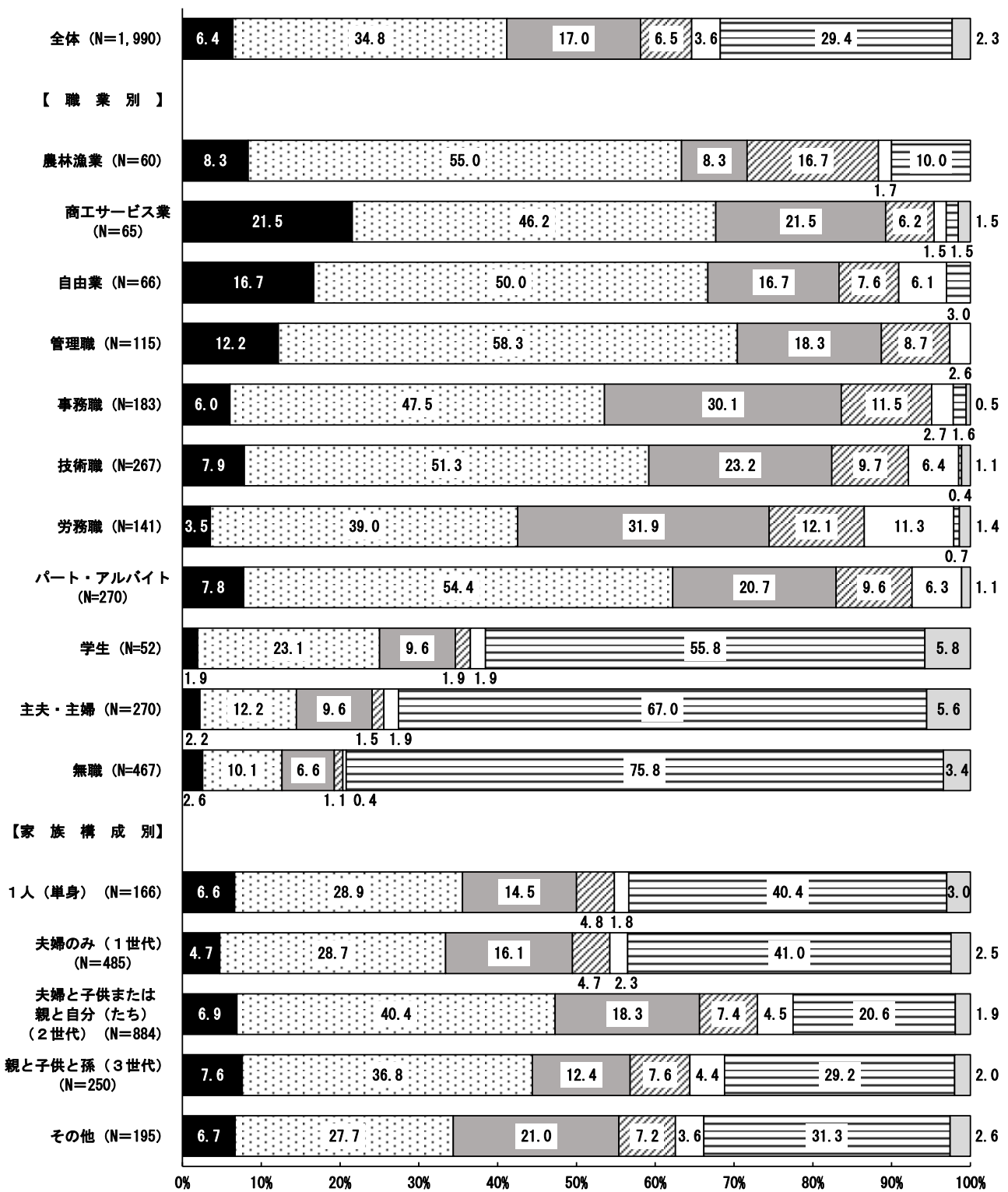
- ・「非常に充実している」は、「商工サービス業」が21.5%と最も高く、『充実している』は、「管理職」が70.5%と最も高くなっている。

(カ)家族構成別

- ・「非常に充実している」は、「親と子供と孫（3世代）」が7.6%と最も高く、『充実している』は、「夫婦と子供または親と自分（たち）（2世代）」、「親と子供と孫（3世代）」が4割以上と高くなっている。

図表 56 仕事の充実感(満足感)





非常に充実している
まあまあ充実している
どちらともいえない
あまり充実していない
まったく充実していない
仕事をしていない
無回答

(4) あなたは「富山県」に対して、どの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『愛着がある』（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」を合算したもの）が81.0%、『愛着がない』（「あまり愛着がない」と「まったく愛着がない」を合算したもの）が4.5%となっている。

(イ)性別

- ・男女間に大きな差はみられない。

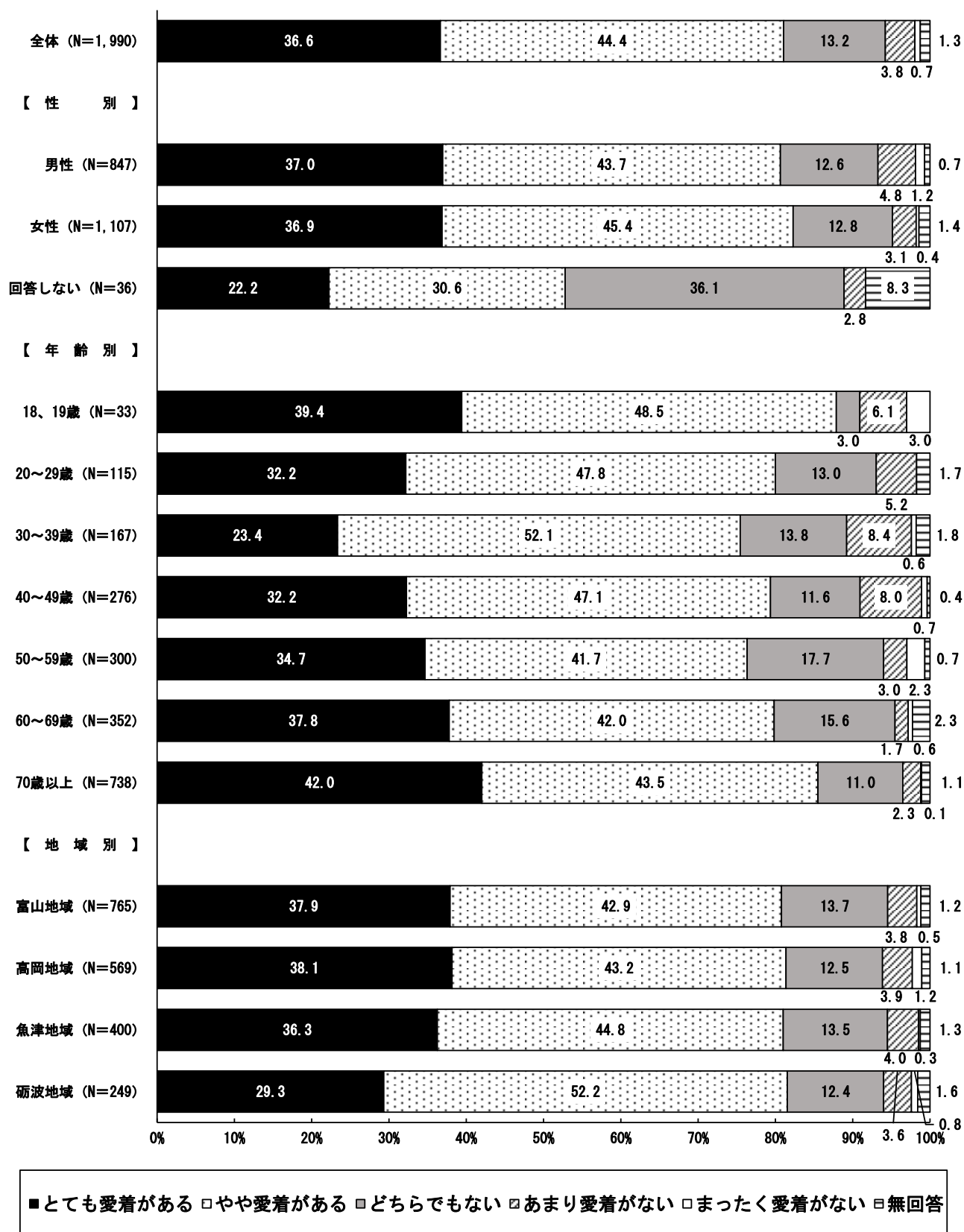
(ウ)年齢別

- ・「とても愛着がある」は、「30～39歳」が23.4%と最も低くなっている。

(エ)地域別

- ・すべての地域で『愛着がある』が8割を超えている。
- ・「砺波地域」は、「とても愛着がある」が29.3%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 57 富山県への愛着



(5) あなたは富山県のどのような点を誇りに思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

(ア)全体

- ・「海・山・川・湖などの自然が豊かなこと」が 85.3%と最も高く、次いで「食事がおいしいこと」が 63.3%、「災害が少ない、治安や防災がしっかりしていること」が 57.5%、「地元産の食材が豊富なこと」が 44.4%となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、「スポーツの参加・観戦が楽しめること」、「道路や交通の便が良いこと」、「地域を代表する産業や企業があること」、「他都道府県民からうらやましく思われること」以外の項目が「男性」と比べて高くなっている。

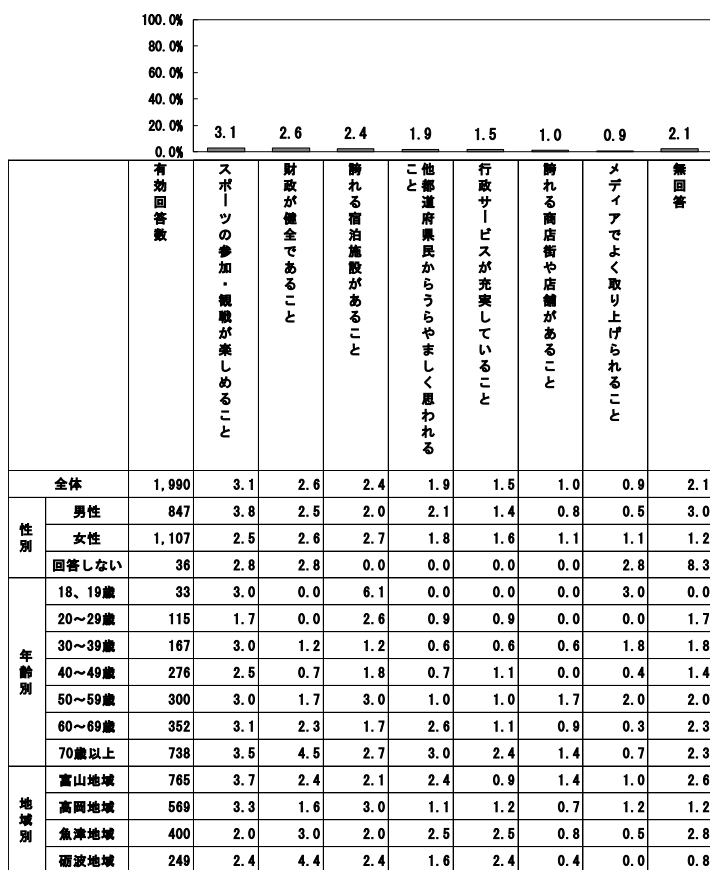
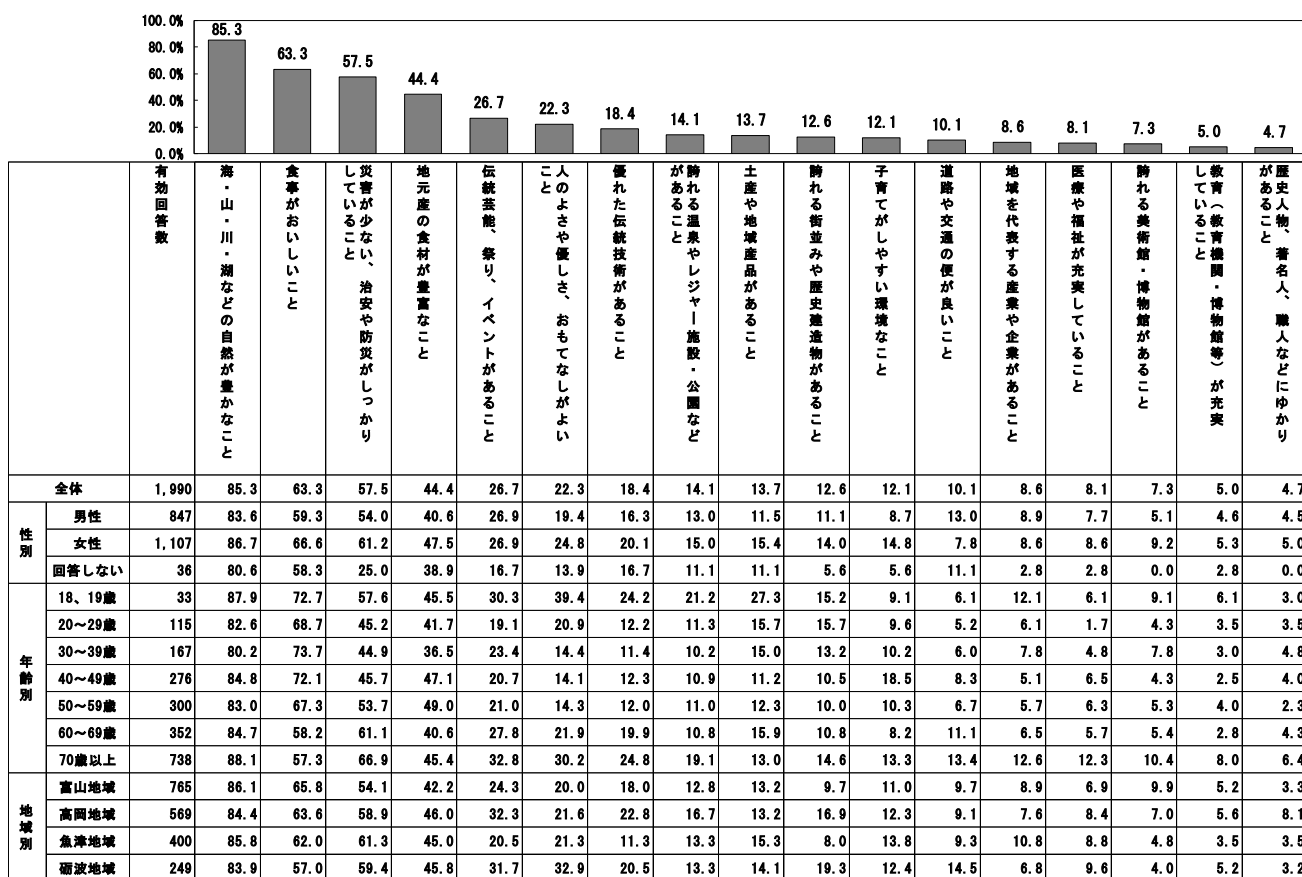
(ウ)年齢別

- ・「18, 19 歳」は、「土産や地域産品があること」が 27.3%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「20～29 歳」、「30～39 歳」、「40～49 歳」は、「災害が少ない、治安や防災がしっかりしていること」が 4 割半ばと他の年代と比べて低くなっている。
- ・「60～69 歳」、「70 歳以上」は、「食事がおいしいこと」が 6 割弱と他の年代と比べて低くなっている。

(エ)地域別

- ・「砺波地域」は、「人のよさや優しさ、おもてなしがよいこと」が 32.9%、「道路や交通の便が良いこと」が 14.5%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 58 富山県の誇りに思う点(N=1,990、M. T. =436.2%)



(6) 県内には、自然、歴史、文化、特産品など多くの魅力や地域資源がありますが、県外の知人、友人等に自信をもって紹介したり、奨めたりできるものがありますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・「たくさんある」が21.0%、「少しはある」が69.8%、「ない」が6.6%となっている。
- ・『ある』（「たくさんある」と「少しはある」を合算したもの）が約9割を占めている。

(イ)性別

- ・男女間に大きな差はみられない。

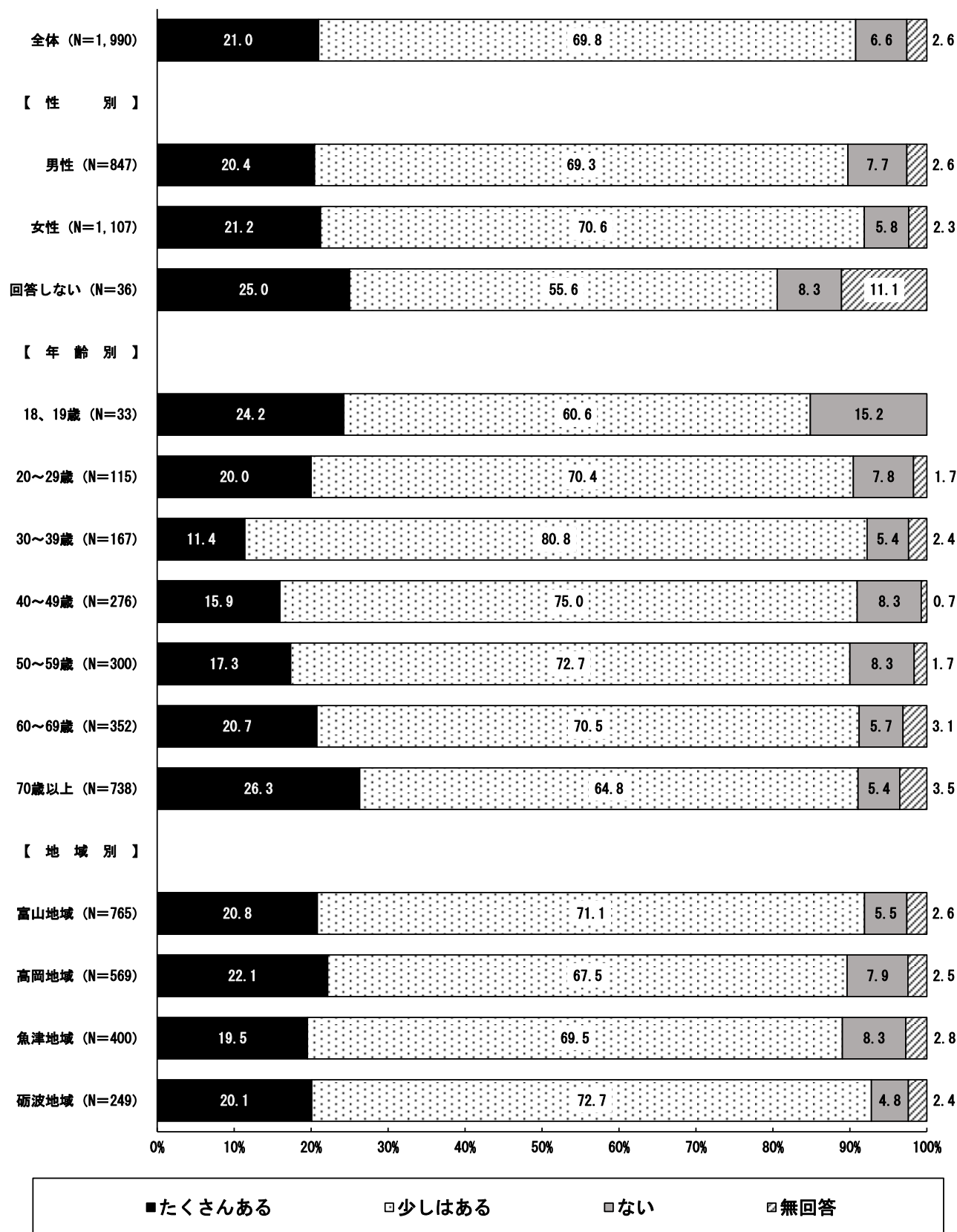
(ウ)年齢別

- ・『ある』は、「18、19歳」を除くすべての年代で9割以上となっている。
- ・「たくさんある」は、「70歳以上」が26.3%と最も高く、「30～39歳」が11.4%と最も低くなっている。

(エ)地域別

- ・「ない」は、「高岡地域」が7.9%、「魚津地域」が8.3%と他の地域と比べて若干高くなっている。

図表 59 県外へ紹介できるもの



(7) あなたは、県内において、音楽や演劇、美術など芸術文化に親しむ機会が充足されていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『充足されている』（「十分に充足されている」と「ある程度充足されている」を合算したもの）が 40.6%、
『充足されていない』（「あまり充足されていない」と「まったく充足されていない」を合算したもの）が 39.1%
となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、『充足されている』が 43.4%と「男性」の 37.8%と比べて 5.6 ポイント高くなっている。

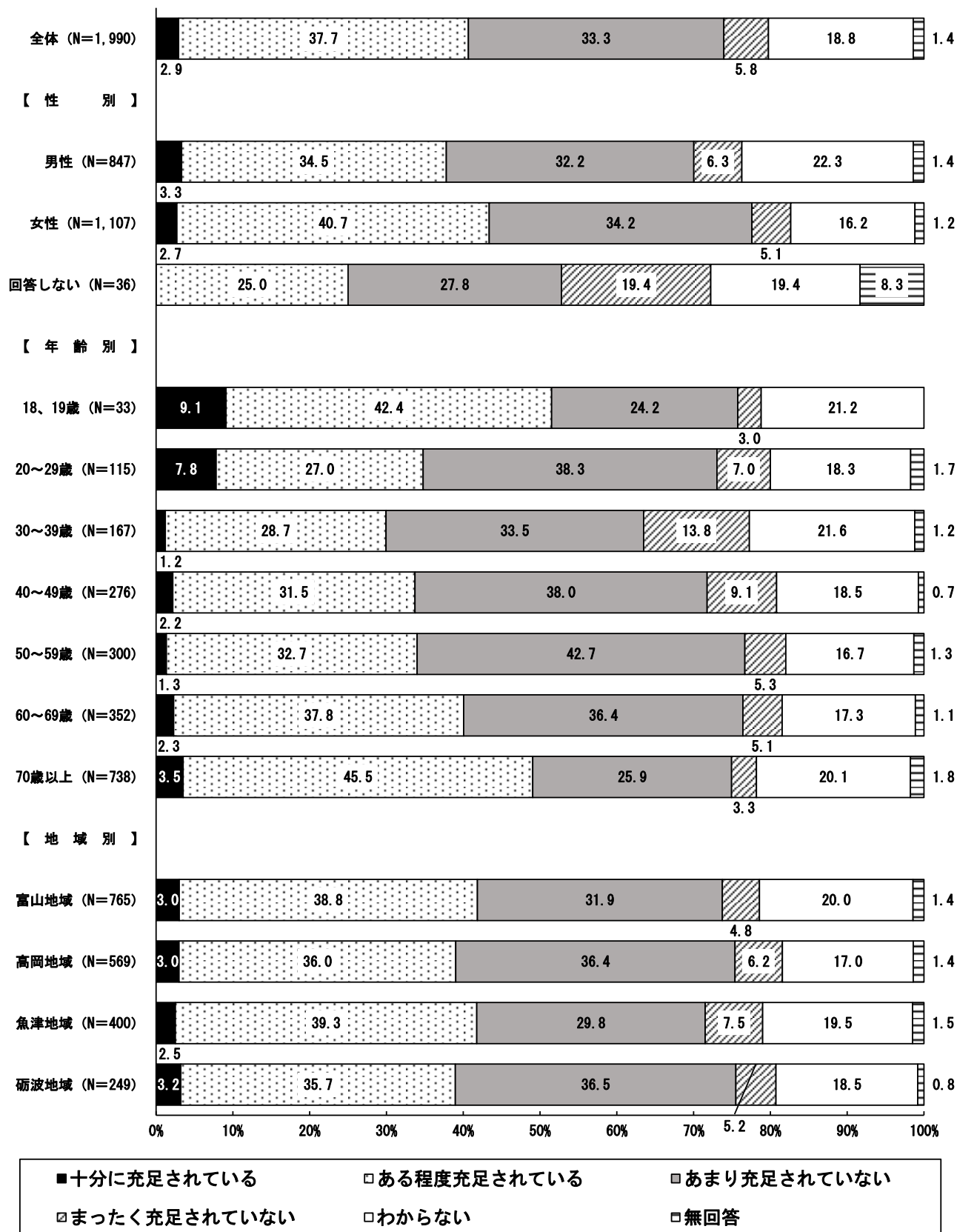
(ウ)年齢別

- ・『充足されている』は、30 歳以上で年代が上がるにつれ高くなっている。

(エ)地域別

- ・「高岡地域」、「砺波地域」は、『充足されていない』が 4 割以上と他の地域と比べて高くなっている。

図表 60 芸術文化に親しむ機会



(8) 最近の家庭は、しつけや望ましい生活習慣づくりなど、子どもの教育において、役割を果たしていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『果たしている』（「十分に果たしている」と「ある程度果たしている」を合算したもの）が42.1%、『果たしていない』（「あまり果たしていない」と「まったく果たしていない」を合算したもの）が39.0%となっている。

(イ)性別

- ・「女性」は、『果たしている』が45.6%と「男性」の38.0%と比べて7.6ポイント高くなっている。

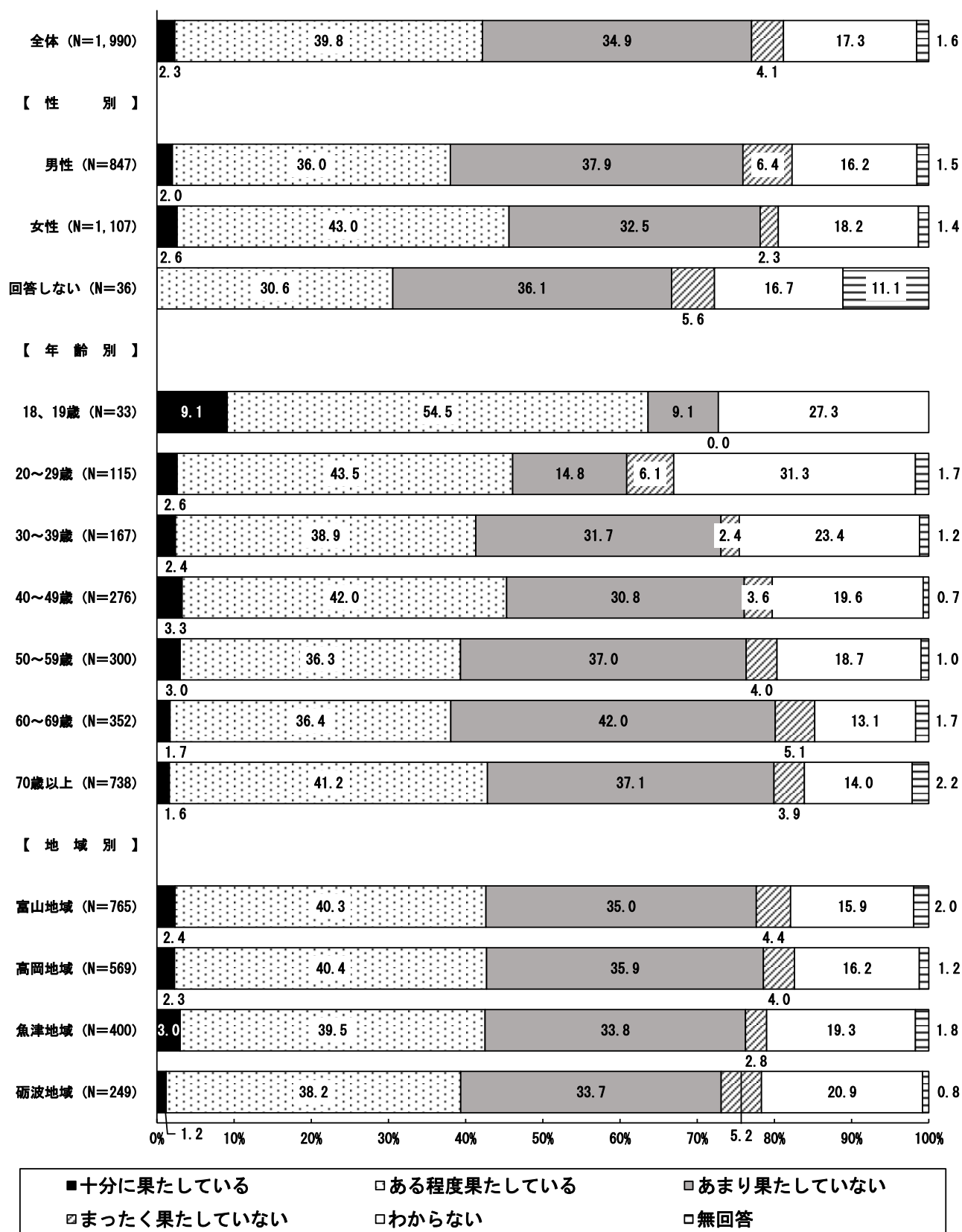
(ウ)年齢別

- ・『果たしている』は、「60～69歳」が38.1%と最も低くなっている。

(エ)地域別

- ・地域間に大きな差はみられないが、「砺波地域」は、『果たしている』が39.4%と他の地域と比べて若干低くなっている。

図表 61 子供の教育における家庭の役割



(9) あなたは、過去1年間に、生涯学習※を行ったことがありますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

・「ある」が28.7%、「ない」が69.0%となっている。

(イ)性別

・「女性」は、「ある」が32.2%と「男性」の24.4%と比べて7.8ポイント高くなっている。

(ウ)年齢別

・「18、19歳」は、「ある」が54.5%と他の年代と比べて突出して高くなっている。

・20歳以上は、年代が上がるにつれ、概ね、「ある」が高くなっている。

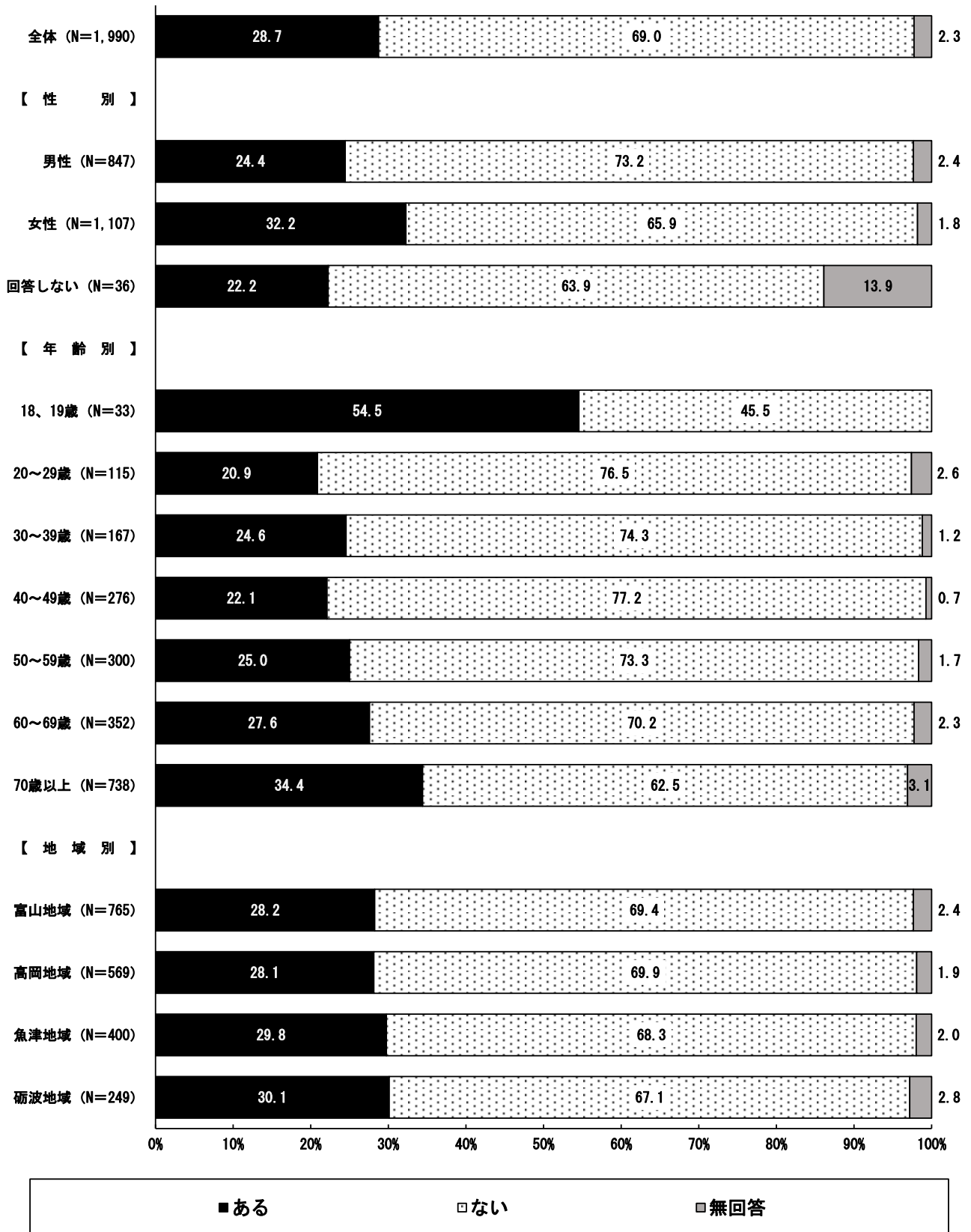
(エ)地域別

・地域間に大きな差はみられない。

※「生涯学習」とは

生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や公民館における社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のことをいいます。

図表 62 過去 1 年間における生涯学習の経験



(10) あなたが住んでいる地域の活動に参加していますか。次の中から1つ選んでください。

(ア)全体

- ・『参加している』（「積極的に参加している」と「ときどき参加している」を合算したもの）が 62.9%、『参加していない』（「参加していないが、今後は参加したい」と「参加していないし、今後も参加したくない」を合算したもの）が 35.2%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、『参加している』が 67.7%と「女性」の 59.9%と比べて 7.8 ポイント高くなっている。

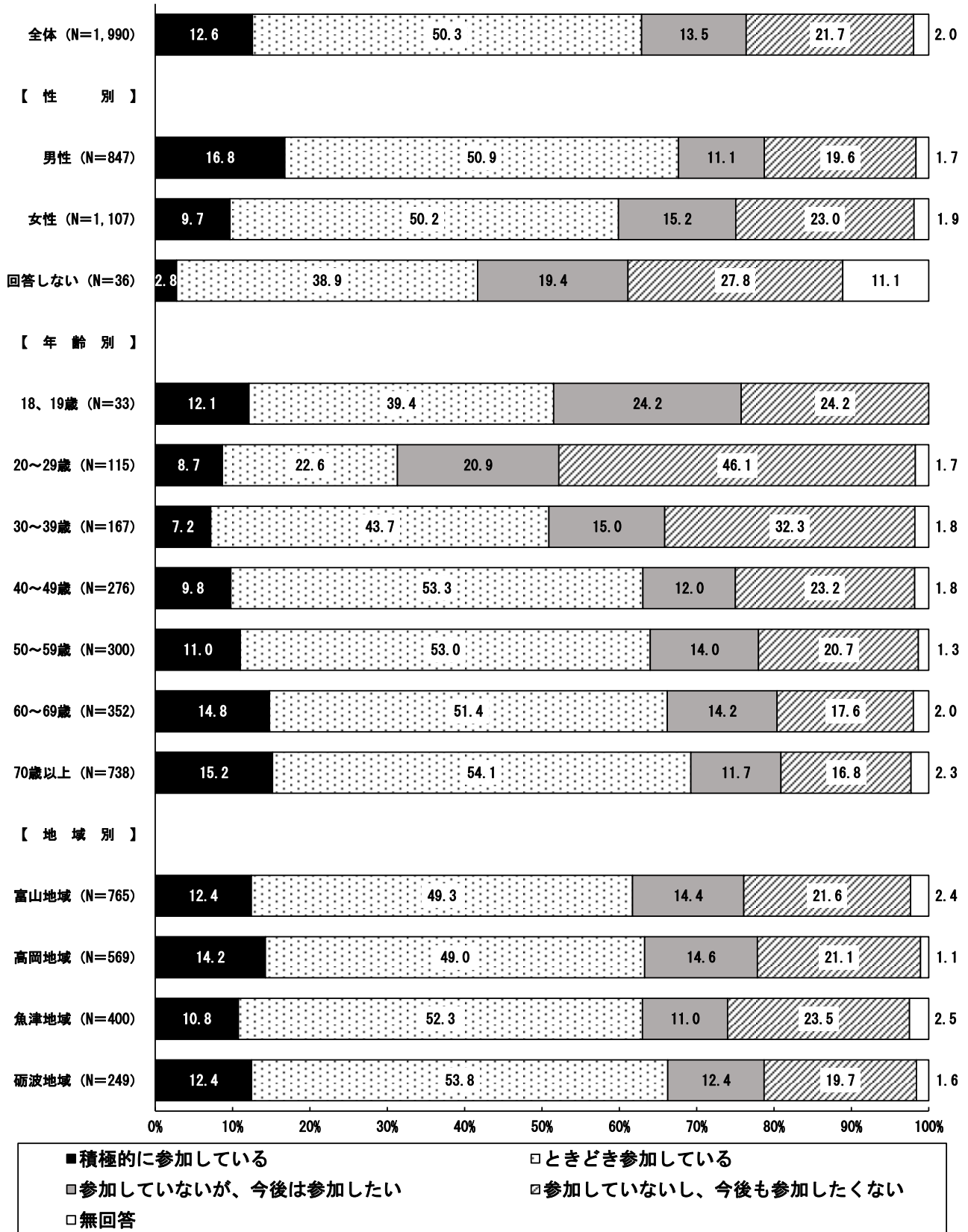
(ウ)年齢別

- ・「20～29 歳」は、『参加している』が 31.3%と他の年代と比べて突出して低くなっている。
- ・20 歳以上は、『参加している』が年代が上がるにつれ、高くなっている。

(エ)地域別

- ・「砺波地域」は、『参加している』が 66.2%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 63 地域活動への参加



4 学びの選択肢について

<いま>

文部科学省の調査結果によると、近年小中学校における不登校児童生徒数や小・中・高等学校の日本語指導が必要な児童生徒数が過去最多を更新しており、学校教育に馴染めない児童生徒の支援についての議論が求められている。また、リカレント教育や時代の変化による教育の多様化も注目されている。

令和5年1月時点の県内の外国人住民数は19,636人と過去最多となっており、今後も増加が見込まれ、誰もが活躍できる地域づくりはますます重要となっている。

すべての人々が学びを断念することなく、キャリアアップやキャリアデザインの道を拓くために、学習の選択肢の在り方について検討していくことが重要である。

<調査結果>

問 25 あなたはもっと学びたい・学び直したいという気持ちがありますか。

次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア)全体

・「はい、もっと学びたい・学び直したい」が 17.7%、「学びたい・学び直したい気持ちはあるが、実際にはできない」が 50.6%、「いいえ、特に学びたいとは思わない」が 29.5%となっている。

(イ)性別

・「女性」は、「学びたい・学び直したい気持ちはあるが、実際にはできない」が 52.6%と「男性」の 48.1%と比べて 4.5 ポイント高くなっている。

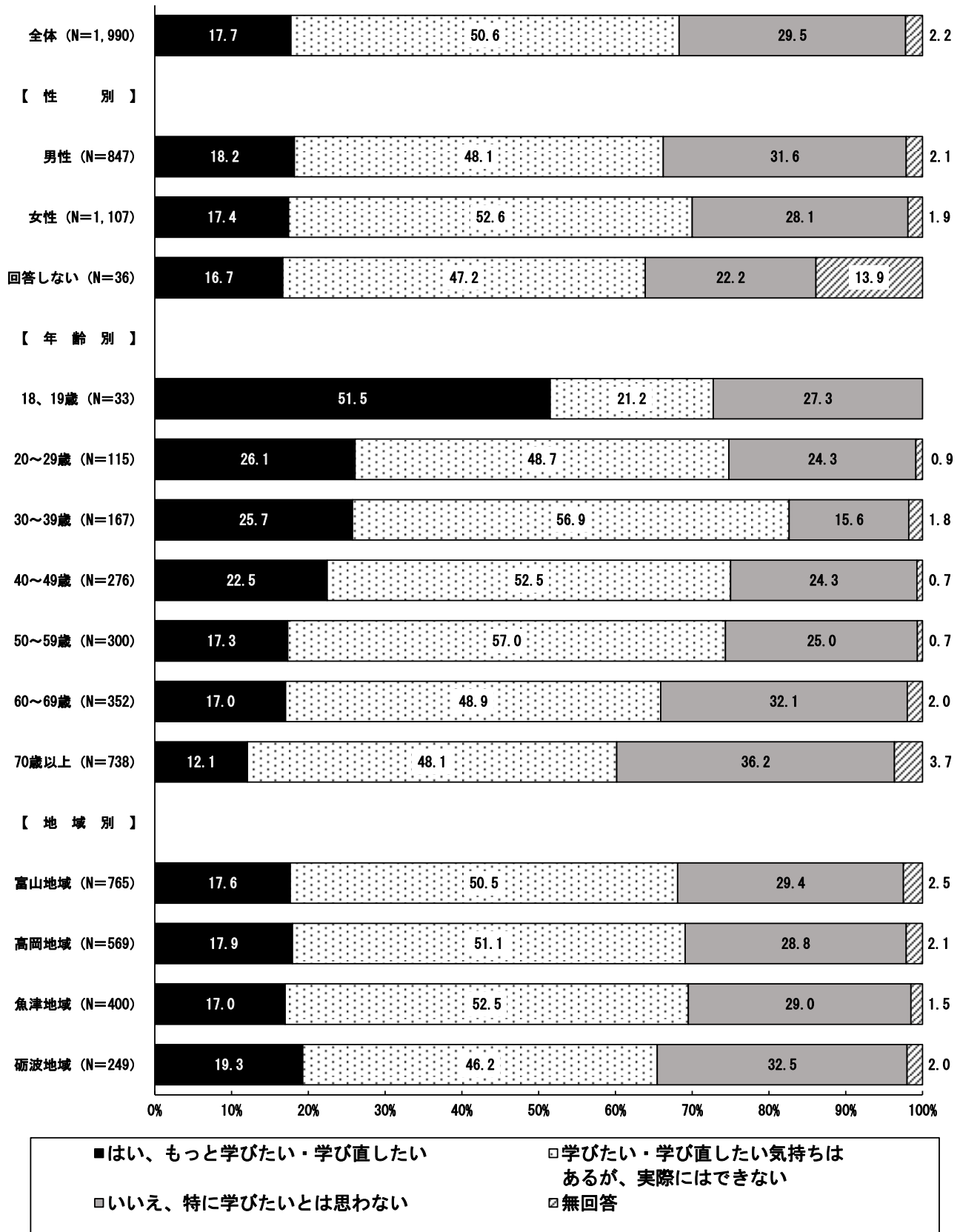
(ウ)年齢別

・「はい、もっと学びたい・学び直したい」は、「18～19 歳」が 51.5%と最も高く、年代が上がるにつれ、低くなっている。

(エ)地域別

・「砺波地域」は、「いいえ、特に学びたいとは思わない」が 32.5%と他の地域と比べて若干高くなっている。

図表 64 学びに対する気持ち



問 25-1 問 25 で「1. はい、もっと学びたい・学び直したい」「2. 学びたい・学び直したい気持ちはあるが、実際にはできない」と回答した方にお尋ねします。あなたが学びたい・学び直したい理由は何ですか。

次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「視野を広げたいから」が最も高く 57.1%、次いで「生活を豊かにするために教養を深めたいから」が 44.8%、「仕事や生活に役立つ知識を得たいから」が 38.1%、「スキルアップしたいから」が 35.2%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、「スキルアップしたいから」が 39.6%と「女性」の 32.0%と比べて 7.6 ポイント高くなっている。

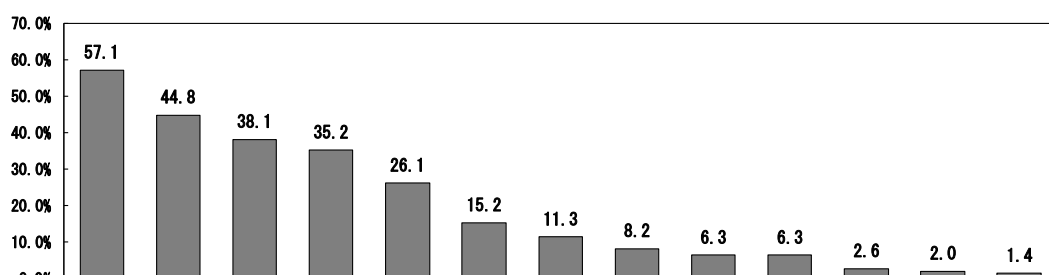
(ウ)年齢別

- ・「18、19 歳」は、「資格や免許を取得したいから」が 41.7%、「学びを通して色々な人と交流したいから」が 37.5%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・50 歳未満（「18、19 歳」、「20～29 歳」、「30～39 歳」、「40～49 歳」）は、「スキルアップしたいから」が 5 割以上と高くなっている。

(エ)地域別

- ・「高岡地域」は、「生活を豊かにするために教養を深めたいから」が 38.2%と他の地域と比べて低くなっている。

図表 65 学びたい・学び直したい理由 (N=1,359、M. T. =256.9)



		有効回答数	視野を広げたいから	生活を豊かにするために教養を深めたいから	仕事や生活に役立つ知識を得たいから	スキルアップしたいから	学びを通して色々な人と交流したいから	資格や免許を取得したいから	から学校に通っていたときに十分学習できなかった	勉強することが好きだから	仕事で困っているから	生活で困っているから	学校の卒業資格を得たいから	その他	無回答
全体		1,359	57.1	44.8	38.1	35.2	26.1	15.2	11.3	8.2	6.3	6.3	2.6	2.0	1.4
性別	男性	561	53.8	41.2	37.1	39.6	22.8	16.6	11.2	8.9	7.7	7.5	3.6	1.4	1.6
	女性	775	59.7	47.6	38.8	32.0	28.9	13.7	11.0	7.5	5.3	5.3	1.8	2.5	1.3
	回答しない	23	47.8	39.1	39.1	34.8	13.0	34.8	26.1	13.0	8.7	13.0	8.7	0.0	0.0
年齢別	18、19歳	24	62.5	37.5	33.3	50.0	37.5	41.7	12.5	16.7	0.0	4.2	25.0	4.2	0.0
	20～29歳	86	52.3	43.0	51.2	51.2	23.3	30.2	15.1	12.8	16.3	7.0	5.8	0.0	0.0
	30～39歳	138	57.2	41.3	52.9	56.5	14.5	31.9	10.1	10.9	19.6	10.1	2.9	0.7	0.0
	40～49歳	207	53.1	39.6	52.7	55.1	15.9	28.5	9.7	9.2	9.2	8.2	2.4	1.0	0.5
	50～59歳	223	59.2	43.5	45.7	39.0	26.0	20.6	12.6	6.3	6.3	6.7	3.1	0.4	0.4
	60～69歳	232	60.3	47.8	30.2	27.2	28.4	6.0	8.6	7.8	3.4	3.9	2.2	0.9	2.2
	70歳以上	444	57.2	48.0	25.0	17.8	33.6	1.6	12.4	6.8	0.9	5.2	0.9	4.5	2.5
地域別	富山地域	521	59.5	47.0	38.2	34.4	28.4	15.0	10.7	7.1	6.9	5.8	2.5	2.5	0.6
	高岡地域	393	56.2	38.2	37.9	34.6	24.2	16.0	12.5	10.9	4.3	7.6	1.8	1.8	2.8
	魚津地域	278	54.0	47.1	38.8	37.1	24.5	14.0	11.9	6.8	9.0	6.5	4.0	1.8	1.1
	砺波地域	163	57.7	49.1	37.4	36.2	27.0	16.0	9.2	7.4	4.9	4.3	3.1	1.2	1.2

問 25-1-1 問 25-1 で「7. 学校に通っていたときに十分学習できなかったから」と回答した方にお尋ね
します。学習できなかった原因は何ですか。
次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「学習に集中できなかった」が 70.8%と突出して高く、次いで「教師の教え方が良くなかった」が 20.1%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、「事情があり欠席が多かった」、「その他」を除くすべての項目が、女性と比べて高くなっている。

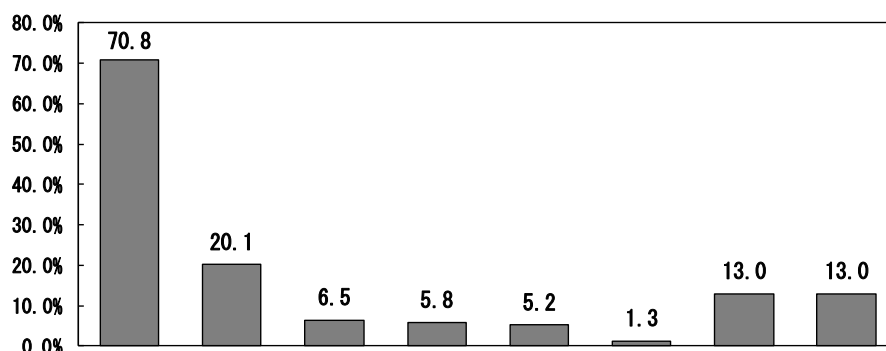
(ウ)年齢別

- ・「学習に集中できなかった」は、年代が上がるにつれ、概ね、低くなっている。

(エ)地域別

- ・「富山地域」、「高岡地域」は、「学習に集中できなかった」が 7割以上と他の地域と比べて高くなっている。
- ・「砺波地域」は、「教師の教え方が良くなかった」が 40.0%と他の地域と比べて高くなっている。

図表 66 学習できなかった原因(N=154、M. T. =141.0%)



		有効回答数	学習に集中できなかった	教師の教え方が良くなかった	事情があり欠席が多かった	日本語の理解力が不足していた	中退した	不登校だった	その他	無回答
全体		154	70.8	20.1	6.5	5.8	5.2	1.3	13.0	13.0
性別	男性 (N=63)	63	77.8	25.4	3.2	6.3	9.5	3.2	6.3	9.5
	女性 (N=85)	85	65.9	11.8	9.4	5.9	2.4	0.0	17.6	15.3
	回答しない (N=6)	6	66.7	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7
年齢別	18、19歳 (N=3)	3	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 (N=13)	13	92.3	23.1	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳 (N=14)	14	85.7	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0	21.4	7.1
	40～49歳 (N=20)	20	75.0	25.0	15.0	5.0	5.0	10.0	10.0	5.0
	50～59歳 (N=28)	28	78.6	28.6	0.0	3.6	14.3	0.0	7.1	3.6
	60～69歳 (N=20)	20	60.0	15.0	10.0	15.0	5.0	0.0	30.0	30.0
70歳以上 (N=55)	55	58.2	14.5	7.3	1.8	3.6	0.0	10.9	20.0	
地域別	富山地域 (N=56)	56	78.6	17.9	7.1	5.4	8.9	0.0	10.7	16.1
	高岡地域 (N=49)	49	71.4	22.4	6.1	6.1	4.1	2.0	8.2	14.3
	魚津地域 (N=33)	33	63.6	9.1	6.1	6.1	3.0	3.0	18.2	6.1
	砺波地域 (N=15)	15	53.3	40.0	6.7	6.7	0.0	0.0	20.0	13.3

問 25-2 問 25 で「1. はい、もっと学びたい・学び直したい」「2. 学びたい・学び直したい気持ちはあるが、実際にはできない」と回答した方にお尋ねします。どんなことを学びたい・学び直したいと思いますか。

次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「生活を豊かにするための 幅広い知識」が 55.1%と最も高く、次いで「職業に結びついた専門的な知識・技術」が 32.7%、「語学（日本語以外）」が 28.3%、「特定の分野に関する深い知識」が 21.7%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、主に「職業に結びついた専門的な知識・技術」が 36.2%、「特定の分野に関する深い知識」が 25.7%、「高度に専門的な内容および研究」が 13.5%と「女性」と比べて高くなっている。
- ・「女性」は、「生活を豊かにするための 幅広い知識」が 59.1%と「男性」の 50.6%と比べて 8.5 ポイント高くなっている。

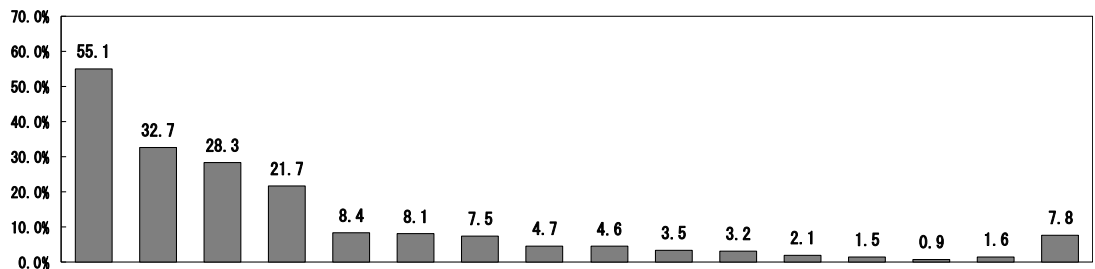
(ウ)年齢別

- ・「60～69 歳」、「70 歳以上」は、「生活を豊かにするための幅広い知識」が 6 割以上と他の年代と比べて高く、「職業に結びついた専門的な知識・技術」が 1 割台と他の年代と比べて低くなっている。

(エ)地域別

- ・「砺波地域」は、「語学（日本語以外）」が 22.1%と他の地域に比べて低くなっている。

図表 67 何を学びたい・学び直したいか(N=1,359、M. T. =199.4%)



		有効回答数	生活を豊かにするための幅広い知識	職業に結びついた専門的な知識・技術	語学（日本語以外）	特定分野に関する深い知識	高度に専門的な内容および研究	高校で学習する内容	義務教育（小学校・中学校）で学習する内容	仕事や生活に必要な読み書き（漢字など）	仕事や生活に必要な基礎的算数	語学（日本語）	外国（母国）のカリキュラム	世界共通のカリキュラム（IBプログラム※）	学校行事や係活動などの活動を通じた新しい学び	とりあえず学校に入ってから決定	その他	無回答
全体		1,359	55.1	32.7	28.3	21.7	8.4	8.1	7.5	4.7	4.6	3.5	3.2	2.1	1.5	0.9	1.6	7.8
性別	男性	561	50.6	36.2	26.4	25.7	13.5	8.0	7.7	4.1	5.7	2.1	3.9	2.1	1.8	1.2	1.6	6.8
	女性	775	59.1	29.8	29.9	18.6	4.5	7.7	7.4	5.2	3.6	4.3	2.8	1.7	1.4	0.6	1.7	8.4
	回答しない	23	30.4	43.5	21.7	30.4	13.0	21.7	8.7	4.3	8.7	8.7	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0	13.0
年齢別	18、19歳	24	33.3	58.3	54.2	33.3	25.0	25.0	8.3	12.5	8.3	8.3	25.0	8.3	8.3	4.2	8.3	4.2
	20～29歳	86	41.9	60.5	40.7	20.9	12.8	17.4	12.8	4.7	7.0	4.7	9.3	2.3	1.2	2.3	0.0	2.3
	30～39歳	138	48.6	59.4	29.7	27.5	13.8	9.4	13.0	2.2	7.2	3.6	5.8	3.6	2.2	0.7	0.7	1.4
	40～49歳	207	45.9	55.1	41.5	27.1	13.5	9.2	9.2	1.4	3.9	4.8	3.4	2.9	1.0	1.0	1.4	2.4
	50～59歳	223	52.9	38.1	33.6	28.7	8.1	5.4	5.8	4.0	3.6	3.6	3.1	3.1	1.3	0.4	1.3	3.1
	60～69歳	232	64.7	19.8	21.1	17.2	7.8	6.0	6.5	3.9	3.0	2.2	1.7	1.7	0.9	0.9	2.6	7.3
	70歳以上	444	61.7	10.8	19.1	15.8	2.9	6.5	5.4	7.4	4.5	2.9	0.9	0.2	1.8	0.7	1.6	16.2
地域別	富山地域	521	58.3	33.6	29.8	22.8	9.0	7.7	8.1	5.2	4.6	3.8	3.8	1.9	1.5	1.3	1.9	6.3
	高岡地域	393	51.4	32.1	27.7	21.9	8.4	7.9	6.6	5.3	4.8	3.1	3.1	2.0	0.8	0.5	1.5	10.2
	魚津地域	278	56.8	30.9	30.2	20.5	8.3	8.6	7.6	4.3	4.0	4.0	1.8	2.2	2.2	0.4	0.7	7.6
	砺波地域	163	51.5	33.7	22.1	19.6	6.7	8.0	8.0	2.5	4.3	2.5	4.3	1.8	2.5	1.2	2.5	7.4

※IBプログラムとは

国際バカロレア（IB：International Baccalaureate）は、ジュネーブに本部がある国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラムです。IBのディプロマ・プログラム（DP）では国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を取得することが可能で、海外の多くの大学（100カ国以上 20,000校以上）で入学資格として認められています。

問 25-3 問 25 で「1. はい、もっと学びたい・学び直したい」「2. 学びたい・学び直したい気持ちはあるが、実際にはできない」と回答した方にお尋ねします。どのような環境や方法で学びたい・学び直したいですか。

次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「あまり学費がかからないところ・方法で」が 48.3%と最も高く、次いで「自分一人で（テレビ・ラジオ・オンデマンド動画・本など）」が 28.6%、「働きながら通いやすい時間帯（夕方以降・短時間など）で」が 23.2%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、「対面授業で」が 25.0%と「女性」の 19.2%と比べて 5.8 ポイント高くなっている。
- ・「女性」は、主に「あまり学費がかからないところ・方法で」が 51.6%、「家の近くにある学校や教室で」が 24.4%、「好きな時に少人数で」が 20.5%と「男性」と比べて高くなっている。

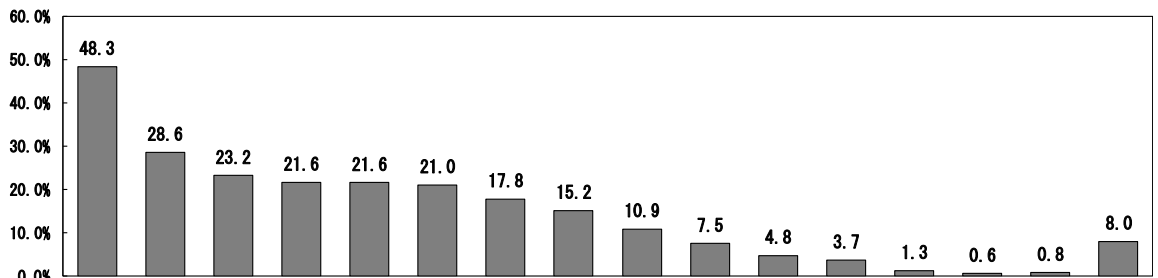
(ウ)年齢別

- ・「興味のあるテーマの講演会、学会・研究会などで」は、年代が上がるにつれ、概ね、高くなっている。
- ・「18、19 歳」は、「好きな時に少人数で」が 33.3%と他の年代と比べて高くなっている。
- ・30～49 歳（「30～39 歳」、「40～49 歳」）は、「働きながら通いやすい時間帯（夕方以降・短時間など）で」が 4 割以上と他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・地域間に大きな差はみられない。

図表 68 学びたい・学び直したい環境や方法 (N=1,359、M. T. =246.6%)



	有効回答数	あまり学費がかからないところ・方法で	動画・本など	自分一人で(テレビ・ラジオ・オンデマンド)	働きながら通いや早い時間帯(夕方以降・短時間など)で	対面授業で	興味のあるテーマの講演会、学会・研究会などで	家の近くにある学校や教室で	好きな時に少人数で	オンライン授業で	多様な人(年齢・性・国・宗教・障害等の特性など)と	職場で仕事をしながら	同じ属性(年齢・性・国・宗教・障害等の特性など)の人と	英語など日本語以外の言語で	海外の学校で	家庭教師で	その他	無回答
全体	1,359	48.3	28.6	23.2	21.6	21.6	21.0	17.8	15.2	10.9	7.5	4.8	3.7	1.3	0.6	0.8	8.0	
性別	男性	561	44.0	31.2	23.7	25.0	19.6	16.0	14.4	17.3	10.0	5.9	4.5	2.9	1.4	0.7	0.9	7.7
	女性	775	51.6	26.7	22.7	19.2	23.2	24.4	20.5	13.3	11.7	8.6	5.2	4.3	1.2	0.5	0.8	8.1
	回答しない	23	43.5	26.1	26.1	21.7	13.0	30.4	8.7	26.1	4.3	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	13.0
年齢別	18、19歳	24	54.2	29.2	12.5	25.0	12.5	16.7	33.3	0.0	16.7	4.2	16.7	12.5	12.5	4.2	4.2	8.3
	20~29歳	86	47.7	32.6	36.0	25.6	12.8	11.6	11.6	19.8	12.8	11.6	11.6	1.2	7.0	2.3	1.2	3.5
	30~39歳	138	59.4	36.2	41.3	25.4	16.7	19.6	18.1	33.3	7.2	21.7	5.1	3.6	1.4	0.0	0.7	2.2
	40~49歳	207	59.9	28.0	42.5	29.5	19.3	22.7	18.4	25.6	10.6	11.6	4.3	4.3	0.0	1.4	0.0	3.4
	50~59歳	223	62.8	28.7	35.4	23.3	22.4	18.4	18.4	16.6	12.1	8.5	4.5	4.5	2.2	0.0	0.0	2.7
	60~69歳	232	40.9	27.6	14.7	19.4	19.0	24.6	15.5	11.2	12.1	4.3	2.2	2.2	0.0	0.0	0.4	6.5
	70歳以上	444	35.8	25.7	5.0	16.2	27.0	22.1	18.7	5.4	10.4	1.8	4.5	3.8	0.2	0.5	1.6	16.4
地域別	富山地域	521	47.0	30.9	23.6	21.1	23.0	18.6	18.2	15.2	12.9	8.1	5.0	3.5	1.7	0.6	0.8	7.7
	高岡地域	393	48.6	24.9	22.4	22.9	20.1	19.6	17.3	13.2	8.9	8.1	4.8	3.8	1.3	0.5	0.3	9.9
	魚津地域	278	50.0	29.1	22.3	20.5	19.8	26.3	18.0	18.0	9.7	7.2	4.7	4.3	1.1	0.4	1.1	6.8
	砺波地域	163	49.1	28.2	25.2	22.1	23.3	23.3	17.8	14.1	11.7	4.9	4.3	3.1	0.0	1.2	1.8	6.7

問 25-4 問 25 で「2. 学びたい・学び直したい気持ちはあるが、実際にはできない」と回答した方にお尋ねします。実際に学ぶ・学び直すことができないのはなぜですか。
次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

(ア)全体

- ・「時間的に余裕がないから」が 56.9%と最も高く、次いで「意志を貫く自信がないから」が 35.4%、「経済的にハードルが高いから」が 26.3%となっている。

(イ)性別

- ・「男性」は、「時間的に余裕がないから」が 59.0%と「女性」の 55.0%と比べて 4.0 ポイント高くなっている。
- ・「女性」は、「意志を貫く自信がないから」が 37.8%と「男性」の 32.2%と比べて 5.6 ポイント高くなっている。

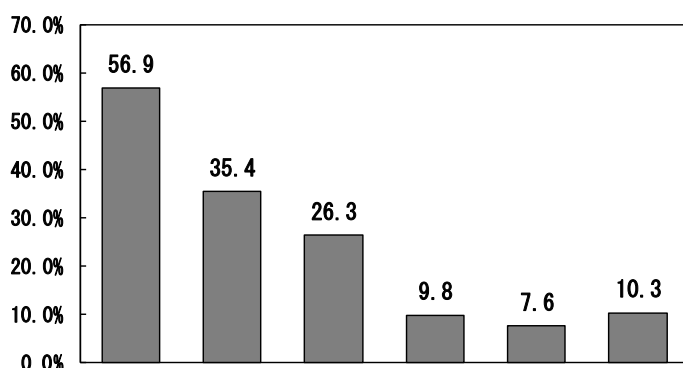
(ウ)年齢別

- ・20～59 歳（「20～29 歳」、「30～39 歳」、「40～49 歳」、「50～59 歳」）は、「時間的に余裕がないから」、「経済的にハードルが高いから」が他の年代と比べて高くなっている。

(エ)地域別

- ・地域間に大きな差は見られない。

図表.69 実際に学ぶことができない理由 (N=1,006、M. T. =151.7%)



		有効回答数	時間的に余裕がないから	意志を貫く自信がないから	経済的にハードルが高いから	周囲(家族や親族など)の協力が得られないから	その他	無回答
全体		1,006	56.9	35.4	26.3	9.8	7.6	10.3
性別	男性	407	59.0	32.2	25.6	7.9	5.2	9.8
	女性	582	55.0	37.8	27.0	11.5	9.5	10.3
	回答しない	17	70.6	29.4	23.5	0.0	0.0	23.5
年齢別	18、19歳	7	57.1	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	56	80.4	44.6	48.2	7.1	0.0	3.6
	30～39歳	95	87.4	29.5	43.2	11.6	0.0	5.3
	40～49歳	145	77.9	23.4	39.3	15.2	2.1	7.6
	50～59歳	171	74.9	32.2	35.1	9.4	2.3	7.0
	60～69歳	172	48.8	37.8	15.7	9.9	5.8	12.8
	70歳以上	355	31.3	40.6	14.1	8.2	16.6	14.6
地域別	富山地域	386	55.4	35.8	25.6	10.6	8.8	9.6
	高岡地域	291	56.0	34.0	29.6	10.0	7.6	10.7
	魚津地域	210	60.5	36.7	26.2	8.6	6.7	10.0
	砺波地域	115	56.5	34.8	20.0	9.6	5.2	13.0

問 26 あなたの最終学歴を教えてください。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(ア) 全体

- ・「高等学校」が42.5%と最も高く、次いで「大学」が20.7%、「専門学校」が11.9%、「短期大学」が10.6%となっている。

(イ) 性別

- ・「男性」は、「大学」が29.8%と「女性」の13.8%と比べて16.0ポイント高くなっている。

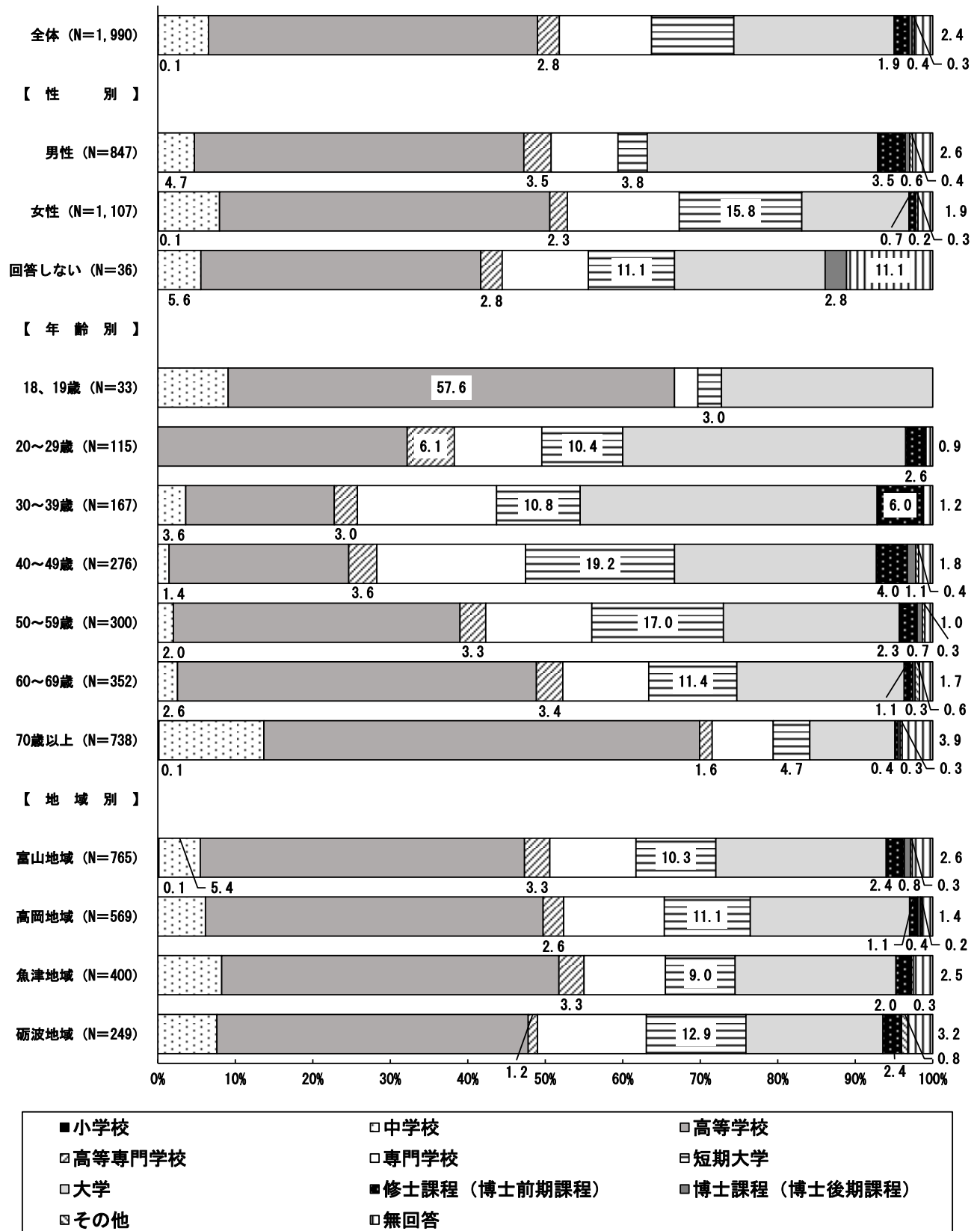
(ウ) 年齢別

- ・「20～29歳」、「30～39歳」は、「大学」が3割以上と他の年代と比べて高くなっている。
- ・「60～69歳」、「70歳以上」は、「高等学校」が4割以上と他の年代と比べ高くなっている。

(エ) 地域別

- ・地域間に大きな差はみられない。

図表 70. 最終学歴



<調査結果を受けて>

今回の調査結果のうち、学び直しの意識については全体で「学びたい」と回答した割合が約7割あった。年齢別に見ると年代が高くなるにつれ、「もっと学びたい・学び直したい」と回答した割合が低くなっている。学びの方法については、「あまり学費のかからないところ・方法で」と回答した割合が約5割、「自分一人で(テレビ・ラジオ・オンデマンド動画・本など)」が約3割であった。県民ひとりひとりの経済状況に関わらず、学ぶことのできる環境や、居住地や勤務形態に関わらず学ぶことのできる環境を今後整備していくことが求められる。

今後とも、年齢・国籍・居住地・経済状況に関わらず、すべての県民が学ぶことのできる「誰一人取り残さない富山県」の実現に向け、取り組んでまいりたい。